

4) 振動

(1) 振動の状況

概況調査範囲においては、国又は地方公共団体による定期的な振動調査は行われていない。

なお、道路交通振動の要請限度は表 6.2.6-19 (P.6-187 参照) に、仙台市における区域の区分指定は図 6.2.6-7 (P.6-189 参照) に示すとおりである。指定建設作業振動の規制基準は表 6.2.6-32 (P.6-199 参照) に示すとおりである。

(2) 振動に係る苦情の発生状況

振動に係る苦情は、概況調査範囲を含む宮城野区では 3 件、若林区では 2 件発生している (仙台市への情報提供依頼結果による。調査年度は平成 23 年度)。

(3) 発生源の状況

概況調査範囲のうち、重点調査範囲における振動規制法に基づく特定施設を有する事業所は、表 6.1.1-16 に示すとおりであり、圧縮機が最も多く、次いでチップパーとなっている。

また、宮城県公害防止条例に基づく特定施設を有する事業所は、表 6.1.1-17 に示すとおりであり、種類は冷凍機のみとなっている。

表 6.1.1-16 振動規制法に基づく特定施設届出状況

特定施設の種類	特定施設を有する事業所数
法) チップパー	2
法) 圧縮機	7
法) 液圧プレス	1
法) 破碎機	1

※法) は振動規制法を示す

資料：仙台市への情報提供依頼結果による (平成 24 年 7 月現在)

表 6.1.1-17 宮城県公害防止条例に基づく特定施設届出状況 (振動)

特定施設の種類	特定施設を有する事業所数
条) 冷凍機	4

※条) は宮城県公害防止条例を示す

資料：仙台市への情報提供依頼結果による (平成 24 年 7 月現在)

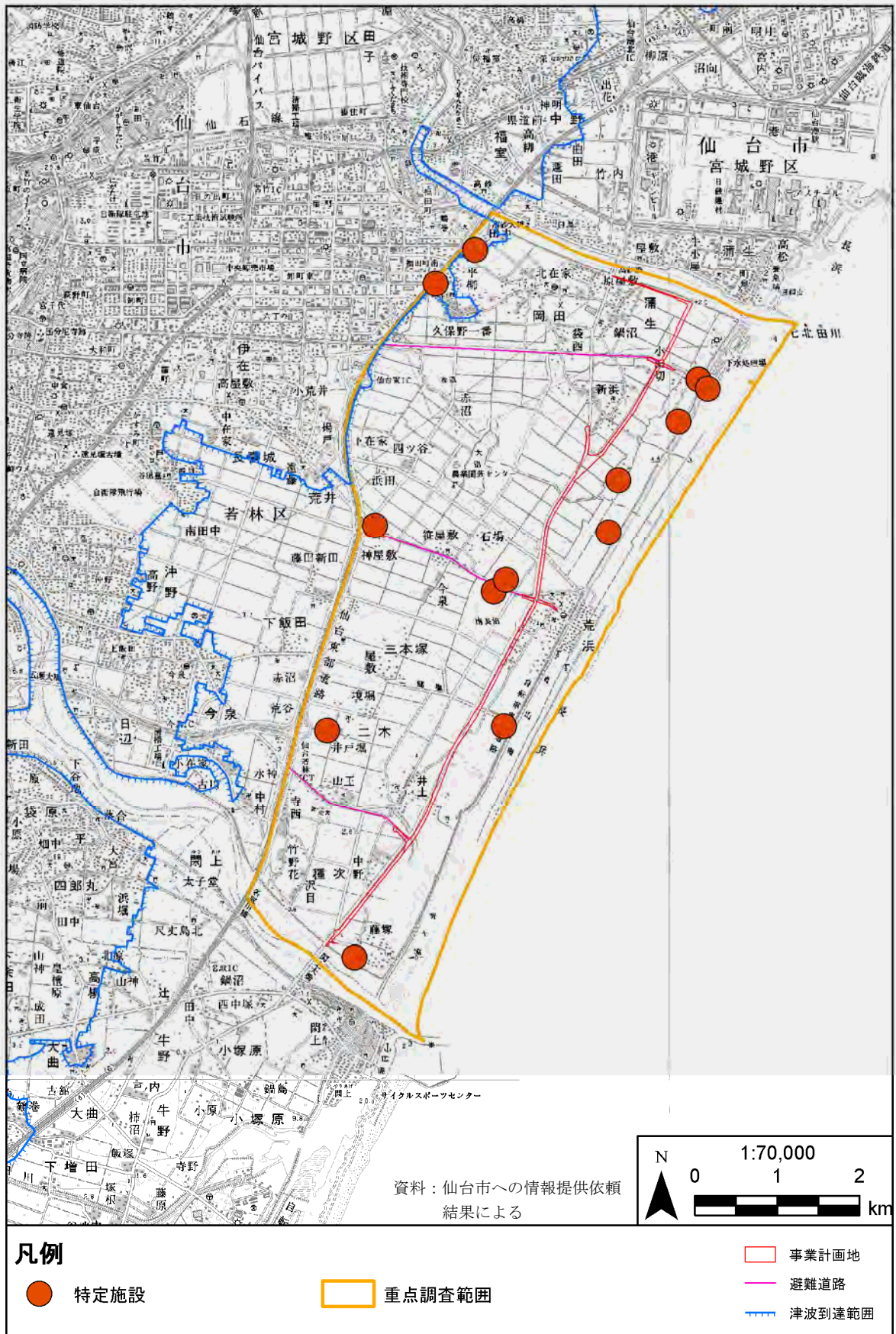


図 6.1.1-6 振動規制法・県条例に基づく特定施設の分布図

(4) 影響を受ける施設等の状況

「大気質」の項目を参照。

(5) 震災後の状況

重点調査範囲においては、震災により振動規制法に基づく特定施設はほとんどが被害を受け、平成 24 年 9 月時点では一部を除き稼働していない。

なお、主要地方道塩釜亘理線は、震災後復興事業の通過交通やがれき処理場へ向かう大型車の通行が目立ってみられる。

(6) 振動防止上の留意点

振動の発生源について、重点調査範囲においては、振動規制法に基づく特定施設を有する事業所が延べ 11 事業所、宮城県公害防止条例に基づく特定施設を有する事業所が延べ 4 事業所ある。なお、事業計画地には特定施設は存在しない。

保全上配慮が必要な施設は、事業計画地付近の学校、福祉施設、行政施設、公園及び住宅があるが、ほとんどの施設が震災により損壊している。

本事業においては、工事による資材等の運搬、重機の稼働、供用により発生する自動車の走行に伴う振動の影響が考えられるため、保全上配慮が必要な施設への影響が最小となるよう留意する。

5) 低周波音

(1) 低周波音の状況

概況調査範囲においては、国又は地方公共団体による定期的な低周波音調査は行われていない。

(2) 低周波音に係る苦情の発生状況

低周波音に係る苦情は、概況調査範囲を含む宮城野区、若林区とも発生していない（仙台市への情報提供依頼結果による。調査年度は平成 23 年度）。

(3) 発生源の状況

低周波音の発生源となりうる施設は、工場等の送風機やバーナー等の機械類があり、騒音規制法や宮城県公害防止条例に係る特定施設なども要因と考えられる（表 6. 1. 1-13～14 参照）。

(4) 影響を受ける施設等の状況

「大気質」の項目を参照。

(5) 震災後の状況

重点調査範囲においては、震災により騒音規制法に基づく特定施設はほとんどが被害を受け、平成 24 年 9 月時点では一部を除き稼働していない。

なお、主要地方道塩釜亘理線は、震災後復興事業の通過交通やがれき処理場へ向かう大型車の通行が目立ってみられる。

(6) 低周波音防止上の留意点

事業計画地には、低周波音の発生源となる施設は存在しない。

保全上配慮が必要な施設は、事業計画地付近の学校、福祉施設、行政施設、公園及び住宅があるが、ほとんどの施設が震災により損壊している。

本事業においては、低周波音を発生させる恐れのある工事、施設の稼働は行わないため、低周波音による影響は想定されない。

6) 悪臭

(1) 悪臭の状況

概況調査範囲においては、国又は地方公共団体による定期的な悪臭調査は行われていない。

(2) 悪臭に係る苦情の発生状況

悪臭に係る苦情は、概況調査範囲を含む宮城野区では 8 件発生しているが、若林区では発生していない（仙台市への情報提供依頼結果による。調査年度は平成 23 年度）。

(3) 発生源の状況

悪臭を発生するおそれのある発生源としては、南蒲生浄化センターやがれき処理場、大気汚染防止法に基づく特定施設（廃棄物焼却炉）が考えられる（表 6.1.1-9 参照）

なお、地域を特徴づける香り（自然の香りや生活・文化に密着した香り等当該地域を特徴づけたり大切にすべき香り）などは確認されなかった。

(4) 影響を受ける施設等の状況

「大気質」の項目を参照。

(5) 震災後の状況

重点調査範囲においては、震災により大気汚染防止法に基づく特定施設はほとんどが被害を受け、平成 24 年 9 月時点では一部を除き稼働していない。

なお、主要地方道塩釜亘理線周辺では、震災後に簡易処理を続けている南蒲生浄化センターやがれき処理場が存在している。

(6) 悪臭防止上の留意点

事業計画地には、悪臭の発生源となる施設は存在しない。

保全上配慮が必要な施設は、事業計画地付近の学校、福祉施設、行政施設、公園及び住宅があるが、ほとんどの施設が震災により損壊している。

本事業においては、悪臭を発生させるおそれのある工事、施設の稼働は行わないため、悪臭による影響は想定されない。

6.1.2. 水環境

1) 水質

(1) 水質の状況

概況調査範囲における水質の測定状況は以下のとおりである。生活環境の保全に係る環境基準は表 6.2.6-10～11 (P.6-178～参照) に、人の健康の保護に関する環境基準は表 6.2.6-9 (P.6-177 参照) に示すとおりである。

a) 生活環境の保全に関する項目

概況調査範囲において、環境基準の類型指定を受けている河川は、名取川下流（笹川合流点より下流はB類型）・中流（本砂金川合流点から笹川合流点まで（流入する支川を含む）はA類型）、笹川全域（C類型）、広瀬川（B類型）、七北田川（七北田川河口より梅田川分岐点まではC類型、梅田川分岐点より上流はB類型）、梅田川（C類型）である。

南貞山運河、北貞山運河、井土浦川、高野川は類型指定を受けていない河川である。また、大沼、与兵衛沼も類型指定を受けていない。

生活環境項目の平成 23 年度における測定結果は表 6.1.2-1 に、測定地点は図 6.1.2-1 に示すとおりであり、大腸菌群数について、七北田川の福田大橋と名取川の閑上大橋、広瀬川の三橋において環境基準を超過している。

なお、事業計画地には、類型指定を受けている河川はない。

表 6.1.2-1 生活環境項目の水質測定結果（平成 23 年度）

水域名	調査地点名	環境基準	pH	DO (mg/L)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)	全窒素 (mg/L)	全リン (mg/L)
七北田川	福田大橋	B	7.6	10	1.4		7	6,400	0.86	0.082
名取川	閑上大橋	B	7.3	9.8	1.4		7	11,000	0.71	0.042
広瀬川	三橋	B	7.4	11	1.6		3	10,000	0.60	0.044
B 類型の環境基準			6.5～8.5	5 以上	3 以下	—	25 以下	5,000 以下	—	—
梅田川	大田見橋	C	8.2	12	0.7		2	19,000	0.47	0.038
梅田川	福田橋	C	7.6	9.3	1.7		13	20,000	1.1	0.095
七北田川	高砂橋	C	7.8	9.9	2.3		7	6,700	0.84	0.081
旧笹川	旧笹川最下流	C	7.3	12	0.8		5	130,000	1.2	0.085
増田川	毘沙門橋	C			1.6		15			
C 類型の環境基準			6.5～8.5	5 以上	5 以下	—	50 以下	—	—	—
高野川	高野川最下流	—	7.5	8.3	1.0		15	12,000	0.85	0.078
貞山運河	七北田川合流前	—	7.5	8.4	1.6		8	14,000	1.1	0.073
貞山運河	深沼橋	—	7.5	7.8	1.8		9	7,900	1.3	0.075
貞山運河	名取川合流前	—	7.9	9.0	1.1		5	3,100	0.48	0.036
与兵衛沼	与兵衛沼池出口	—	8.1	13		13	50	14,000	1.3	0.15
大沼	大沼池出口	—	7.6	9.7		8.6	16	3,800	1.4	0.083

資料：公害関係資料集 平成 23 年度測定結果（仙台市 HP）
平成 23 年版宮城県環境白書 資料編（宮城県 HP）

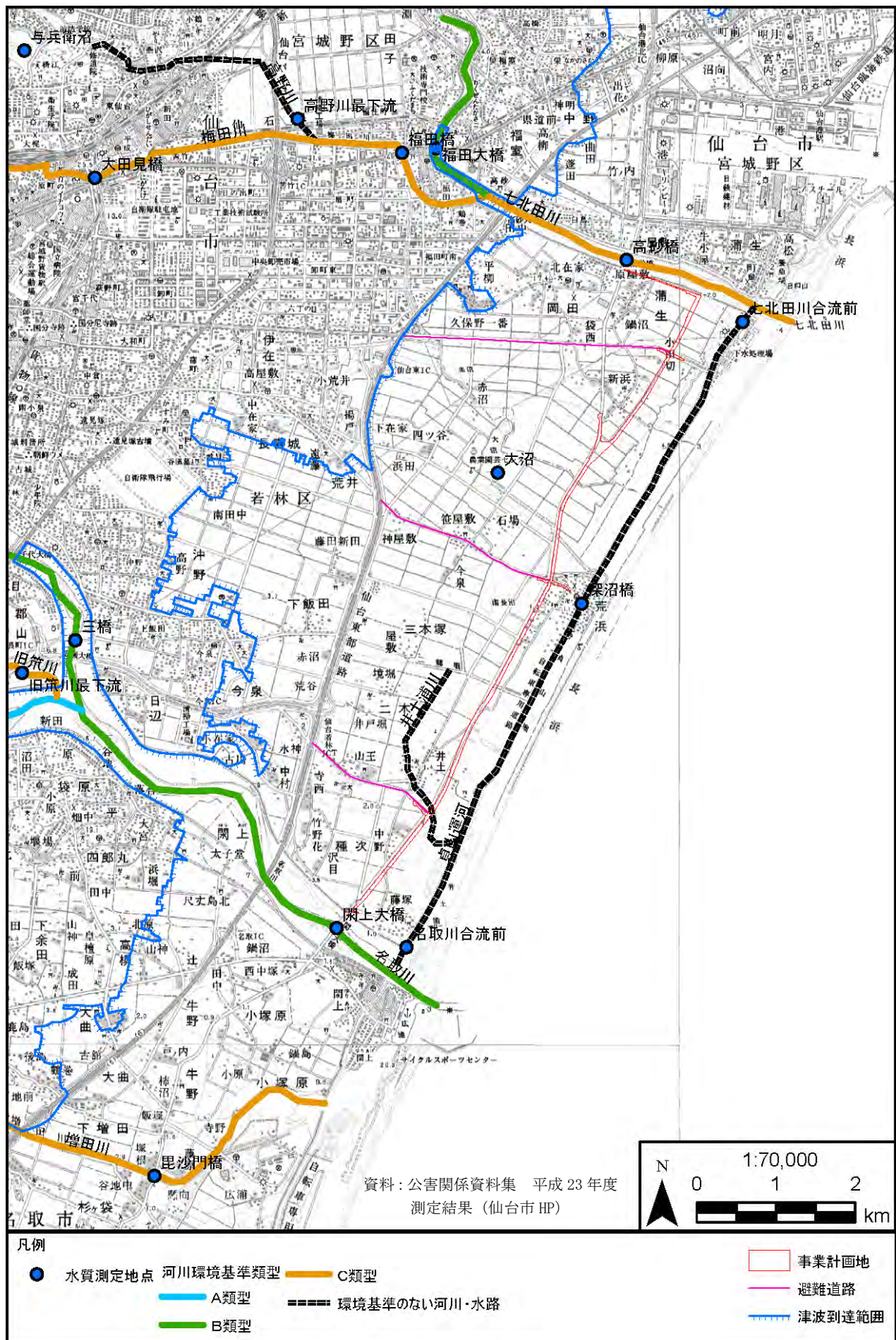


図 6.1.2-1 水質測定地点（生活環境項目）

b) 人の健康の保護に関する項目

概況調査範囲においては、人の健康の保護に関する項目に係る定期的な水質調査は、名取川（閑上大橋）、旧笹川（旧笹川最下流）、広瀬川（三橋）、七北田川（福田大橋、高砂橋）、梅田川（福田橋）、貞山運河（深沼橋）、大沼（大沼池出口）、与兵衛沼（与兵衛沼池出口）で行われている。

人の健康の保護に関する項目の平成 23 年度における測定結果は表 6. 1. 2-2 に、測定地点は図 6. 1. 2-1 に示すとおりであり、全ての地区において環境基準を達成している。

なお、事業計画地では、人の健康の保護に関する項目に係る定期的な水質調査は行われていない。

表 6. 1. 2-2(1/2) 健康項目の水質測定結果（平成 23 年度）

河川名	名取川	旧笹川	広瀬川	七北田川	七北田川	環境基準 (mg/L)
調査地点名	閑上大橋	旧笹川 最下流	三橋	福田大橋	高砂橋	
カドミウム	<0.001	—	<0.001	<0.001	<0.001	0.003 以下
全シアン	ND	—	ND	ND	ND	検出されないこと
鉛	<0.005	—	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
六価クロム	<0.02	—	<0.02	<0.02	<0.02	0.05 以下
砒素	<0.005	—	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
総水銀	<0.0005	—	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	—	—	—	ND	ND	検出されないこと
PCB	ND	—	ND	ND	ND	検出されないこと
ジクロロメタン	—	—	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素	—	—	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	—	—	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	—	—	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	—	—	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	—	—	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	—	—	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	—	—	<0.002	<0.002	<0.002	0.03 以下
テトラクロロエチレン	—	—	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	—	—	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
チウラム	—	—	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
シマジン	—	—	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	—	—	<0.001	<0.001	<0.001	0.02 以下
ベンゼン	—	—	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	—	—	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下
硫酸性窒素及び亜硝酸性窒素	—	1.1	0.37	0.54	0.38	10 以下
ふっ素	—	0.10	<0.08	—	—	0.8 以下
ほう素	—	0.07	0.15	—	—	1 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	—	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下

資料：公害関係資料集 平成 23 年度測定結果（仙台市 HP）

表 6.1.2-2(2/2) 健康項目の水質測定結果（平成 23 年度）

河川名	梅田川	貞山運河	大沼	与兵衛沼	環境基準 (mg/L)
調査地点名	福田橋	深沼橋	大沼池 出口	与兵衛池 出口	
カドミウム	<0.001	<0.001	—	—	0.003 以下
全シアン	ND	ND	—	—	検出されないこと
鉛	<0.005	<0.005	—	—	0.01 以下
六価クロム	<0.02	<0.02	—	—	0.05 以下
砒素	0.005	0.007	—	—	0.01 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	—	—	0.0005 以下
アルキル水銀	ND	ND	—	—	検出されないこと
PCB	ND	ND	—	—	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	—	—	0.02 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	—	—	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	—	—	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	—	—	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	—	—	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	—	—	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	—	—	0.006 以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	—	—	0.03 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	—	—	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	—	—	0.002 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	—	—	0.006 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	—	—	0.003 以下
チオベンカルブ	<0.001	<0.001	—	—	0.02 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	—	—	0.01 以下
セレン	<0.002	<0.002	—	—	0.01 以下
硫酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.59	0.43	0.39	0.24	10 以下
ふっ素	—	—	—	—	0.8 以下
ほう素	—	—	—	—	1 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	—	—	0.05 以下

資料：公害関係資料集 平成 23 年度測定結果（仙台市 HP）

(2) 水質汚濁に係る苦情の発生状況

水質汚濁に係る苦情は、概況調査範囲を含む宮城野区、若林区とも発生していない（仙台市への情報提供依頼結果による。調査年度は平成 23 年度）。

(3) 発生源の状況

概況調査範囲のうち、重点調査範囲における水質汚濁法に基づく特定施設は、表 6.1.2-3 に示すとおりであり、自動式車両洗浄施設が最も多く、次いでし尿処理施設となっている。総排出量で見ると、下水道終末処理施設が最も排出量が多く、次いでし尿処理施設となっている。

下水道法に基づく特定施設は、表 6.1.2-4 に示すとおりであり、自動式車両洗浄施設が最も多くなっている。総排出量で見ると、自動式車両洗浄施設が最も排出量が多く、次いで電気めっき施設となっている。

また、宮城県公害防止条例に基づく特定施設は、表 6.1.2-5 に示すとおりであり、ガソリンスタンドが最も多く、次いで給食施設となっている。

表 6.1.2-3 水質汚濁防止法に基づく特定施設保有事業場

特定施設番号	特定施設の種類	特定施設の数	総排出量
1	鉱業又は水洗炭業の用に供する施設	2	27.5
2	畜産食品製造業の用に供する施設	1	121.0
5	みそ、しょう油、食用アミノ酸、グルタミン酸ソーダ、ソース又は食酢の製造業の用に供する施設	1	0.0
11	動物系飼料又は有機質肥料の製造業の用に供する施設	1	0.0
17	豆腐又は煮豆の製造業の用に供する湯煮施設	1	1.0
54	セメント製品製造業の用に供する施設	1	1.0
66	電気めっき施設	2	38.0
67	洗濯業の用に供する洗浄施設	1	0.0
71	自動式車両洗浄施設	9	42.0
72	し尿処理施設	5	1173.0
73	下水道終末処理施設	1	506800.0

資料：仙台市への情報提供依頼結果による（平成 24 年 7 月現在）

表 6.1.2-4 下水道法に基づく特定事業場

特定施設番号	特定施設の種類	特定施設の数	総排出量
5	みそ、しょう油、食用アミノ酸、グルタミン酸ソーダ、ソース又は食酢の製造業の用に供する施設	2	7.0
17	豆腐又は煮豆の製造業の用に供する湯煮施設	1	0.0
66	電気めっき施設	1	200.0
67	洗濯業の用に供する洗浄施設	2	52.9
71	自動式車両洗浄施設	7	227.8

資料：仙台市への情報提供依頼結果による（平成 24 年 7 月現在）

表 6.1.2-5 宮城県公害防止条例に基づく特定施設届出状況（污水）

特定施設の種類	特定施設の数
集団給食施設（ただし学校給食法第 5 条の 2 に規定する施設のうち総床面積 500 m ² 以上を除く）	4
ガソリンスタンド営業又は自動車整備業の用に供する洗浄施設（自動式車両洗浄施設を除く）	6

資料：仙台市への情報提供依頼結果による（平成 24 年 7 月現在）

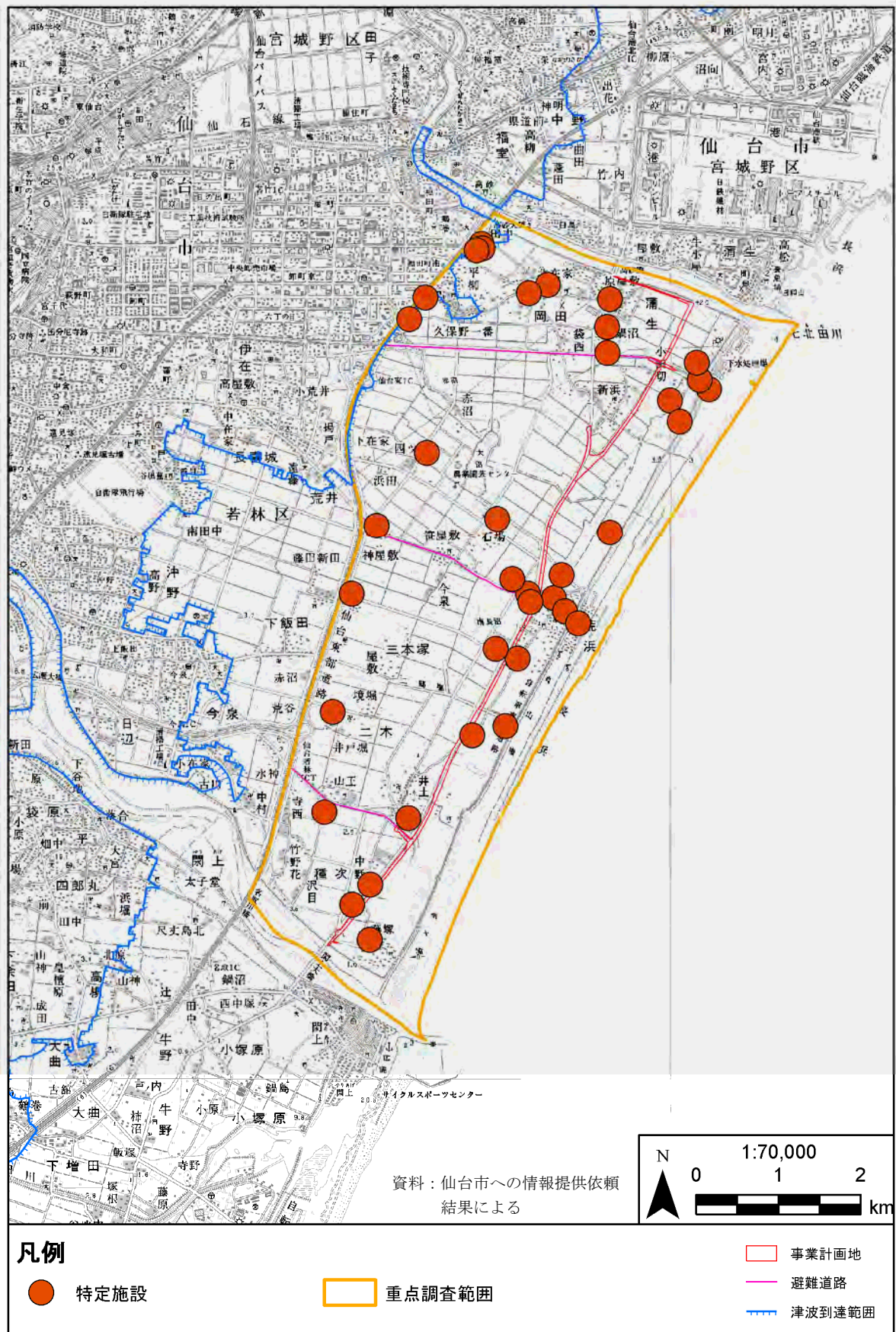


図 6.1.2-2 水質汚濁防止法・下水道法・県条例に基づく特定施設の分布図

(4) 影響を受ける施設等の状況

本事業においては、工事中の降雨時に濁水が発生する可能性があり、また、供用後には融雪剤使用に伴う pH 変化の可能性があり、下流域の水質に影響を及ぼす可能性がある。下流域に位置する施設は表 6.1.1-11、図 6.1.1-3 のとおりである。工事中のトイレ排水は域外に搬出し適切に処理する計画である。

(5) 震災後の状況

重点調査範囲においては、震災により水質汚濁防止法、下水道法に基づく特定施設はほとんどが被害を受け、平成 24 年 9 月時点では一部を除き稼働していない。

なお、井土浦川では、護岸の復旧工事のため一部で流水が堰き止められていたが、平成 24 年 10 月 1 日に開通している。

(6) 水質保全上の留意点

概況調査範囲の水象をみると、事業計画地は七北田川及び名取川の流域に属し、事業計画地を横断している農業用排水路は、南貞山運河及び北貞山運河に流入後、洪水時以外は名取川に流入する。

名取川下流の環境基準は B 類型、七北田川下流は C 類型で、両河川の水質は、生活環境項目、健康項目ともに概ね環境基準を満たしている。

本事業においては、工事中は、盛土等による裸地の発生に伴い、降雨時における下流域への濁水の影響、供用後は、融雪剤の使用に伴う下流域への pH 変化の影響が考えられるため、下流域の水質への影響を最小とするよう留意する。

2) 底質

(1) 底質の状況

概況調査範囲においては、国又は地方公共団体による定期的な底質調査は名取川（袋原堰下）、広瀬川（三橋）、七北田川（福田大橋、高砂橋）、梅田川（福田橋）で行われている。また、公共用水域の底質のダイオキシン類監視測定は、七北田川（福田大橋）、梅田川（福田橋）で行われている。底質のダイオキシン類に係る環境基準は表 6.2.6-14（P.6-183 参照）に示すとおりであり、測定値はすべて環境基準を達成している。

なお、事業計画地では、国又は地方公共団体による定期的な底質調査は行われていない。

表 6.1.2-5 河川の底質調査結果（平成 23 年度）

		名取川	広瀬川	七北田川	七北田川	梅田川
		袋原堰下	三橋	福田大橋	高砂橋	福田橋
pH	H ₂ O	6.4	7.6	7.7	7.3	7.6
	KCL	5.2	5.3	6.1	6.6	6.4
COD	(mg/kg)	2400	<2000	<2000	5000	2200
n-ヘキサン抽出物質	(mg/kg)	55	45	35	250	150
全窒素	(mg/kg)	280	60	140	820	190
全燐	(mg/kg)	290	140	210	400	270
カドミウム	(mg/kg)	0.07	0.05	<0.05	0.11	0.06
鉛	(mg/kg)	5.6	3.4	1.9	7.3	9.1
砒素	(mg/kg)	11.0	5.3	5.2	10	5.0
総水銀	(mg/kg)	0.04	0.01	<0.01	0.05	0.03
全クロム	(mg/kg)	21	11	16	18	14
硫化物	(mg/kg)	20	<20	<20	80	70
含水率	(%)	22	6	11	30	19
強熱減量	(%)	2.7	1.9	1.2	4.7	1.8

資料：公害関係資料集 平成 23 年度測定結果（仙台市 HP）

表 6.1.2-6 公共用水域の底質のダイオキシン類監視結果（平成 23 年度）

水域名		調査地点名	底質 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
七北田川	七北田川中流域	福田大橋	0.62	150
梅田川	梅田川	福田橋	1.0	

資料：公害関係資料集 平成 23 年度測定結果（仙台市 HP）

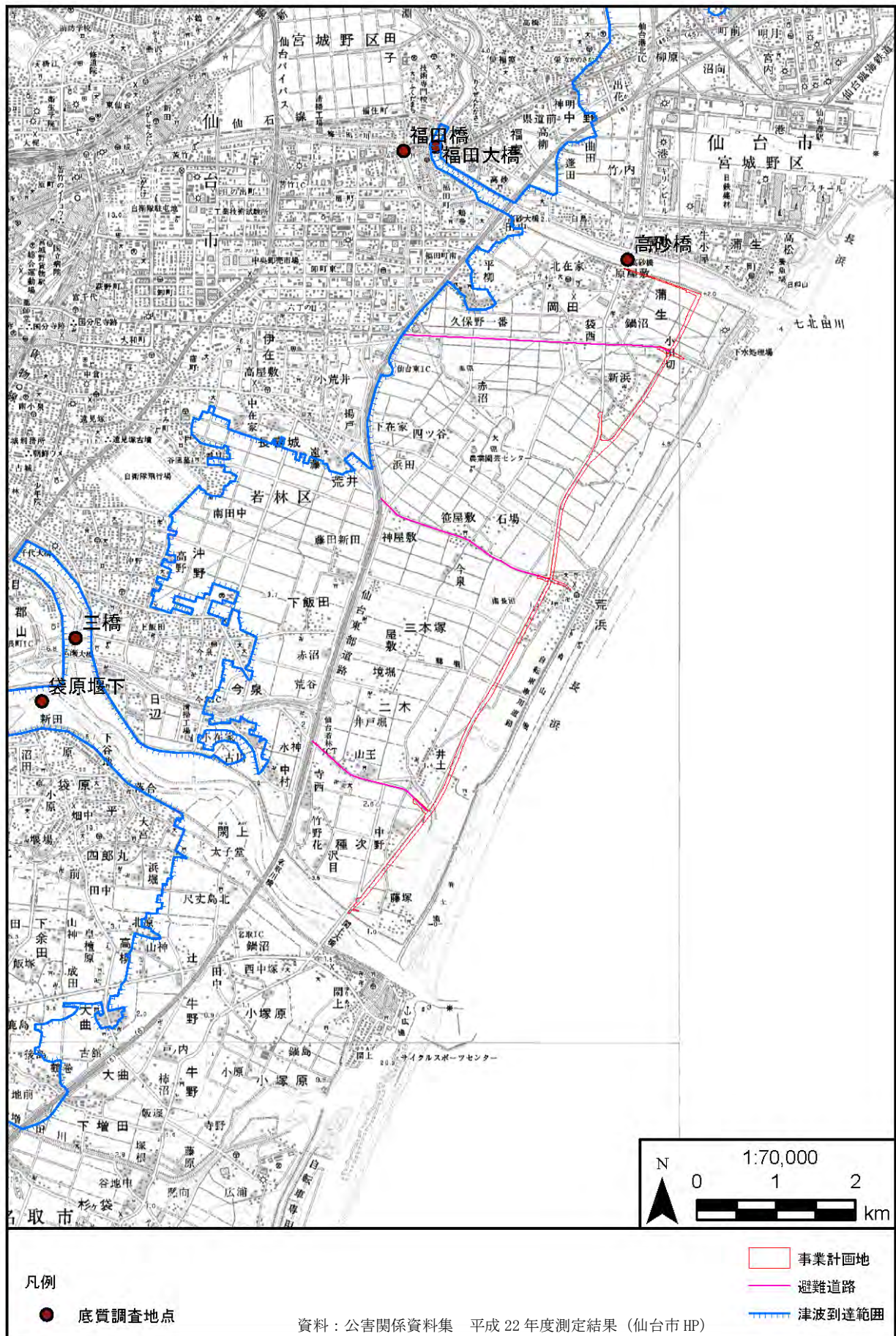


図 6.1.2-3 底質調査地点位置図

(2) 発生源の状況

底質は、公共用水域に排出される工場・事業場の排水等に伴う有害物質が蓄積することにより汚染されるものと考えられるが、底質の汚染の発生源を特定することは困難である。

なお、重点調査範囲における水質汚濁法、下水道法、宮城県公害防止条例に基づく特定施設については、「水質」を参照。

(3) 影響を受ける施設等の状況

本事業では底質の汚染を引き起こすような有害物質は使用しないため、影響を受ける施設等は想定されない。

(4) 震災後の状況

重点調査範囲においては、震災により水質汚濁防止法に基づく特定施設はほとんどが被害を受け、平成24年9月時点では一部を除き稼働していない。

なお、農業用排水路も震災の影響で水底部を含め損壊したが、一部を除き応急復旧工事が完了している。

(5) 底質保全上の留意点

概況調査範囲の底質の状況をみると、底質調査は広瀬川（三橋）、七北田川（高砂橋）で定期的に行われている。また概況調査範囲に近接する七北田川（福田大橋）で底質のダイオキシン類監視測定が行われており、測定値は環境基準を満たしている。

本事業においては、底質の汚染を引き起こすような有害物質は使用しないため、底質への影響は想定されない。

3) 地下水汚染

(1) 地下水汚染の状況

概況調査範囲においては、概況調査（環境基準項目＋要監視項目＋ダイオキシン類調査）が宮城野区で3箇所、若林区で3箇所、概況調査（環境基準項目）が宮城野区で3箇所、若林区で4箇所、太白区で1箇所行われている。また、定期モニタリング調査として、過去に環境基準を達成しなかった地点における汚染の経年変化を調べる定期的な調査を宮城野区で7箇所、若林区で4箇所行われている。

地下水の水質汚濁に係る環境基準は表6.2.6-13(P.6-183参照)に示すとおりである。一部の地区では測定値が環境基準を超過しており、事業計画地に隣接する三次メッシュコード5740-27-98では砒素が環境基準を超過している。

表6.1.2-4 地下水水質調査結果（概況調査・要監視項目調査・ダイオキシン類調査）（平成23年度）

調査項目	区・三次メッシュコード							環境基準 (mg/L)
	宮城野区	宮城野区	宮城野区	若林区	若林区	若林区		
	5740-37-07 H23.12.20	5740-37-28 H23.12.19	5741-20-80 H23.12.21	5740-27-45 H23.12.19	5740-27-48 H23.12.21	5740-27-66 H23.12.19		
水温	13.1	14.1	15.4	12.8	12.4	12.0	—	
pH	7.4	7.1	7.1	6.9	6.9	7.3	—	
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下	
全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	
鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下	
六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05 以下	
砒素	0.008	0.053	<0.005	<0.005	0.008	<0.005	0.01 以下	
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下	
アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	
PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下	
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下	
塩化ビニルモノマー	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下	
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下	
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 以下	
1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下	
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下	
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.03 以下	
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下	
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下	
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下	
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下	
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下	
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下	
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下	
硫酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.015	<0.015	0.015	1.0	0.015	1.6	10 以下	
ふっ素	0.18	0.20	0.18	<0.08	0.13	<0.08	0.8 以下	
ほう素	0.13	0.37	0.26	0.06	0.23	0.04	1 以下	
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下	

調査項目	区・三次メッシュコード							指針値 (mg/L)
	宮城野区	宮城野区	宮城野区	若林区	若林区	若林区		
	5740-37-07 H23.12.20	5740-37-28 H23.12.19	5741-20-80 H23.12.21	5740-27-45 H23.12.19	5740-27-48 H23.12.21	5740-27-66 H23.12.19		
クロロホルム	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06	
1,2-ジクロロプロパン	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06	
p-ジクロロベンゼン	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.2	
イソキサチオン	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	0.008	
ダイアジノン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005	
フェニトロチオン (MEP)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003	
イソプロチオラン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04	
オキシ銅 (有機銅)	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04	
クロロタロニル (TPN)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05	
プロピザミド	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	0.008	
EPN	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.006	
ジクロロボス (DDVP)	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	0.008	
フェノブカルブ (BPMC)	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.03	
イプロベンホス (IBP)	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	0.008	
クロロニトロフェン (CNP)	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	—	
トルエン	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	0.6	
キシレン	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.4	
フタル酸ジエチルヘキシル	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06	
ニッケル	<0.001	0.001	<0.001	0.001	0.003	<0.001	—	
モリブデン	<0.007	<0.007	<0.007	<0.007	<0.007	<0.007	0.07	
アンチモン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02	
エピクロロヒドリン	<0.00004	<0.00004	<0.00004	<0.00004	<0.00004	<0.00004	0.0004	
全マンガン	0.03	0.40	0.03	<0.02	0.70	0.19	0.2	
ウラン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002	

調査項目	区・三次メッシュコード							指針値 (mg/L)
	宮城野区	宮城野区	宮城野区	若林区	若林区	若林区		
	5740-27-98 H23.12.19	574-37-19 H23.12.19	5740-27-28 H23.12.19	5740-27-44 H23.12.21	5740-27-45 H23.12.19	5740-27-54 H23.12.21		
ダイオキシン類年平均値 (pg-TEQ/L)	0.62	0.045	0.047	0.045	0.045	0.045	1	

資料：公害関係資料集 平成23年度測定結果（仙台市HP）

表 6.1.2-5(1/2) 地下水水質調査結果（概況調査）（平成 23 年度）

調査項目	区・三次メッシュコード*	宮城野区	宮城野区	宮城野区	若林区	若林区	若林区	若林区	太白区	環境基準 (mg/L)
	調査日	5740-27-98	5740-37-19	5740-37-44	5740-27-44	5740-27-54	5740-27-72	5740-27-94	5740-27-62	
		H23.12.19	H23.12.19	H24.1.19	H23.12.21	H23.12.21	H23.12.21	H24.1.12	H23.12.21	
水温		16.2	15.4	13.3	13.5	13.3	15	13	16.0	—
pH		7.0	7.4	6.3	6.9	7.0	6.7	6.9	6.9	—
カドミウム		<0.0003	<0.0003	<0.001	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.001	<0.0003	0.003 以下
全シアン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
鉛		<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
六価クロム		<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05 以下
砒素		<0.005	0.007	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
総水銀		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
PCB		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
ジクロロメタン		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素		<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
塩化ビニルモノマー		<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン		<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン		<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン		<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.03 以下
テトラクロロエチレン		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0024	0.0028	<0.0005	0.0007	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン		<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
チウラム		<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
シマジン		<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ		<0.002	<0.002	<0.001	<0.002	<0.002	<0.002	<0.001	<0.002	0.02 以下
ベンゼン		<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下
硫酸性窒素及び亜硝酸性窒素		1.1	<0.015	0.27	0.99	4.9	5.0	0.52	2.8	10 以下
ふっ素		0.13	0.12	0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8 以下
ほう素		0.18	0.13	0.01	0.06	0.06	0.08	0.02	0.09	1 以下
1,4-ジオキサン		<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下

資料：公害関係資料集 平成 23 年度測定結果（仙台市 HP）

表 6.1.2-6(1/2) 地下水水質調査結果（定期モニタリング調査）（平成 23 年度）

調査項目	区・三次メッシュコード		宮城野区	若林区 A	若林区 B	宮城野区	宮城野区	環境基準 (mg/L)
	調査日		5740-37-24	5740-27-62	5740-27-62	5740-37-32	5740-37-46	
			H24.3.6	H24.3.6	H24.3.6	H24.3.14	H24.3.14	
水温			12.5	13.0	12.2	10.1	7.3	—
pH			6.6	6.6	6.7	7.2	6.9	—
1,1-ジクロロエチレン			<0.002	<0.002	<0.002	—	—	0.02 以下
1,1,1-トリクロロエタン			<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	—	1 以下
トリクロロエチレン			<0.002	<0.002	<0.002	—	—	0.03 以下
テトラクロロエチレン			0.0028	0.028	0.0016	—	—	0.01 以下
1,4-ジオキサン			<0.005	<0.005	<0.005	—	—	0.05 以下
塩化ビニルモノマー			<0.0002	<0.0002	<0.0002	—	—	0.002 以下
1,2-ジクロロエチレン			<0.004	<0.004	<0.004	—	—	0.04 以下
硫酸性窒素及び亜硝酸性窒素			—	—	—	1.0	10	10 以下
亜硝酸性窒素			—	—	—	0.007	0.008	—
アンモニア性窒素			—	—	—	<0.05	<0.05	—

資料：公害関係資料集 平成 23 年度測定結果（仙台市 HP）

表 6.1.2-6(2/2) 地下水水質調査結果（定期モニタリング調査）（平成 23 年度）

調査項目	区・三次メッシュコード		宮城野区	宮城野区	宮城野区	宮城野区	若林区	若林区	環境基準 (mg/L)
	調査日		5740-37-12	5740-37-13	5740-27-98	5740-37-08	5740-27-76	5740-27-86	
			H23.3.6	H24.3.6	H24.3.14	H24.3.14	H24.3.14	H24.3.14	
水温			13.2	14.8	12.0	13.6	13.7	12.7	—
pH			6.3	6.4	8.0	8.0	7.7	8.2	—
六価クロム			0.02	<0.02	—	—	—	—	0.05 以下
総クロム			0.021	0.014	—	—	—	—	—
砒素			—	—	0.016	0.008	0.023	0.031	0.01 以下

資料：公害関係資料集 平成 23 年度測定結果（仙台市 HP）

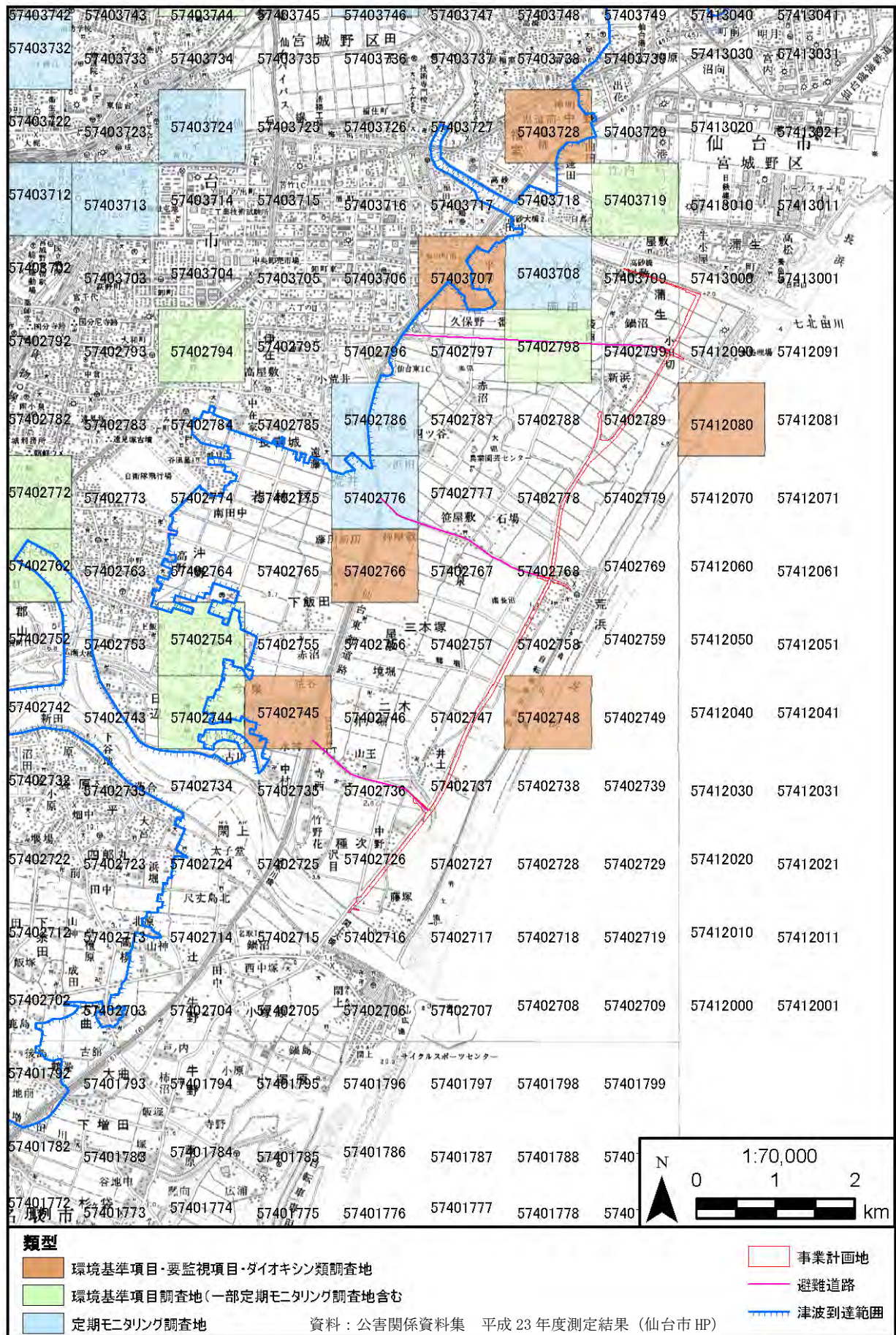


図 6.1.2-3 地下水水質調査位置図

(2) 発生源の状況

地下水汚染は、土壌汚染、水質の汚濁や大気汚染を通じて発生すると考えられ、公共用水域に排出される工場、事業場、廃棄物処理場等の排水などが発生源として挙げられるが、特定は困難である。その他、土壌や堆積物中の砒素や鉛の含有量が著しく高くなる自然由来の発生源の存在もあるとされている。

重点調査範囲及び事業計画地においては、土壌汚染対策法による有害物質使用特定施設保有事業場は存在しない。

(3) 影響を受ける施設等の状況

本事業では地下水汚染を引き起こすような有害物質は使用しないことから、影響を受ける施設等は想定されない。

(4) 震災後の状況

重点調査範囲においては、土壌汚染対策法による有害物質使用特定施設保有事業場は存在しないため、震災による被害はなかった。

なお、井戸については、地震により地下水系に影響が及んでいる可能性があると考えられる。

(5) 地下水汚染防止上の留意点

事業計画地付近では地下水水質調査（概況調査）が行われており、砒素が環境基準を達成していない地区がある。本事業においては地下部を大きく改変する計画はないものの、工事の際に地下水をかく乱しないよう留意する。

4) 水象

(1) 河川・湖沼・地下水・湧水等の分布状況

a) 河川の状況

概況調査範囲の主な河川としては、図 6.1.2-4 に示すとおり、七北田川及び支流の梅田川、名取川及び支流の広瀬川、井土浦川、南貞山運河、北貞山運河、増田川がある。

事業計画地は、井土浦川を横断しているほか、農業用排水路である鍛冶谷地堀、落堀、樋筒堀、提灯堀、大堀、北長沼堀、二郷堀、日辺排水路、藤塚排水路を横断している。井土浦川及び農業用排水路は道路交差点以外は開渠となっている。

b) 水源地

概況調査範囲には、水源地は存在しない。

c) 湧水

仙台市には、仙台城の御清水、仙台三清水とよばれた鹿子清水、山上清水等など、昔から豊富な湧水が存在している。現在も市民に親しまれている多くの湧水が存在するが、都市化の進行等により、既に消失した地点や、水量が減少した地点もある。

概況調査範囲には、湧水は存在しない。

d) 温泉

概況調査範囲には、温泉（源泉）が4ヶ所（コロナ6号、仙台七郷温泉、伊達の湯、フェニックス源泉）ある。このうち、仙台七郷温泉は現在利用されていない。

事業計画地には、温泉（源泉）は存在しない。

e) 自然性の高い水辺地（親水性のある水辺地）

概況調査範囲には、自然性の高い水辺地として、表 6.1.2-7 及び図 6.1.2-4 に示すとおり、蒲生干潟、深沼海岸、赤沼、大沼、井土浦、広浦がある。

事業計画地には、自然性の高い水辺地は存在しない。

表 6.1.2-7 親水性の高い水辺地

No.	地区	地区の概要
1	蒲生干潟	七北田川河口左岸に発達した潟。バードウォッチングやサーフィン等に利用されている。
2	深沼海岸	仙台市内唯一の海水浴場。
3	赤沼	農地の中にある沼で、釣りなどに親しまれている。
4	大沼	農地の中にある沼で、釣りなどに親しまれている。
5	井土浦	名取川河口左岸に発達した潟。ヨシ群落等が発達している。
6	広浦	名取川河口右岸に発達した潟。ヨシが生い茂り、野鳥やトンボなどの姿が見られる。

資料：1, 2, 4, 5: 「平成 15 年度自然環境基礎調査報告書」（平成 16 年、仙台市）
6: 「なとり 100 選」（名取市 HP）、3: 現地踏査

f) 湖沼・ため池等

概況調査範囲の湖沼・ため池は、赤沼、大沼、南長沼、井土浦、広浦がある。
事業計画地には、湖沼・ため池は存在しない。

g) 漁業権

概況調査範囲における公共用水域には、表 6.1.2-8 に示すとおり、漁業権が設定されている。
事業計画地は、漁業権が設定されている井土浦、北貞山運河の上流に位置する。

表 6.1.2-8 漁業権の設定状況

組合名	住所	漁業権が設定されている河川・湖沼	漁業の名称
広瀬名取川漁業協同組合	仙台市太白区郡山字南上河原7-2	名取川、広瀬川	あゆ漁業、こい漁業、ふな漁業、うぐい漁業、うなぎ漁業、おいかわ漁業、にじます漁業、いわな漁業、やまめ（さくらます含む）漁業
宮城県漁業協同組合仙台支所	仙台市若林区荒井字切新田12-1（仙台市農業園芸センター内）	井土浦、北貞山運河	うなぎ漁業、しじみ漁業、えさむし漁業

資料：宮城県農林水産部水産業振興課資料
漁協への聞き取り調査

(2) 影響を受ける施設等の状況

事業計画地の土地の形状の変更による雨水流出量の変化に伴い影響を受ける施設等は、農業用排水路及びその沿線の農地等が考えられる。

(3) 震災後の状況

重点調査範囲においては、震災により水質汚濁防止法に基づく特定施設はほとんどが被害を受け、平成 24 年 9 月時点では一部を除き稼働していない。

事業計画地周辺では、農業用排水路も震災の影響で水底部を含め損壊したが、一部を除き応急復旧工事が完了している。また、井土浦川では、護岸の復旧工事のため一部で流水が堰き止められていたが、平成 24 年 10 月 1 日に開通している。

(4) 水象保全上の留意点

事業計画地は、井土浦川と農業用排水路を横断しているほか、漁業権が設定されている井土浦等の上流に位置している。

本事業においては、事業計画地の雨水は農業用排水路に排水するが、土地の形状の変更による雨水流出量の変化が想定されるため、下流域への影響に留意する。

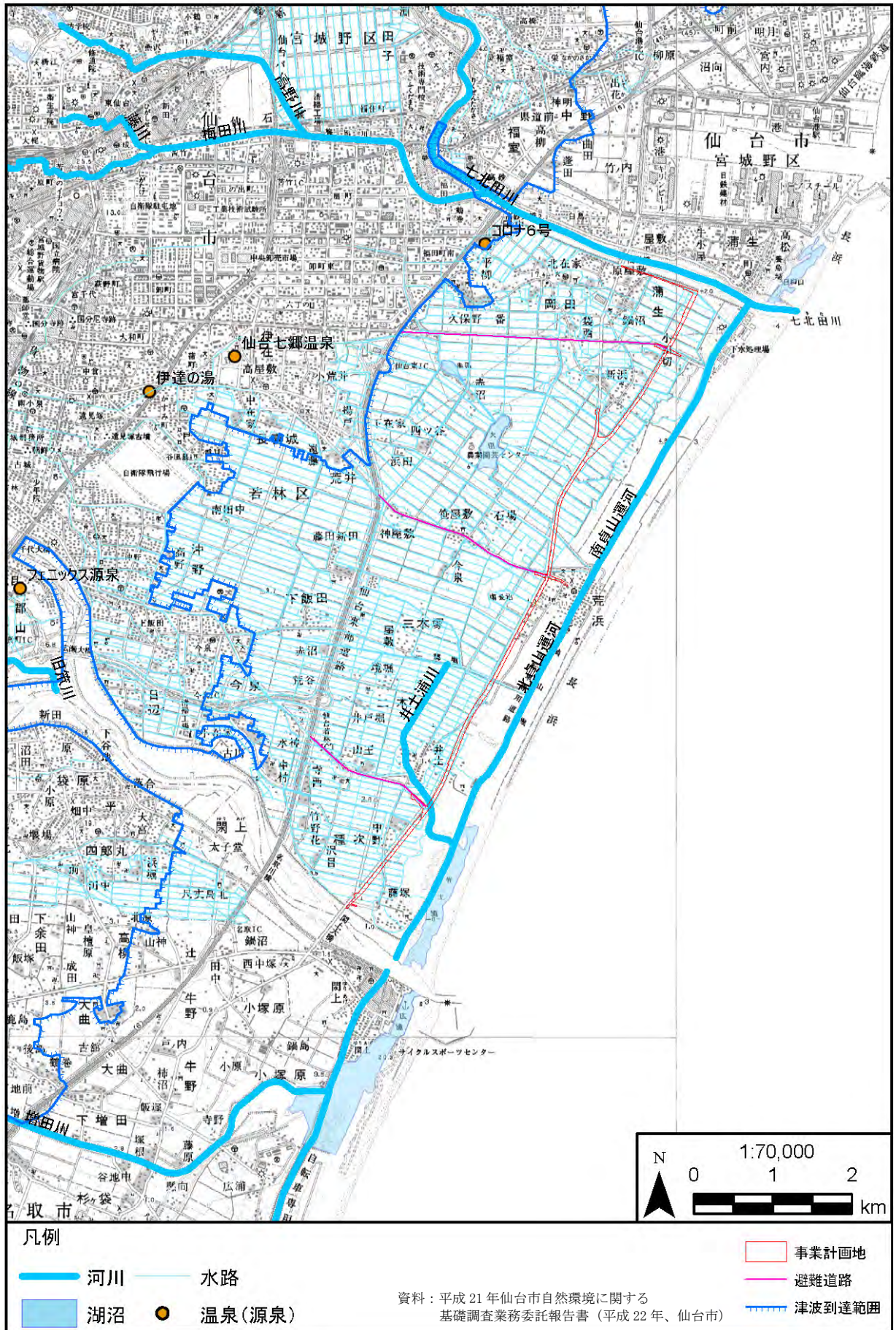


図 6.1.2-4 水象

6.1.3. 土壤環境

1) 地形・地質

(1) 地形・地質の状況

a) 地形

概況調査範囲の地形は図 6.1.3-1 に示すとおり、仙台湾の海岸線に沿って砂丘がみられ、その西側には海岸平野が分布している。

また、砂丘と海岸平野の間や海岸平野の中には自然堤防及び砂堆・浜堤が分布し、その西側に谷底平野が分布する形になっており、低地地形に分類され、西から東に傾斜している。

事業計画地は、自然堤防及び砂堆・浜堤と海岸平野に位置し、標高は概ね 1~3m でほぼ平坦な地形となっている。

b) 地質

概況調査範囲の表層地質は図 6.1.3-2 に示すとおり、未固結堆積物の砂・礫・泥や粗粒砂・泥、泥・泥炭で覆われているが、河川の河床や河岸には礫・砂が分布している。

また、汀線に沿って砂丘とこれに平行して並ぶ浜堤帯には中粒砂が分布している。

事業計画地は、粗粒砂・泥及び中粒砂の分布地となっている。



— 事業計画地 (凡例は次頁)

資料：土地分類基本調査図（仙台図幅：経済企画庁、塩釜・岩沼図幅：宮城県）

図 6.1.3-1 地形分類図

仙台図幅凡例

丘陵地	HILL LANDS
	丘頂緩斜面および丘腹緩斜面 Gentle slope on hill ridge and side
	丘麓緩斜面 Piedmont gentle slope
	急斜面 (谷密度80以上) Steep slope greater than valley density 80/Km ²
	急斜面 (谷密度80未満) Steep slope less than valley density 80/Km ²

台地	UPLANDS
砂礫台地	Gravelly uplands
	GtI (上位) Upper
	GtII* (中位) Higher middle
	GtII (中位) Middle
	GtIII* (下位) Higher lower
	GtIII (下位) Lower

岩石台地	Rocky uplands
	RtI (上位) Upper
	RtII (中位) Middle
	RtIII (下位) Lower

低地	LOWLANDS
	谷底平野 Valley plain
	自然堤防及び砂堆・浜堤 Natural levee, sandy mound and beach ridge
	海岸平野 Coastal plain
	河原および浜 Dry river-bed and beach
	砂丘 Sand dune

その他	MISCELLANEOUS
	湿地 Wet land
	泥炭地 Peat land
	地汙り地形 Landforms due to landslide
	崖 Cliff
	遷移点 Knick point
	傾斜変換線 Varied point of slope
	地形界 Boundary of landform unit
	人工平坦地界 (昭和40年5月現在) Boundary of artificially flattened area (on May, 1965)

図幅凡例

塩釜図幅凡例

丘陵地	HILLS
	周囲に急斜面を伴う丘陵地 Low hills surrounded by steep slope
	周囲に緩斜面を伴う丘陵地 Low hills surrounded by gentle slope
	頂部緩斜面 Gentle slope at top of hills
低地	LOWLANDS
	浜堤 Beach ridge
	後背湿地及び谷底平野 Back marsh and valley flat
	河原 Dry river bed
	砂浜 Sandy beach
その他	MISCELLANEOUS
	切取造成地 Artificially cut area
	埋立造成地 Artificially filled area
境界線	BOUNDARY LINE
	明瞭な境界 Defined boundary
	漸移的境界 Gradational boundary

岩沼図幅凡例

丘陵地	HILLS
	極急斜面及び崖 Very steep slope and cliff
	急斜面 Steep slope
	傾斜面 Medium slope
	緩斜面 Gentle slope
	微斜面 Very gentle slope
低地	LOWLANDS
	浜堤(発達良好な部分) Beach ridge, well developed
	浜堤(発達微弱な部分) Beach ridge, weakly developed
	自然堤防(発達良好な部分) Natural levee, well developed
	自然堤防(発達微弱な部分) Natural levee, weakly developed
	後背湿地及び谷底平野 Back marsh and valley flat
	河崖 River cliff
	河原 Dry river bed
	砂浜 Sandy beach
その他	MISCELLANEOUS
	切取造成地 Artificially cut area
	埋立造成地 Artificially filled area
	その他の造成地 Artificially graded area
	人口崖 Artificially cut cliff
境界線	BOUNDARY LINE
	明瞭な境界 Defined boundary
	漸移的境界 Gradational boundary



図 6.1.3-2 表層地質図

仙台図幅凡例

未固結堆積物 Unconsolidated sediments		礫・砂 Gravel, sand
		礫・砂 Gravel, sand
		砂・礫・泥 Sand, gravel, mud
		中粒砂 Medium sand
		粗粒砂・泥 Fine sand, mud
		泥・泥炭 Mud, peat
		礫・砂 Gravel, mud
		礫・砂・泥 Gravel, sand, mud
		礫・泥 Gravel, mud
		砂岩・亜炭 Sandstone, lignite
半固結堆積物 Semi-consolidated sediments		泥岩・亜炭 Mudstone, lignite
		泥岩・亜炭 Mudstone, lignite
		泥岩・砂岩 Mudstone, sandstone
		泥岩・亜炭 Mudstone, lignite
固結堆積物 Consolidated sediments		頁岩 Shale
		砂岩 Sandstone
		砂岩・頁岩互層 Alternation sandstone and shale
火山性堆積物 Pyroclastic sediments		礫岩・砂岩 Conglomerate, sandstone
		砂質粘板岩 Sandy slate
		ローム Loam
		浮石質凝灰岩 Pumiceous tuff
		集塊岩 Agglomerate
		安山岩質岩石 Andesite
		角礫質凝灰岩 Brecciated tuff
		角礫質凝灰岩 Brecciated tuff
		砂質凝灰岩 Sandy tuff
		集塊岩 Agglomerate
火山性堆積物 Pyroclastic sediments		安山岩質岩石 Andesite
		流紋岩質岩石 Rhyolite
		安山岩質岩石 Andesite
		安山岩質岩石 Andesite

塩釜図幅凡例

半固結堆積物 Unconsolidated Sediments		礫・砂・泥 Gravel, sand, mud
		砂 Sand
		礫・砂 Gravel, sand
		礫岩・砂岩・凝灰岩・凝灰質シルト岩・亜炭 Conglomerate, sandstone, tuff, tuffaceous siltstone, lignite
		礫岩・砂岩 Conglomerate, sandstone
		礫岩・砂岩・凝灰岩・凝灰質砂岩 Conglomerate, sandstone, tuff, tuffaceous sandstone
		シルト岩・砂岩・凝灰岩 Siltstone, sandstone, tuff
		砂岩・シルト岩・礫岩 Sandstone, siltstone, conglomerate
		凝灰質砂岩・凝灰質シルト岩・シルト岩 Tuffaceous sandstone, tuffaceous siltstone, siltstone
	固結堆積物 Consolidated Sediments	
		凝灰質砂岩・凝灰岩・礫岩 Tuffaceous sandstone, tuff, conglomerate
		凝灰質砂岩・凝灰質シルト岩・凝灰岩・火山円礫岩 Tuffaceous sandstone, tuffaceous siltstone, tuff, volcanic conglomerate
		頁岩・砂質頁岩・砂岩 Shale, sandy shale, sandstone
		石英安山岩熔岩・火山角礫岩 Dacite lava, volcanic breccia
		凝灰角礫岩・軽石凝灰岩・凝灰質砂岩 Tuff breccia, pumice tuff, tuffaceous sandstone
		安山岩質火山角礫岩・凝灰角礫岩・軽石凝灰岩 Andesite volcanic breccia, tuff breccia, pumice tuff
走向及び傾斜 Strike and dip		
岩石の種類境界 Boundary of rocks		
断層 Fault		
背斜軸 Axis of anticline		
向斜軸 Axis of syncline		
柱状断面位置 Locality of columnar section		
断面線 Line of geologic profile		

岩沼図幅凡例

未固結堆積物 Unconsolidated sediments		礫・砂 Gravel, sand
		砂 Sand
		礫・砂 Gravel, sand
		礫・砂・粘土 Gravel, sand, clay
		礫・砂 Gravel, sand
		火山灰 Ash
		礫岩・砂岩 Gravel, sand
		砂岩・凝灰質砂岩・凝灰質シルト岩 Sandstone, tuffaceous sandstone, tuffaceous siltstone
		砂岩・礫岩 Sandstone, conglomerate
	半固結堆積物 Semi-consolidated sediments	
		シルト岩・砂岩 Siltstone, sandstone
		凝灰質砂岩・礫岩・亜炭 Tuffaceous sandstone, conglomerate, lignite
		軽石凝灰岩・凝灰質砂岩・礫岩 Pumice tuff, tuffaceous sandstone, conglomerate
		凝灰質砂岩・凝灰質シルト岩・凝灰岩・礫岩・亜炭 Tuffaceous sandstone, tuffaceous siltstone, tuff, conglomerate, lignite
		礫岩・アルコウス砂岩・角礫岩 Conglomerate, arkose sandstone, breccia
		アルコウス砂岩・シルト岩・亜炭 Arkose sandstone, siltstone, lignite
		凝灰質砂岩・安山岩質円礫岩 Tuffaceous sandstone, volcanic conglomerate of andesite
		千枚岩・頁岩・砂岩 Phyllite, shale, sandstone
火山性堆積物 Pyroclastic sediments		
		火山角礫岩・凝灰角礫岩 Volcanic breccia, tuff breccia
		安山岩熔岩・玄武岩熔岩・火山角礫岩 Andesite lava, basalt lava, volcanic breccia
		軽石凝灰岩 Pumice tuff
花崗閃緑岩 Granodiorite		

(2) 注目すべき地形・地質の状況

概況調査範囲における注目すべき地形・地質の状況は、表 6.1.3-1 及び図 6.1.3-3 に示すとおりである。

事業計画地には、注目すべき地形・地質はないが、井土浦・名取川河口・七北田川河口などが近接している。

表 6.1.3-1 注目すべき地形・地質

No.	件名	選定理由	保全の状況
9	大沼、赤沼、南長沼	仙台平野の原風景を残す湖（往時の面影が失われているため選定から除外）	仙台平野がかつて一面の谷地、沼地であった名残を残す池沼であった。現在、埋立、浚渫及び護岸の整備により、オニバスなど自然度の高い植生を伴っていた往時の面影は失われている。
10	井土浦・名取川河口・七北田川河口など	潟湖・河川干潟・砂浜海岸の典型例、かつ動植物の重要な生育地	仙台湾海浜県自然環境保全地域。潟湖、河口干潟、(近世の)運河などを伴う砂浜海岸。植生的にも、また、鳥類の生息地としても重要である。
15	利府・長町	活断層地形	宮城郡利府町放森付近から仙台市太白区长町を経て太白区富田付近に至る長さ約17km、活動度がB級の活断層である。本断層は北東-南西方向の走向を示す北西上がりの逆断層で、断層崖及び低断層崖を含む撓曲崖の崖線に沿っているとされている。
16	大年寺	活断層地形	仙台市宮城野区清水沼付近から太白区三神峯に至る長さ約8km、活動度B級の活断層である。本断層は、北東-南西方向の走向を示す南東上がりの逆断層で、逆むき低断層崖に沿って認められている。

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）

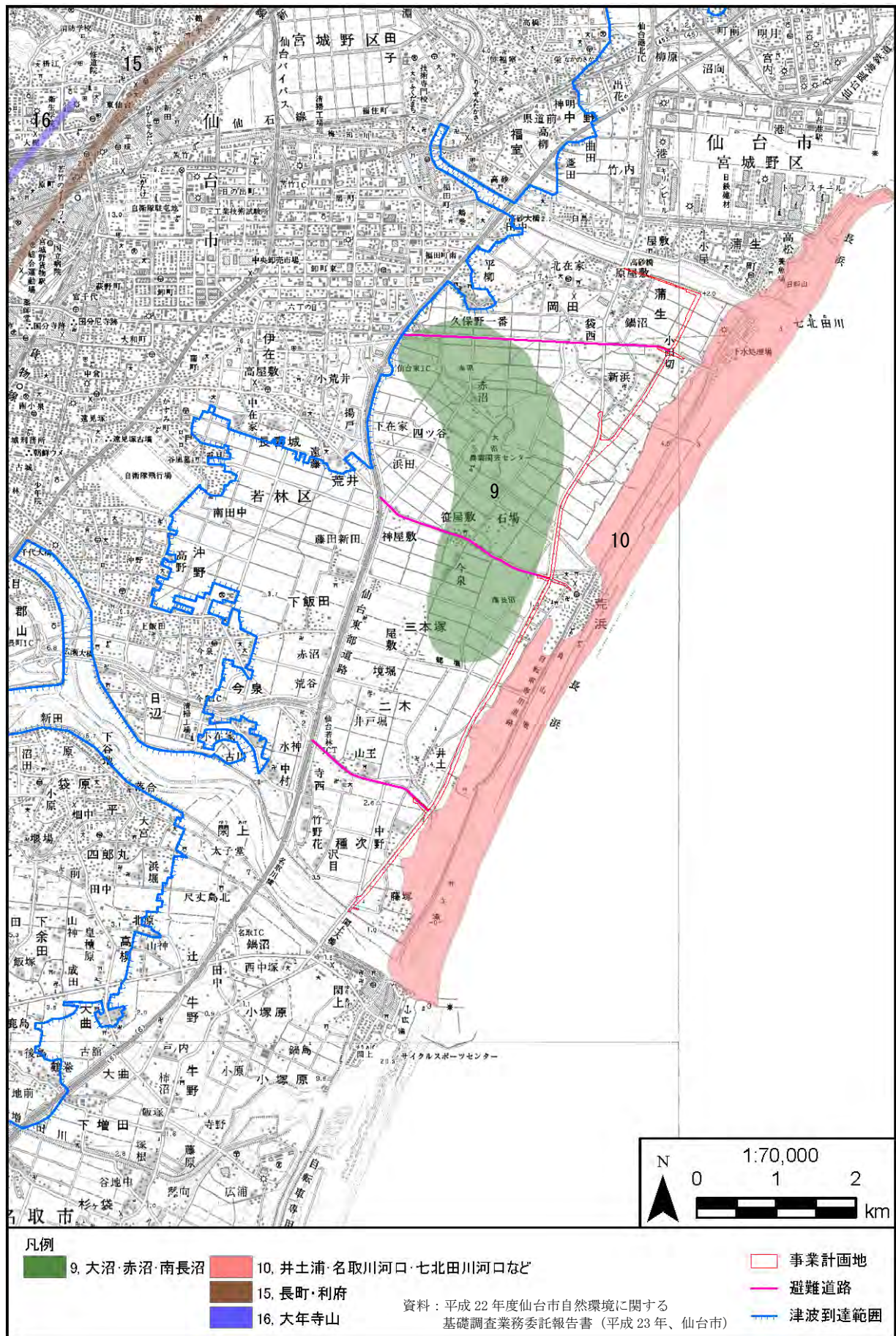


図 6.1.3-3 注目すべき地形・地質

(3) 大規模な造成を要する斜面地（30度以上の急斜面、谷密度が高い場所）

概況調査範囲における傾斜区分は、図 6.1.3-4 に示すとおり、全域が3度未満であり、30度以上の急斜面は存在しない。

事業計画地の傾斜区分も3度未満である。

(4) 災害の危険箇所

概況調査範囲には、急傾斜地崩壊危険箇所、地すべり防止区域、砂防指定地、崩壊危険箇所、地すべり危険箇所、土石流危険箇所、崩壊地、地すべり地形は存在しない。活断層として図 6.1.3-3 に示す「長町・利府」と「大年寺」の活断層地形が存在する。

事業計画地は、海岸平野が分布していることから、軟弱地盤層が広く分布していると考えられる。

(5) 影響を受ける施設等の状況

概況調査範囲には、災害の危険箇所の指定はないが、軟弱地盤層が分布していると考えられ、土地の形状変更による地盤面の沈下が想定される。

この場合、影響を受ける施設は、事業計画地付近の農地、住宅、道路等が考えられる。

(6) 震災後の状況

概況調査範囲では、次項「2)地盤沈下」に示すとおり、震災により広範囲にわたる地盤沈下が発生したほか、海岸線の形状変化があった。

(7) 地形・地質保全上の留意点

事業計画地は、ほぼ平坦な地形で、災害の危険箇所も存在しないが、表層地質は沖積層の砂及び粘土の分布地となっており、軟弱地盤層の分布が想定される。

本事業においては、地質調査により地層構成や地盤の強度を把握するなどして、土地の安定性の確保に留意する。

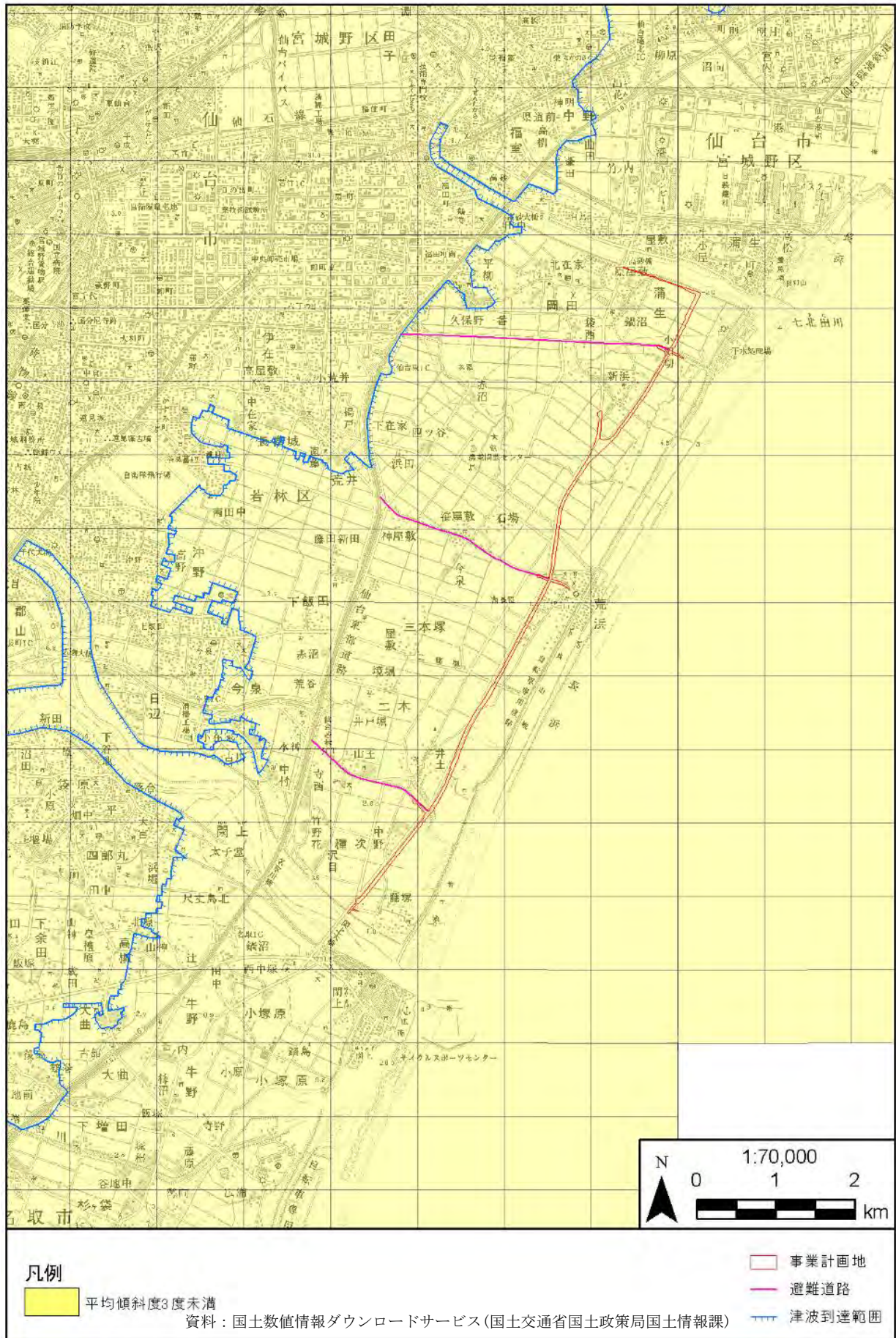


図 6.1.3-4 傾斜度分布図

2) 地盤沈下

(1) 地盤沈下の状況

概況調査範囲の地盤沈下の状況は、図 6.1.3-5 の累積変動量に示すとおり、全域にわたり地盤沈下がみられる。

事業計画地は昭和 49 年から平成 22 年までの間に 6cm から 10cm 以上の地盤沈下があった地域に属する。

また、概況調査範囲では、宮城県公害防止条例及び工業用水法において地下水の揚水が制限されており、事業計画地は工業用水法の規制に含まれている。地下水採取規制地域の位置は、図 6.1.3-5 に示すとおりである。

(2) 地盤沈下に係る苦情の発生状況

地盤沈下に係る苦情は、概況調査範囲を含む宮城野区、若林区とも発生していない（仙台市への情報提供依頼結果による。調査年度は平成 23 年度）。

(3) 地盤沈下の原因

地盤沈下の主な原因としては、軟弱な粘土層が分布している地域等において、大量の地下水を取水する場合や、工作物の建設等に伴う地盤の圧密などが挙げられる。

事業計画地周辺における地盤沈下については、日の出町や扇町等の工場が建ち並ぶ場所での工業用水の取水が大きな地盤沈下を招いたため、現在では前述のとおり、地下水の揚水が制限されている。

(4) 影響を受ける施設等の状況

事業計画地は軟弱な粘土層の分布が想定されるため、盛土に伴う圧密沈下による影響が考えられる。

この場合、影響を受ける施設等は、計画地に隣接する農地、住宅、道路等が考えられる。

(5) 震災後の状況

東日本太平洋沖地震に伴う地殻変動により、宮城県の沿岸部では広範な地盤沈下が発生している。国土地理院の発表による基準点の地盤沈下量は、東松島市で-38~-47cm、岩沼市及び亘理町で-20~-47cm の変動がみられる。

事業計画地付近では、図 6.1.3-6 に示すとおり、地盤沈下量は概ね-20~-80cm であり震災後に全体的に沈下している傾向がみられる（震災後の標高データについては、一部に推計値を採用している箇所がある）。

(6) 地盤沈下防止上の留意点

事業計画地は、軟弱な粘土層の分布が想定される。

本事業においては、地下水の採取は行わないが、盛土に伴う圧密沈下が想定されることから、地質調査により地層構成や地盤の強度を把握するなどして、地盤沈下の防止に留意する。

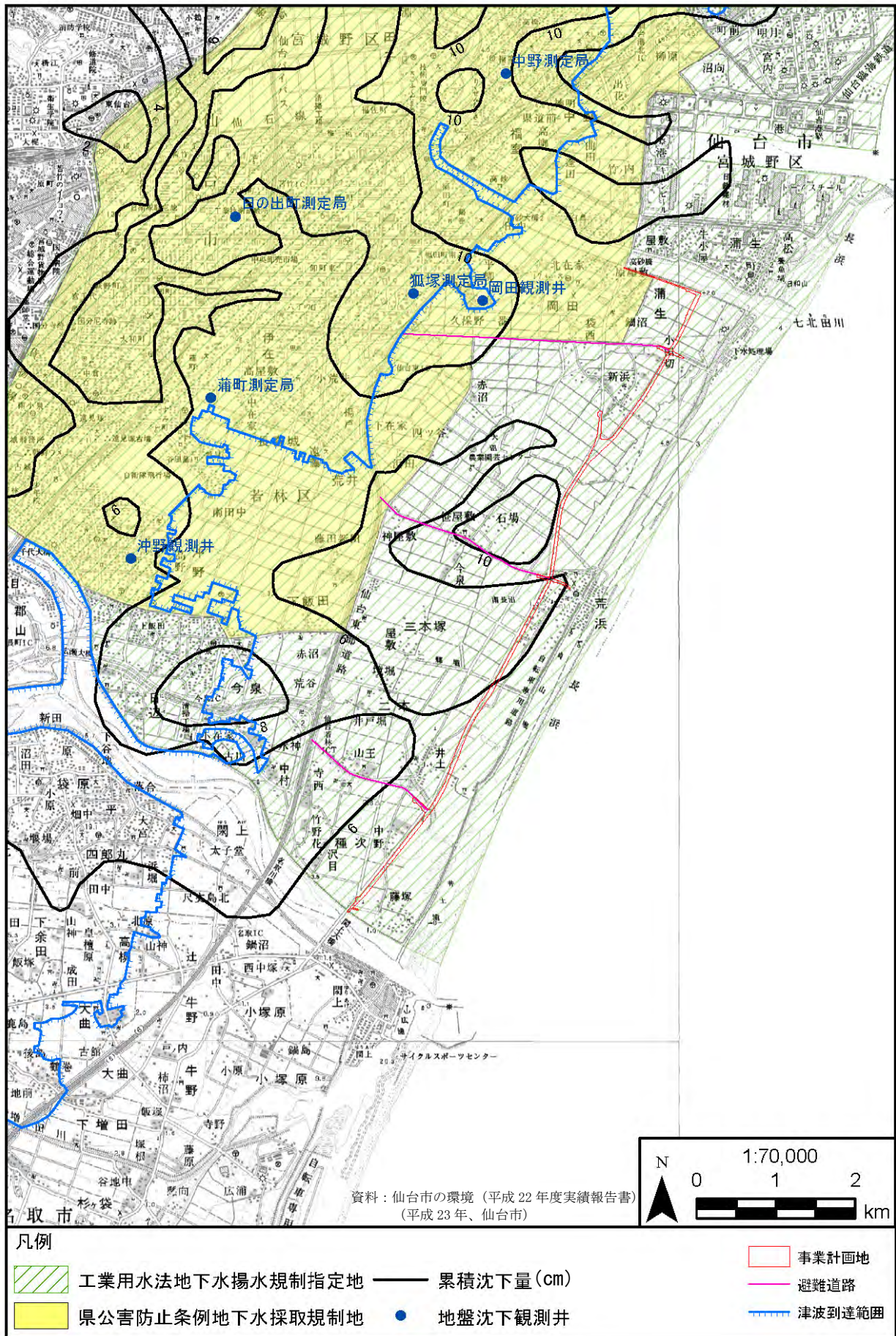


図 6.1.3-5 地下水揚水規制及び累積地盤沈下量



図 6.1.3-6 東日本大震災による地盤沈下量区分図

資料：東北農政局「平成 23 年度農地・農業用施設等緊急調査 仙台東地区排水対策検討業務報告書」（平成 24 年 3 月）

3) 土壌汚染

(1) 土壌汚染の状況

概況調査範囲においては、蒲生仮設焼却炉周辺、荒浜仮設焼却炉周辺、井土仮設焼却炉周辺でダイオキシン類に係る土壌汚染の測定が行われている。測定結果は表 6.1.3-2 に示すとおりである。土壌のダイオキシン類に係る環境基準は表 6.2.6-14 (P.6-199 参照) に示すとおりであり、全ての地区で環境基準を達成している。

なお、事業計画地では、定期的な土壌調査は行われていない。

表 6.1.3-2 土壌のダイオキシン類調査結果 (平成 23 年度)

調査地点	地点所在地	測定結果 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
蒲生仮設焼却炉周辺 (岡田ポンプ場)	宮城野区蒲生字中通	17	1,000
荒浜仮設焼却場周辺 (荒浜道路脇)	宮城野区岡田字新浜中通	4.1	
井土仮設焼却場周辺 (二郷堀脇)	若林区井土字二郷堀	4.3	

資料：公害関係資料集 平成 23 年度測定結果 (仙台市 HP)

(2) 土壌汚染に係る苦情の発生状況

土壌汚染に係る苦情は、概況調査範囲を含む宮城野区、若林区とも発生していない (仙台市への情報提供依頼結果による。調査年度は平成 23 年度)。

(3) 発生源の状況

重点調査範囲及び事業計画地において、土壌汚染対策法に基づく有害物質使用特定施設保有事業場は存在しない。

(4) 土地利用の履歴

重点調査範囲において、過去の土地利用履歴をみると、江戸時代の新田開発よりほとんどが農地となっており、昭和 40 年代よりほ場整備が行われている。土壌汚染を発生させるような土地利用の履歴はない。

事業計画地は、主要地方道塩釜亘理線及び農地、住宅となっている。

(5) 影響を受ける施設等の状況

本事業では盛土材として津波堆積物等を使用する可能性があり、搬入土に有害物質が含まれていた場合、土壌汚染を引き起こす可能性がある。その場合、影響を受ける施設等について事業計画地付近より抽出した結果は、表 6.1.1-11 及び図 6.1.1-3 に示すとおりである。

(6) 震災後の状況

重点調査範囲においては、土壌汚染対策法による有害物質使用特定施設保有事業場は存在しないため、震災による被害はなかった。

(7) 土壌汚染防止上の留意点

事業計画地には、土壌汚染が問題化したような地歴のある箇所はない。

本事業で使用する盛土材については、搬入前にその土質について確認を行う。

6.1.4. 生物環境

1) 植物

(1) 植物相の状況

植物相の状況は、震災前については「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年、仙台市）、「平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成 16 年、仙台市）、「仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書」（平成 14 年、宮城県）に基づいて把握した。震災後については現地踏査により把握した。現地踏査は以下の日程、範囲で実施した。

表 6.1.4-1 現地踏査実施状況

項目	期日	対象範囲
植物	植物相：平成 24 年 8 月 27 日～30 日 植生：平成 24 年 8 月 27 日～30 日	事業計画地から概ね 100m の範囲

a) 文献調査結果

事業計画地付近から西側は広大な水田地帯となっており、春から秋のイネの作付中はコナギ（ミズアオイ科）、イヌビエ（イネ科）、ヒルムシロ（ヒルムシロ科）、マツバイ（カヤツリグサ科）、ミズオオバコ（トチカガミ科）、イボクサ（ツユクサ科）、ウキクサ（ウキクサ科）など、秋の収穫以降はスズメノテッポウ（イネ科）、ミノゴメ（イネ科）、タネツケバナ（アブラナ科）、ハハコグサ（キク科）などの草本類の生育が確認されていた。事業計画地の東側には帯状にクロマツ（マツ科）の植林が広がっており、その林床にはシロダモ（クスノキ科）、ヤブコウジ（ヤブコウジ科）などの常緑広葉樹の生育が確認されていた。クロマツ植林のさらに東側には帯状に海岸砂丘が広がっており、ハマニンニク（イネ科）、コウボウムギ（カヤツリグサ科）、ハマヒルガオ（ヒルガオ科）、ハマニガナ（キク科）、チガヤ（イネ科）、ハマボウフウ（セリ科）、ハマナス（バラ科）などの海浜植物の生育が確認されていた。名取川河口左岸側にある井土浦は干潟となっており、シオクグ（カヤツリグサ科）、シバナ（シバナ科）、ハマツナ（アカザ科）、ハマアカザ（アカザ科）、ホソバノハマアカザ（アカザ科）、ハマゼリ（セリ科）などの塩生植物の生育が確認されていた。水田地帯に点在する大沼などの池沼にはヨシ（イネ科）、マコモ（イネ科）などの水生植物の生育が確認されていた。七北田川や名取川の河岸には広くヨシの生育が確認されていた。文献から抽出された震災前の植物種は 868 種であった。

b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地付近の状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、事業計画地付近はほとんどが津波に運ばれた塩分を含む土砂に覆われて休耕している水田であり、イヌビエなどのイネ科やタマガヤツリなどのカヤツリグサ科が広く生育しているのが確認された。津波後にスポット的に湿地や水たまりとなった箇所ではヒメガマ（ガマ科）などの水生植物の生育が確認された。七北田川や名取川の河岸では震災前と同様に広くヨシの生育が確認された。現地踏査により確認された植物種は 221 種であった。踏査ルート

を「資料編 1. 植物」に、現地踏査により確認された 221 種については「資料編 1. 植物」の植物確認種リストの夏季の列に記載した。

c) 震災後の状況

震災前後の状況については、確認種が多いため科別で整理した。その結果は表 6.1.4-2 に示すとおりであり、確認種は 868 種から 221 種に減少した。これは震災前の調査範囲が海岸沿いの砂浜や干潟から海岸林までを含む多様な環境を対象としているのに対して、震災後の現地踏査は事業計画地付近の限定された範囲を対象としていることと、現地踏査時期が夏季のみであることに起因しており、双方を単純比較することはできない。事業計画地付近に限定すれば、震災前のように稲作が行われていた場合は、イネ以外の植物が生育できる範囲は少ないが、震災後は津波に伴う塩分による影響はあるものの、稲作が行われておらず、除草などの人為的影響も無いことから、イネ以外の植物が生育できる範囲が増えており、イヌビエやタマガヤツリなどのいわゆる水田雑草の生育個体数が飛躍的に増加しているのが確認された。事業計画地付近の生育種数についての震災前の詳細なデータはないが、生育種数も一時的に増加しているものと推察される。震災後に帰化植物の個体数が増加した報告もあるが、震災前後の個体数について記載されていないため比較できない。

表 6.1.4-2(1/3) 震災前後の状況：植物相

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
ヒカゲノカズラ科	2	0	-2
イワヒバ科	2	0	-2
ミズニラ科	1	0	-1
トクサ科	2	1	-1
ハナヤスリ科	4	0	-4
ゼンマイ科	3	0	-3
コケシノブ科	2	0	-2
コバノイシカグマ科	1	0	-1
イノモトソウ科	2	0	-2
チャセンシダ科	2	0	-2
シシガシラ科	1	0	-1
オシダ科	21	0	-21
ヒメシダ科	5	0	-5
メシダ科	13	1	-12
ウラボシ科	4	0	-4
デンジソウ科	1	0	-1
サンショウモ科	1	0	-1
アカウキクサ科	1	0	-1
マツ科	6	0	-6
スギ科	1	0	-1
ヒノキ科	7	0	-7
イチイ科	1	0	-1
ツチトリモチ科	1	0	-1
クルミ科	1	0	-1
ヤナギ科	9	0	-9
カバノキ科	7	0	-7
ブナ科	11	0	-11
ニレ科	4	1	-3
クワ科	7	4	-3
イラクサ科	6	0	-6
タデ科	30	15	-15
ヤマゴボウ科	1	1	0
ザクロソウ科	1	0	-1
ハマミズナ科	1	0	-1
スベリヒユ科	1	1	0
ナデシコ科	20	3	-17
アカザ科	13	2	-11
ヒユ科	4	2	-2
シキミ科	1	0	-1
クスノキ科	4	1	-3
キンボウゲ科	13	2	-11
シラネアオイ科	1	0	-1
メギ科	2	0	-2
アケビ科	3	1	-2
ツヅラフジ科	1	0	-1
スイレン科	2	0	-2
マツモ科	1	0	-1
ドクダミ科	1	1	0
ウマノスズクサ科	1	0	-1
ボタン科	1	0	-1

表 6.1.4-2(2/3) 震災前後の状況：植物相

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
マタタビ科	1	0	-1
ツバキ科	4	1	-3
オトギリソウ科	2	0	-2
モウセンゴケ科	2	0	-2
ケシ科	5	0	-5
アブラナ科	9	3	-6
ベンケイソウ科	2	0	-2
ユキノシタ科	7	0	-7
トベラ科	1	0	-1
バラ科	37	5	-32
マメ科	37	16	-21
カタバミ科	3	1	-2
フウロソウ科	1	0	-1
トウダイグサ科	4	3	-1
ユズリハ科	1	0	-1
ミカン科	3	1	-2
ニガキ科	1	0	-1
ヒメハギ科	1	0	-1
ドクウツギ科	1	0	-1
ウルシ科	3	2	-1
カエデ科	4	0	-4
モチノキ科	3	0	-3
ニシキギ科	7	3	-4
クロウメモドキ科	2	0	-2
ブドウ科	6	4	-2
シナノキ科	1	0	-1
アオイ科	0	1	1
アオギリ科	1	0	-1
グミ科	2	0	-2
スマレ科	5	0	-5
ウリ科	5	4	-1
ミソハギ科	3	1	-2
ヒシ科	2	0	-2
アカバナ科	5	3	-2
アリノトウグサ科	3	1	-2
ミズキ科	3	0	-3
ウコギ科	10	2	-8
セリ科	15	2	-13
イチヤクソウ科	3	0	-3
ツツジ科	8	0	-8
ヤブコウジ科	2	0	-2
サクラソウ科	5	1	-4
イソマツ科	1	0	-1
カキノキ科	1	0	-1
エゴノキ科	1	0	-1
ハイノキ科	1	0	-1
モクセイ科	10	0	-10
マチン科	1	0	-1
リンドウ科	7	0	-7
ミツガシワ科	1	0	-1

表 6.1.4-2(3/3) 震災前後の状況：植物相

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
キョウチクトウ科	1	0	-1
ガガイモ科	4	1	-3
アカネ科	8	2	-6
ヒルガオ科	3	6	3
ムラサキ科	5	1	-4
クマツヅラ科	1	2	1
シソ科	15	5	-10
ナス科	5	3	-2
ゴマノハグサ科	13	4	-9
タヌキモ科	3	0	-3
ハエドクソウ科	1	0	-1
オオバコ科	3	2	-1
スイカズラ科	5	1	-4
オミナエシ科	2	0	-2
キキョウ科	4	0	-4
キク科	73	33	-40
オモダカ科	2	2	0
トチカガミ科	4	1	-3
ホロムイソウ科	2	0	-2
ヒルムシロ科	3	2	-1
アマモ科	1	0	-1
イバラモ科	3	0	-3
ユリ科	21	4	-17
ヒガンバナ科	2	0	-2
ヤマノイモ科	3	2	-1
ミズアオイ科	2	2	0
アヤメ科	5	0	-5
イグサ科	9	3	-6
ツユクサ科	2	2	0
ホシクサ科	2	0	-2
イネ科	95	32	-63
ヤシ科	1	0	-1
サトイモ科	3	1	-2
ウキクサ科	2	2	0
ミクリ科	3	1	-2
ガマ科	3	3	0
カヤツリグサ科	63	14	-49
ショウガ科	1	0	-1
ラン科	16	0	-16
合計	868 種	221 種	-647 種

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）
平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年、仙台市）
仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成 14 年、宮城県）

(2) 注目すべき植物の状況

注目すべき植物の状況については、文献確認種から表 6.1.4-3 に示す注目すべき植物の選定基準に該当する種を抽出し、事業計画地の近隣で実施されている「(仮称) 仙台市荒井南土地地区画整理事業環境影響評価書」(平成 24 年 5 月、仙台市荒井南土地地区画整理組合設立準備委員会)及び「(仮称) 仙台市荒井西土地地区画整理事業環境影響評価書」(平成 24 年 6 月、仙台市荒井西土地地区画整理組合設立準備委員会)に係る注目すべき植物種を追加して把握した(荒井南及び荒井西の位置については図 2.3-2 参照)。その結果は表 6.1.4-4 に示すとおりであり、145 種の注目すべき種が抽出された。また、現地踏査で確認された注目すべき植物は表 6.1.4-5 に示すとおりであり、ミクリ、ミズオオバコなど水生植物を多く含む 6 種が確認された。

注目すべき植物の震災前後の状況は表 6.1.4-6 に示すとおりであり、震災前の 145 種から震災後の 6 種に減少した。これは植物相の状況と同様、震災前後の調査範囲や調査時期が異なることに起因しており単純に比較することはできない。事業計画地付近の状況に限定すれば、震災後はイネ以外の植物が生育できる範囲が増えていることから、注目すべき植物も一時的に増加している可能性がある。水田耕作中には目にすることが少ないミズアオイが現地踏査時に確認されたのはその一例と考えられる。

表 6.1.4-3 注目すべき植物の選定基準

番号	選定基準
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)に基づく天然記念物
②	「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物
③	「日本の絶滅の恐れのある野生生物の種のリストーレッドリスト」(平成 24 年、環境省)の掲載種
④	「宮城県の希少な野生動植物ー宮城県レッドリスト 2013 年版ー」(平成 25 年、宮城県)の掲載種
⑤	「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年、仙台市)における学術上重要種、減少種のうち東部田園及び海浜における A ランクとされている種

表 6.1.4-4(1/4) 注目すべき植物

科	種	①	②	③	④	⑤
ヒカゲノカズラ科	スギラン			VU	CR+EN	1
イワヒバ科	ヒモカズラ					1
イワヒバ科	イワヒバ					1
ミズニラ科	ミズニラ			NT	NT	1、A
ゼンマイ科	ヤシャゼンマイ				NT	1
コケシノブ科	ヒメハイホラゴケ					1
コケシノブ科	コウヤコケシノブ					1
イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ					1、2
イノモトソウ科	イノモトソウ				NT	1、2
オンダ科	ナンタイシダ				要注目	1、2
オンダ科	ハカタシダ				CR+EN	1、2
オンダ科	キヨスミヒメワラビ				VU	1、2
オンダ科	オオクジャクシダ					1
オンダ科	ニオイシダ					1、4
オンダ科	オオベニシダ					1、2
オンダ科	ギフベニシダ				CR+EN	1
オンダ科	オオイタチシダ				NT	2
オンダ科	アスカイノデ					2
オンダ科	アイアスカイノデ					2
オンダ科	イノデ					2
ヒメシダ科	ヒメワラビ					2

表 6.1.4-4(2/4) 注目すべき植物

科	種	①	②	③	④	⑤
メシダ科	オクヤマワラビ				CR+EN	1
メシダ科	シケチシダ				要注目	1、2
メシダ科	セイタカシケシダ				VU	1
メシダ科	ウサギシダ				VU	1
ウラボシ科	ヒメサジラン					1
ウラボシ科	イワオモダカ				VU	1
デンジソウ科	デンジソウ			VU	EW	1
サンショウモ科	サンショウモ			VU	NT	1
アカウキクサ科	アカウキクサ			EN	CR+EN	
マツ科	モミ					2
マツ科	キタゴヨウ					4
マツ科	ハイマツ					1、4
イチイ科	カヤ					2
ツチトリモチ科	ミヤマツチトリモチ			VU	VU	1
ヤナギ科	ネコヤナギ					4
ヤナギ科	オオバヤナギ				NT	1
カバノキ科	ハンノキ					1、4
カバノキ科	ウダイカンバ					4
カバノキ科	イヌシデ					4
ブナ科	ブナ					4
ブナ科	イヌブナ					1、4
ブナ科	アカガシ					2
ブナ科	アオナラガシワ					1、2
ブナ科	アラカシ				要注目	
ブナ科	シラカシ					2
ブナ科	ウラジログシ					2
ニレ科	エノキ					4
イラクサ科	コケミズ				NT	1
タデ科	ヤナギヌカボ			VU	要注目	1
タデ科	サデクサ				NT	
タデ科	ヌカボタデ			VU	要注目	
タデ科	ノダイオウ			VU	要注目	1、4
ザクロソウ科	ザクロソウ					1
ナデシコ科	ナンブワチガイソウ			VU	NT	1
ナデシコ科	エゾフスマ				CR+EN	1
ナデシコ科	ナガバツメクサ				DD	
アカザ科	マツナ				NT	
アカザ科	ハママツナ				NT	2
クスノキ科	ヤマコウバシ					1、2
クスノキ科	シロダモ					2
キンポウゲ科	フクジュソウ				VU	1
キンポウゲ科	レンゲショウマ					1
キンポウゲ科	カザグルマ			NT	VU	1
キンポウゲ科	トウゴクサバノオ					1
キンポウゲ科	ヒメキンポウゲ			VU	CR+EN	
キンポウゲ科	オキナグサ			VU	CR+EN	1
スイレン科	オニバス			VU	EX	1
マツモ科	マツモ					1、A
ボタン科	ヤマシャクヤク			NT	CR+EN	1
モウセンゴケ科	コモウセンゴケ				VU	
ケシ科	キケマン				VU	
ケシ科	ナガミノツルキケマン			NT		1
ケシ科	ヤマブキソウ					1

表 6.1.4-4(3/4) 注目すべき植物

科	種	①	②	③	④	⑤
ユキノシタ科	タコノアシ			NT		
バラ科	ヒロハノカワラサイコ			VU	NT	
バラ科	シロヤマブキ			EN		
バラ科	ハマナス				NT	4
バラ科	カジイチゴ					1、2
マメ科	マキエハギ				NT	1
マメ科	オオバタンキリマメ				NT	
マメ科	センダイハギ				VU	1
トウダイグサ科	ノウルシ			NT	要注目	
ユズリハ科	ユズリハ					1、2
ミカン科	ミヤマシキミ					1
モチノキ科	モチノキ				要注目	
シナノキ科	カラスノゴマ					1
スマレ科	ナガハシスマレ					1
ヒシ科	ヒメビシ			VU	CR+EN	
セリ科	ハマボウフウ					1
サクラソウ科	ウミミドリ				CR+EN	
イソマツ科	ハマサジ			NT	CR+EN	
マチン科	ヒメナエ			VU	CR+EN	
リンドウ科	ハルリンドウ				EX	
リンドウ科	イヌセンブリ			VU	VU	1
ミツガシワ科	ヒメシロアサザ			VU	VU	1、A
ムラサキ科	スナビキソウ				VU	
シソ科	ヒメハッカ			NT	CR+EN	1
シソ科	タツナミソウ				要注目	
シソ科	ナミキソウ				NT	
ゴマノハグサ科	オオアブノメ			VU	要注目	1
ゴマノハグサ科	カワヂシャ			NT	NT	1
タヌキモ科	タヌキモ			NT	CR+EN	1
タヌキモ科	ミミカキグサ				CR+EN	
タヌキモ科	ムラサキミミカキグサ			NT	NT	1、A
キキョウ科	キキョウ			VU	VU	1
キク科	シロヨモギ				CR+EN	
キク科	オナモミ			VU	VU	
トチカガミ科	ヤナギスブタ				VU	
トチカガミ科	クロモ					A
トチカガミ科	ミズオオバコ			VU	NT	1
トチカガミ科	セキショウモ				CR+EN	
ホロムイソウ科	シバナ			NT	CR+EN	
ホロムイソウ科	オオシバナ			NT	CR+EN	1
ヒルムシロ科	イトモ			NT	要注目	1
イバラモ科	イトトリゲモ			NT	NT	1、A
イバラモ科	トリゲモ			VU	CR+EN	1、A
イバラモ科	オオトリゲモ				CR+EN	1、A
ユリ科	ヒメイズイ				NT	
ミズアオイ科	ミズアオイ			NT		
アヤメ科	ノハナショウブ					1
アヤメ科	カキツバタ			NT	VU	1、A
アヤメ科	アヤメ				NT	
イネ科	ハマニンニク					1、4
イネ科	オオウシノケグサ					4
イネ科	カモノハシ					1
イネ科	アイアシ				NT	1

表 6.1.4-4(4/4) 注目すべき植物

科	種	①	②	③	④	⑤
イネ科	ケスズ					1
ミクリ科	ミクリ			NT	NT	1
ミクリ科	ヤマトミクリ			NT	CR+EN	1、A
ミクリ科	ナガエミクリ			NT	NT	1、A
カヤツリグサ科	マメスゲ				CR+EN	1
カヤツリグサ科	オオクグ			NT	NT	1
カヤツリグサ科	オニナルコスゲ				NT	
カヤツリグサ科	スジヌマハリイ			VU	VU	1
カヤツリグサ科	ナガボテンツキ				VU	2
カヤツリグサ科	ノグサ				VU	
カヤツリグサ科	イセウキヤガラ				VU	
ラン科	ハマカキラン			VU	NT	1
ラン科	ベニカヤラン					1
ラン科	ミズトンボ			VU	CR+EN	1
ラン科	クモキリソウ					1、4
ラン科	マイサギソウ				CR+EN	1
ラン科	ヤマトキシソウ				CR+EN	
ラン科	カヤラン				VU	1
	145 種	0 種	0 種	47 種	92 種	109 種

※表 6.1.4-4 の見出しの丸数字は表 6.1.4-3 に対応する。

【③④の凡例】

EX(絶滅)：既に絶滅したと考えられる種

CR+EN(絶滅危惧 I 類)：絶滅の危機に瀕している種

CR(絶滅危惧 IA 類)：ごく近い将来野生で絶滅の危険性が高いもの

EN(絶滅危惧 IB 類)：IA 類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの

VU(絶滅危惧 II 類)：絶滅の危険が増大している種

NT(準絶滅危惧)：存在基盤が脆弱な種

DD(情報不足)：評価するだけの情報が不足している種

要注目(要注目種)：現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

【⑤の凡例】

・学術上重要な植物種

1: 仙台市においてもともと希産あるいは希少である種、あるいは分布が限定されている種

2: 仙台市が分布の北限、南限となっている種、あるいは隔離分布となっている種

3: 仙台市が模式産地(タイプロカリティ)となっている種

4: その他、学術上重要な種

・減少種

A: 以前に比べて減少傾向にあるが、現在はほとんど見ることのできない種

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書(平成 23 年、仙台市)

平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書(平成 16 年、仙台市)

仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書(平成 14 年、宮城県)

(仮称) 仙台市荒井南土地地区画整理事業環境影響評価書(平成 24 年 5 月、仙台市荒井南土地地区画整理組合設立準備委員会)

(仮称) 仙台市荒井西土地地区画整理事業環境影響評価書(平成 24 年 6 月、仙台市荒井西土地地区画整理組合設立準備委員会)

表 6.1.4-5 注目すべき植物：現地踏査結果

種	①	②	③	④	⑤
エノキ					4
シロダモ					2
ミズオオバコ			VU	NT	1
ミズアオイ			NT		
アイアシ				NT	1
ミクリ			NT	NT	1
6種	0種	0種	3種	3種	5種

※表 6.1.4-5 の見出しの丸数字は表 6.1.4-3 に対応する。

【③④の凡例】

EX(絶滅)：既に絶滅したと考えられる種

CR+EN(絶滅危惧 I 類)：絶滅の危機に瀕している種

CR(絶滅危惧 IA 類)：ごく近い将来野生で絶滅の危険性が高いもの

EN(絶滅危惧 IB 類)：IA 類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの

VU(絶滅危惧 II 類)：絶滅の危険が増大している種

NT(準絶滅危惧)：存在基盤が脆弱な種

DD(情報不足)：評価するだけの情報が不足している種

要注目(要注目種)：現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

【⑤の凡例】

・学術上重要な植物種

1:仙台市においてもともと希産あるいは希少である種、あるいは分布が限定されている種

2:仙台市が分布の北限、南限となっている種、あるいは隔離分布となっている種

3:仙台市が模式産地(タイプロカリティー)となっている種

4:その他、学術上重要な種

・減少種

A:以前に比べて減少傾向にあるが、現在はほとんど見るこのできない種

表 6.1.4-6 震災前後の状況：注目すべき植物

震災前 (文献調査)	震災後 (現地踏査)
173種	6種

巨樹・巨木等については、「第4回自然環境保全基礎調査」（昭和63年、環境省）、「平成21年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成22年、仙台市）に基づいて把握した。その結果は表6.1.4-7及び図6.1.4-1に示すとおりであり、荒井地区のクワなど8箇所（うち7箇所は巨樹・巨木等と重複する）の巨樹・巨木等が確認された。これらの中で事業計画地と重複するものはない。

また、仙台市の保存樹木については、「杜の都の名木・古木」（平成21年、仙台市）に基づいて把握した。その結果は表6.1.4-8及び図6.1.4-1に示すとおりであり、照徳寺のいちょう、六郷のかやなど22箇所（うち7箇所は巨樹・巨木等と重複する）の保存樹木が確認された。これらの中で事業計画地と重複するものはない。

震災による影響の有無については、仙台市百年の杜推進課に聞き取りを行った。その結果、六郷のかや、照徳寺のいちょう、井土浜の黒松の3箇所に影響があったことが確認された。井土浜の黒松は流失、六郷のかやは枯死しており、指定解除あるいは解除手続き中とのことである。照徳寺のいちょうは樹勢が衰えているため、回復のための処置をしているとのことである。

表 6.1.4-7 巨樹・巨木等

番号	区分	地名	樹種	幹周 cm	樹高 m	独特の呼称	備考
11	単木	(銀杏町)	イチョウ	780	32	乳銀杏	国指定天然記念物 (苦竹のイチョウ)
22	単木	木ノ下	イチョウ	420	25		
23	単木	荒井	クワ	470	9		
24	単木	荒井	クロマツ	380	29	一本松	当該樹木は仙台市保存樹木としても指定をされていたが、枯死したため平成9年に指定解除となっている。
25	単木	(一本杉町)	ケヤキ	410	20		
36	単木	二木	カヤ	500	17		
39	単木	(新田)	イチョウ	350	28		
42	単木	岡田	イチョウ	500	28		

※カッコ内は原典に記載がないため、所在地から情報を補完したもの。表中の番号は図6.1.4-1に対応する

資料：第4回自然環境保全基礎調査（昭和63年、環境省）

平成21年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成22年、仙台市）

表 6.1.4-8 仙台市保存樹木

指定番号	名称	樹種	樹高 m	幹周 m	推定樹齢	備考
(1)	善應寺のきんもくせい	キンモクセイ	10.0	0.9	260年	
(2)	善応寺のいちい	イチイ	13.0	2.8	260年	
(3)	善応寺のしらかし	シラカシ	15.0	3.1	250年	
(37)	稲舟神社のもみじ	イロハカエデ	18.0	2.1	200年	
(38)	銀杏町のいちょう	イチョウ	32.0	7.8	1200年	上表11と同一
(71)	薬師堂のひいらぎ	ヒイラギ	7.0	1.6	200年	
(72)	薬師堂のあらかし	アラカシ	16.5	2.3	200年	
(73)	薬師堂のいちょう	イチョウ	25.0	4.0	350年	上表22と同一
(74)	七郷の大桑	クワ	8.5	4.7	300年	上表23と同一
(77)	聖ウルスラ学園のけやき	ケヤキ	20.0	4.2	250年	上表25と同一
(93)	古城の黒松	クロマツ	3.3	1.6	330年	
(94)	古城の臥竜梅	ウメ	8.0	1.3	360年	
(110)	六郷のかや	カヤ	17.0	3.2	300年	上表36と同一
(123)	大山祇神社のいちょう	イチョウ	21.0	3.6	200年	上表39と同一
(133)	西光寺の杉	スギ	24.0	2.4	350年	
(134)	西光寺のぎんもくせい	ギンモクセイ	5.5	1.1	350年	
(135)	照徳寺のいちょう	イチョウ	28.0	5.0	350年	上表62と同一
(139)	西光寺のあらかし	アラカシ	5.0	1.8	350年	
(140)	井土浜の黒松	クロマツ	3.0	0.9	200年	
(143)	福田町の黒松	クロマツ	6.0	1.2	350年	
(146)	若林区役所のしだれざくら	シダレザクラ	7.0	2.5	390年	
(172)	栄のぎよりゆう	ギョリュウ	4.4	0.9	130年	

※表中の番号は図6.1.4-1に対応する

資料：杜の都の名木・古木（平成21年、仙台市）

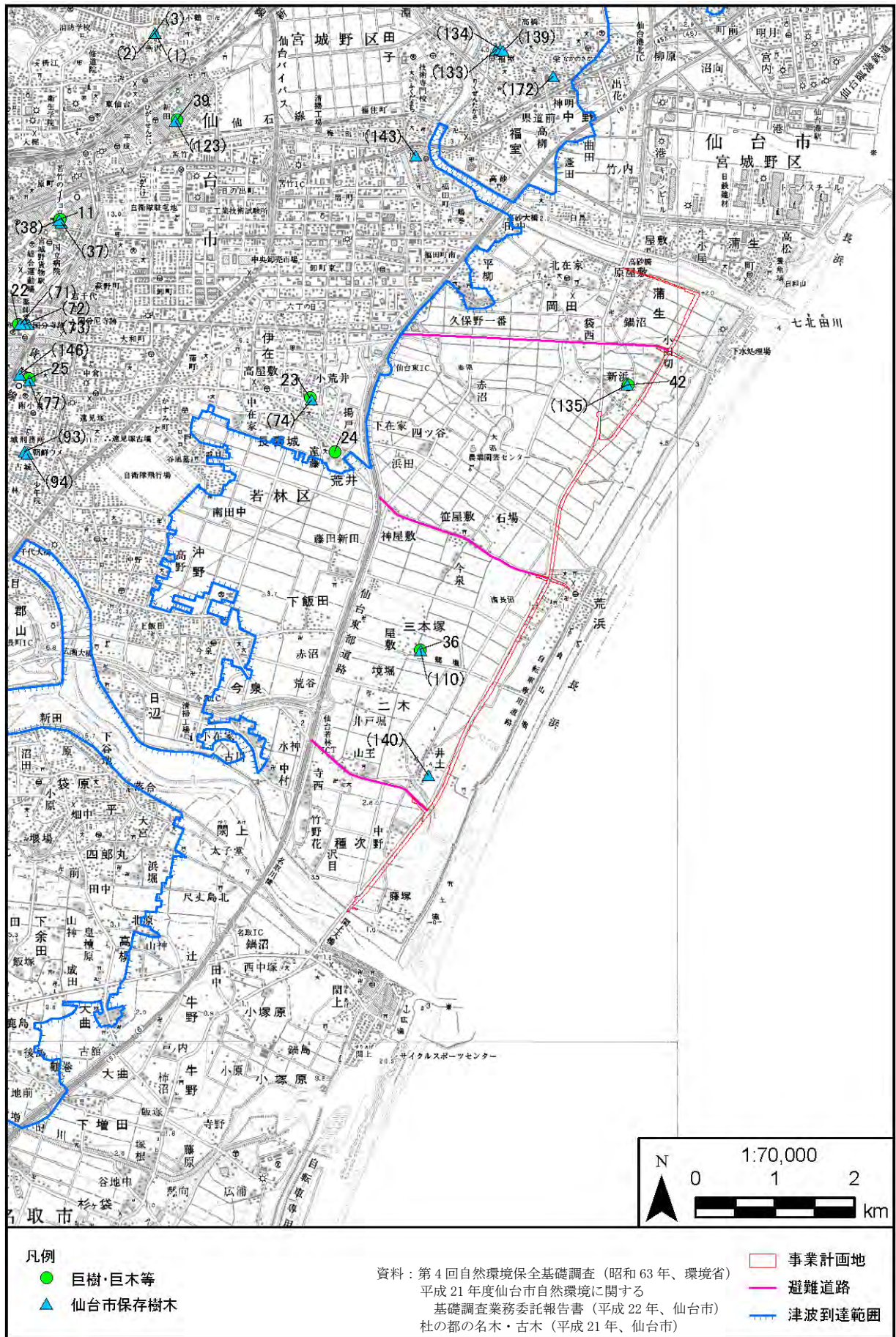


図 6.1.4-1 巨樹・巨木等位置

(3) 植生の状況

a) 文献調査結果

植生の状況については、「第6回・第7回自然環境保全基礎調査植生調査情報提供ホームページ」（環境省）に基づいて把握した。その結果は図6.1.4-2に示すとおりであり、事業計画地付近から西側には広く水田雑草群落が広がっていた。事業計画地の東側には帯状にクロマツ植林が広がっており、さらにその東側には帯状に砂丘植生や自然裸地が広がっていた。名取川河口左岸側にある井土浦周辺にはヨシクラスや塩沼地植生が分布していた。

b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地付近の植生の状況については、現地調査の結果から把握することとしており、今後植生図を作成するが、事業計画地付近のほとんどがイネ科やカヤツリグサ科の草本が優占する単調な水田跡地雑草群落であった。七北田川や名取川の河川沿いにはヨシ群落が存在していた。また、井土地区には津波後に残ったクロマツ植林がわずかに存在していた。

c) 震災後の状況

震災前後の事業計画地付近の植生は、震災前はほとんどがイネを主体とした水田雑草群落であったのに対して、震災後は主たる構成種がカヤツリグサ科やイネ科などのいわゆる水田雑草となるため、ほとんどが水田跡地雑草群落になるものと考えられる。なお、仙台市ホームページの「海岸防災林の再生」によれば、海岸公園区域内に存在していたクロマツ植林343.6haのうち307.0haが被災し、被害率75%以上の面積は134ha（40%）に及んだとのことである。

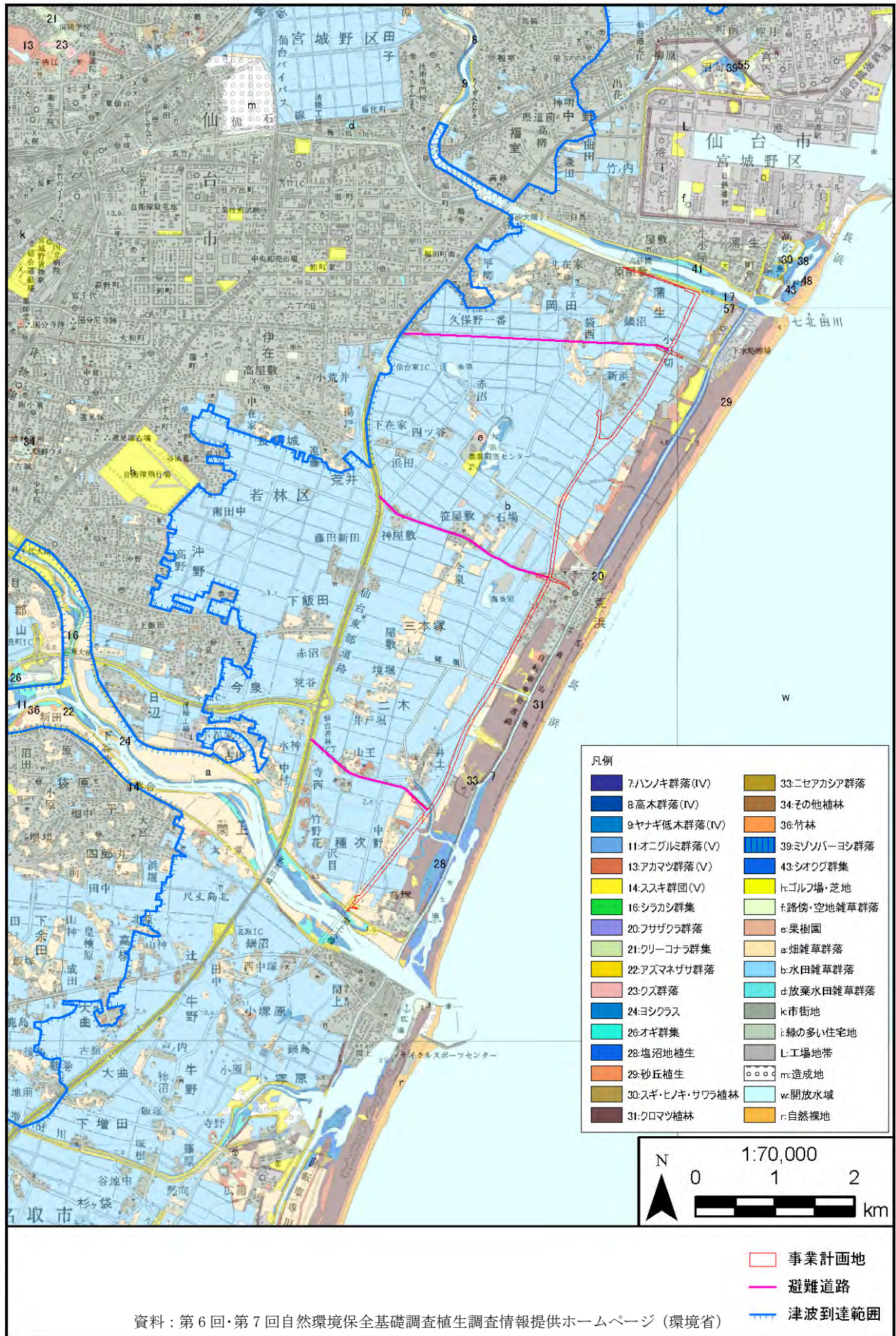


図 6.1.4-2 植生図

(4) 注目すべき植物群落

注目すべき植物群落については、「第2回自然環境保全基礎調査」（昭和54年、環境庁）の特定植物群落、「平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成23年、仙台市）に示される植物生育地として重要な地域により把握した。

その結果は表6.1.4-9、図6.1.4-3及び図6.1.4-4に示すとおりであり、8箇所が抽出された。詳細は不明であるが、これらの多くは津波の影響を受けており、震災前の状況とは変わっている可能性がある。特に仙台湾岸の海岸林は「(3)植生の状況 c)震災後の状況」に示すとおり壊滅的な打撃を受けている。南長沼の池沼植物群落については、震災前から浚渫や碎石の集積が行われており、人為的な影響があるものと考えられる。事業計画地はこれらとは重複しない。

表 6.1.4-9 注目すべき植物群落

番号	名称	選定基準	内容
4, 8	蒲生の塩生植物群落	4, 5, 6, 7	仙台湾海浜県自然環境保全地域、仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区。干潮時には干上がる地やわずかに水を冠っている地にみられるオオシバナ、ハママツナ、ハマゼリ等を含む群落である。 (特定植物群落)
1, 9	仙台湾沿岸の海岸林	7, 9	仙台湾海浜県自然環境保全地域。飛砂、潮害防備保安林。仙台港より福島県境に至る約40kmの沿岸部。藩政時代からのクロマツ林で飛砂、潮風の防備の役割も大きい。 (特定植物群落)
2, 10	仙台湾沿岸の砂浜植物群落	1, 3, 4, 5, 6	仙台湾海浜県自然環境保全地域。同上の範囲の砂浜で、もっとも海側にはハマニンニク、内側ではコウボウムギ、さらに内側ではケカモノハシを主体とする群落が形成されている。 (特定植物群落)
3, 11	井土浦の塩生植物群落	1, 3, 4, 5, 6	仙台湾海浜県自然環境保全地域。名取川河口左岸に発達する潟で、水は塩分を含む。ヨシ群落等が発達し、ハママツナ、ハマゼリ等塩生植物を産する。 (特定植物群落)
29	名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	8, 9	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。河畔植生として保護が必要。
30	七北田川下流域の河畔植生	8, 9	河畔植生として保護が必要。
31	南長沼の池沼植物群落	1, 4	仙台平野唯一の沼。近年浚渫され水生植物は見られない。現在は池沼植物の生育地としての価値が著しく減少した。
40	榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地	7, 8	段丘に沿った緑地と社寺林景観。

※表中の番号は図6.1.4-3及び図6.1.4-4に対応する。

資料：第2回自然環境保全基礎調査（昭和54年、環境庁）

平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成23年、仙台市）

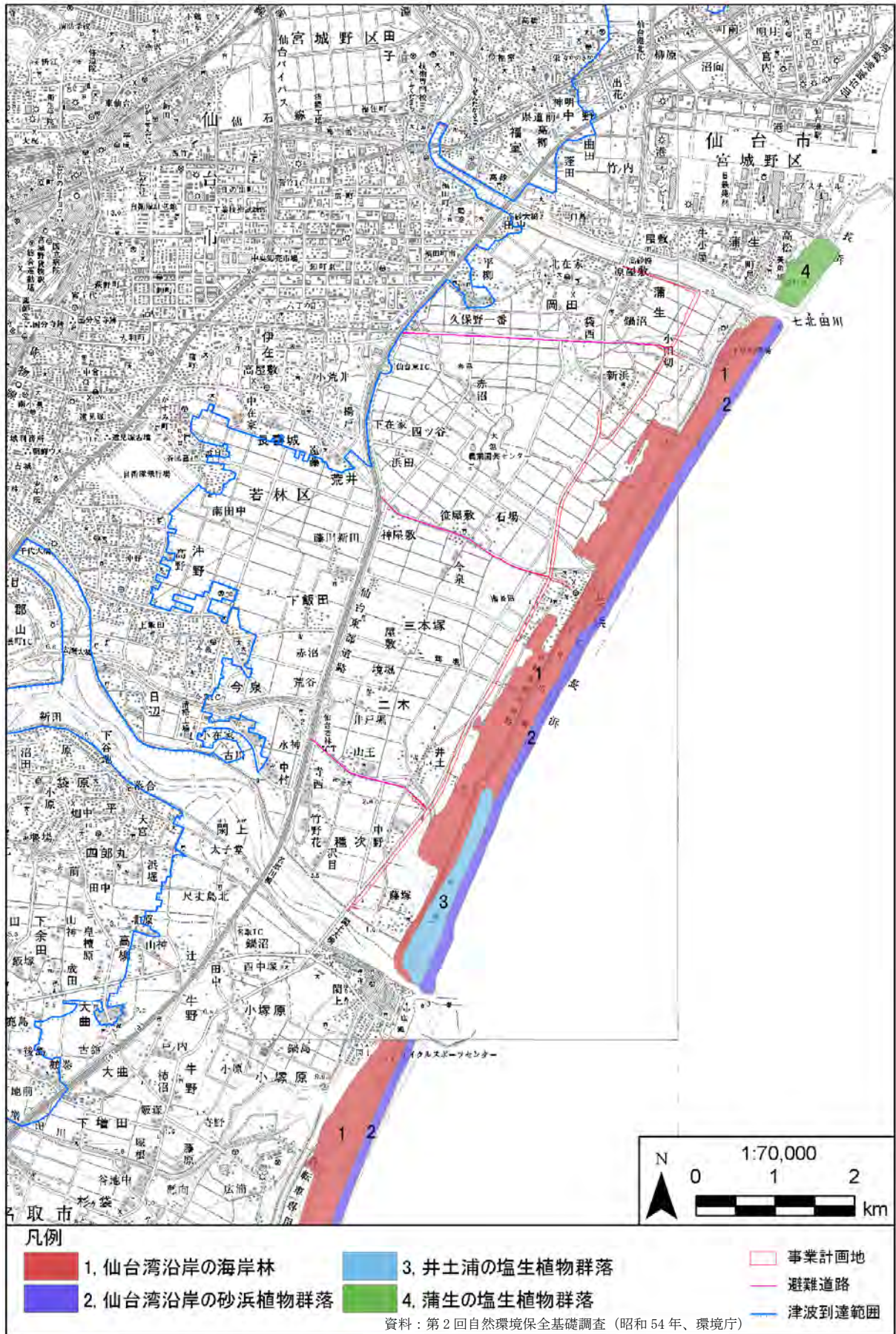


図 6.1.4-3 注目すべき植物群落（特定植物群落）

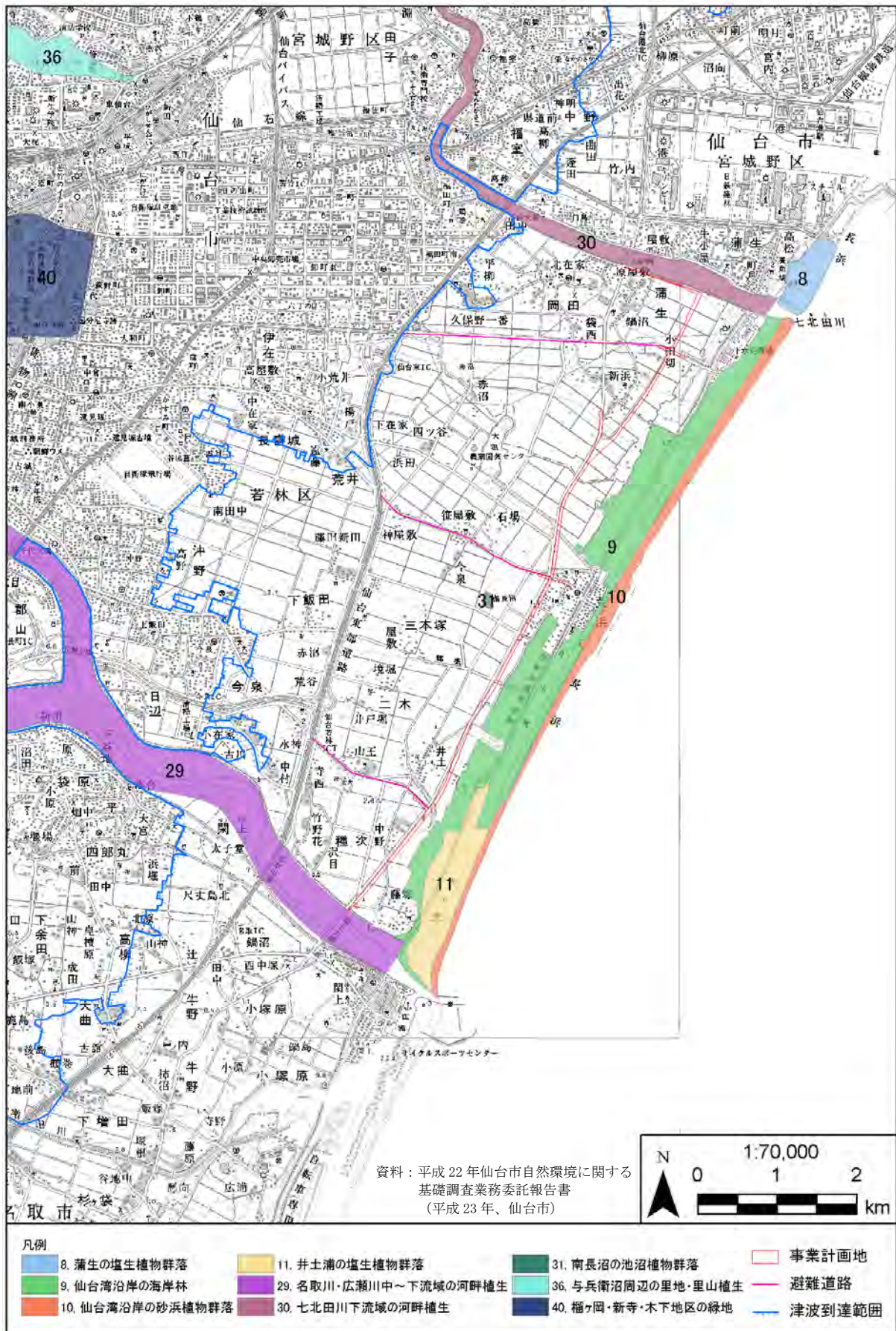


図 6.1.4-4 注目すべき植物群落（植物生育地として重要な地域）

(5) 植物についての保全上の留意点

文献調査の結果、概況調査範囲ではノダイオウ、ミズトンボなど水生植物を多く含む注目種が確認されたほか、下流の井土浦周辺ではオカヒジキやハマツナなど塩生植物の注目種が確認されている。現地踏査でも注目種としてミクリやミズオオバコなど水生植物を中心とした6種が確認されている。事業の実施にあたっては、これらの生育環境の保全に留意が必要である。巨樹・巨木や注目すべき植物群落は事業計画地に直接係るものはないが、事業計画地の起終点に七北田川と名取川の河畔植生があるほか、下流側に井土浦の塩生植物群落が存在することから、その保全に留意が必要である。

2) 動物

(1) 動物相の状況

動物相の状況は、震災前については「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年、仙台市）、「平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成 16 年、仙台市）、「仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書」（平成 14 年、宮城県）、「国指定仙台海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区指定計画書（環境省案）」（平成 18 年、環境省）、「国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区指定計画書（環境省案）」（平成 18 年、環境省）、「井土浦ハゼ科魚類生息状況調査報告書」（平成 23 年、株式会社エコリス）の資料に基づいて把握した。震災後の事業計画地付近の状況については現地踏査により把握した。現地踏査は以下の日程、範囲で実施した。現地踏査ルートを「資料編 2. 動物 (1) 現地踏査」に記載した。

事業計画地を含む概況調査範囲は、仙台平野の海岸沿いに位置しており、震災前は広大な水田地帯となっていた。広域的に見ると、このように広範囲にわたって水田環境が存在するのは、東北地方の太平洋沿岸では仙台市から山元町にかけての仙台平野だけであり、水田環境に依存する両生類や昆虫類、そしてそれらをエサとする哺乳類や鳥類、爬虫類の良好な生息場所となっていた。また、広域を移動するシギ・チドリ類などの渡り鳥の中継地としても機能していた。しかし、このような水田環境は、震災時に発生した津波により壊滅的な打撃を受け、ほぼ全面が低茎の湿性草地に置き換わった。震災前後における動物の生息状況の変化は、以下に示すとおりであり、分類群あるいは種によって震災影響の度合いは異なるものの、事業計画地及びその周辺地域では、震災後も多くの動物が確認されている。

表 6.1.4-10 現地踏査実施状況

項目	期日	対象範囲
動物	哺乳類：平成 24 年 9 月 3 日～5 日、 平成 24 年 9 月 29 日～30 日 鳥 類：平成 24 年 8 月 24 日、 平成 24 年 9 月 3 日～5 日 爬虫類：平成 24 年 9 月 3 日～5 日 両生類：平成 24 年 9 月 3 日～5 日 昆虫類：平成 24 年 9 月 3 日～5 日	事業計画地から概ね 250m の範囲
	魚 類：平成 24 年 10 月 1 日～4 日	事業計画地に係る水路 と北貞山運河

a) 哺乳類

(a) 文献調査結果

広大な水田地帯、河川沿いに広がるヨシ群落等の環境を反映し、アズマモグラ、ハタネズミ、カヤネズミなどの小型哺乳類や、タヌキ、キツネ、イタチなどの中型哺乳類が確認されていた。また、ヒナコウモリなどのコウモリ類も確認されていた。確認種数は16種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地付近の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、現地踏査ではアカネズミやハツカネズミなどの小型哺乳類が確認されたほか、タヌキやキツネなど中型哺乳類の生息が確認された。また、アブラコウモリの可能性があるコウモリ類が確認された。確認種数は6種であった。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は表 6.1.4-10 に示すとおりであり、種数は16種から6種へ減少した。個別に見ると、アカネズミなどの小型哺乳類、タヌキやキツネなどの中型哺乳類、コウモリ類は震災後にも確認されているが、アズマモグラやノウサギなどは確認されず、津波による影響からの回復度合いが種によって異なることが推察される。

表 6.1.4-10 震災前後の状況：哺乳類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
トガリネズミ科	ジネズミ	○	
モグラ科	アズマモグラ	○	
ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	○	※1
ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ	○	
ウサギ科	ノウサギ	○	
リス科	ニホンリス	○	※2
ネズミ科	ハタネズミ	○	
ネズミ科	アカネズミ	○	○
ネズミ科	ヒメネズミ		○
ネズミ科	カヤネズミ	○	
ネズミ科	ハツカネズミ	○	○
ネズミ科	ドブネズミ	○	
イヌ科	タヌキ	○	○
イヌ科	キツネ	○	○
イタチ科	テン	○	
イタチ科	イタチ	○	
ジャコウネコ科	ハクビシン	○	○
合計	17 種	16 種	6 種

※1 バットディテクターにより 45kHz 付近での反応を確認した。種の特定はできないが、生息情報や周波数からアブラコウモリの可能性がある。

※2 ニホンリスのものと考えられるオニグルミの食痕を確認したが、古いものであるため津波等によって他地域から流されてきた可能性がある。

文献調査の資料：

- ・平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）
- ・平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年、仙台市）
- ・仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成 14 年、宮城県）
- ・国指定仙台海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区指定計画書（環境省案）（平成 18 年、環境省）
- ・国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区指定計画書（環境省案）（平成 18 年、環境省）

b) 鳥類

(a) 文献調査結果

広大な水田地帯、河川沿いのヨシ群落、井土浦の干潟の環境を反映し、サギ科のダイサギやアマサギ、カモ科のカルガモやマガモ、チドリ科のコチドリやダイゼン、シギ科のキアシシギやタシギ、ヒバリ科のヒバリ、ヨシキリ科のオオヨシキリ、セッカ科のセッカ、ホオジロ科のホオジロやホオアカ、スズメ科のスズメ、ムクドリ科のムクドリといった鳥類が確認されていた。確認種数は 305 種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地付近の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、水田が湿性の低茎草地となった箇所ではセッカ科のセッカやスズメ科のスズメ、ヒバリ科のヒバリなどが確認された。スポット的に水たまりになった箇所ではサギ科のダイサギやチドリ科のコチドリ、クイナ科のバンなどが確認された。河川沿いではヨシキリ科のオオヨシキリやセキレイ科のハクセキレイ、ツバメ科のツバメなどが確認された。また、生態系上位種として、休耕中の水田周辺ではタカ科のオオタカやハヤブサ科のチョウゲンボウ、河川や海岸沿いではミサゴ科のミサゴなどが確認された。確認種数は 56 種であった。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は確認種数が多いため科別の種数で行った。その結果は表 6.1.4-11 に示すとおりであり、確認種数は 305 種から 56 種に減少した。これは震災前の調査範囲が海岸沿いの砂浜や干潟から海岸林までを含む多様な環境を対象としているのに対して、震災後の現地踏査は事業計画地付近の限定された範囲を対象としていることと、現地踏査時期が夏季のみであることに起因しており、双方を単純比較することはできない。個別に見ると、かつて海岸林に生息していたと考えられるキツツキ科やシジュウカラ科などの減少が見られることから、津波による森林性鳥類への影響が大きかったものと推察される。また、事業計画地付近は低地の水田地帯としてセッカやホオアカの繁殖地とされている(図 6.1.4-5 参照)が、現地踏査でセッカは比較的多く確認されたものの、ホオアカは確認されなかったことから、津波による環境の変化が両種の生息に影響している可能性がある。生態系上位種のアオサギなどのサギ科やオオタカなどのタカ科は震災後にも確認されていることから、これらの生息を支える生態系下位の動物(サギ科の場合は魚類や甲殻類、タカ科の場合は主に小鳥類)は多数が生息しているものと推察される。

表 6.1.4-11(1/2) 震災前後の状況：鳥類

科	震災前(文献調査)	震災後(現地踏査)	増減
キジ科	4	1	-3
カモ科	32	6	-26
カイツブリ科	5	2	-3
ハト科	3	1	-2
アビ科	4	0	-4
アホウドリ科	1	0	-1
ミズナギドリ科	7	0	-7
ウミツバメ科	2	0	-2
グンカンドリ科	1	0	-1
ウ科	4	2	-2
サギ科	13	7	-6
トキ科	3	0	-3

表 6.1.4-11(2/2) 震災前後の状況：鳥類

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
クイナ科	6	2	-4
カッコウ科	4	0	-4
ヨタカ科	1	0	-1
アマツバメ科	2	0	-2
チドリ科	12	1	-11
ミヤコドリ科	1	0	-1
セイタカシギ科	2	0	-2
シギ科	42	5	-37
タマシギ科	1	0	-1
ツバメチドリ科	1	0	-1
カモメ科	19	2	-17
トウゾクカモメ科	3	0	-3
ウミスズメ科	8	0	-8
ミサゴ科	1	1	0
タカ科	13	3	-10
フクロウ科	5	0	-5
ヤツガシラ科	1	0	-1
カワセミ科	2	0	-2
キツツキ科	4	2	-2
ハヤブサ科	4	2	-2
サンショウクイ科	1	0	-1
カササギヒタキ科	1	0	-1
モズ科	3	1	-2
カラス科	5	2	-3
クイタダキ科	1	0	-1
ツリスガラ科	1	0	-1
シジュウカラ科	4	1	-3
ヒバリ科	3	1	-2
ツバメ科	4	2	-2
ヒヨドリ科	1	1	0
ウグイス科	2	1	-1
エナガ科	1	0	-1
ムシクイ科	4	0	-4
メジロ科	1	0	-1
センニュウ科	3	0	-3
ヨシキリ科	2	1	-1
セッカ科	1	1	0
レンジャク科	1	0	-1
ゴジュウカラ科	1	0	-1
ミソサザイ科	1	0	-1
ムクドリ科	2	2	0
ヒタキ科	19	0	-19
イワヒバリ科	1	0	-1
スズメ科	2	1	-1
セキレイ科	6	2	-4
アトリ科	10	1	-9
ツメナガホオジロ科	2	0	-2
ホオジロ科	10	2	-8
カエデチョウ科	1	0	-1
合計	305 種	56 種	-249 種

文献調査の資料：

- ・平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）
- ・平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年、仙台市）
- ・仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成 14 年、宮城県）
- ・国指定仙台海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区指定計画書（環境省案）（平成 18 年、環境省）
- ・国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区指定計画書（環境省案）（平成 18 年、環境省）

c) 爬虫類

(a) 文献調査結果

広大な水田地帯の環境を反映してカナヘビやシマヘビ、アオダイショウが確認されていた。また、水路などの水辺ではクサガメが確認されていた。井土浦ではアカウミガメなどの漂着死体が確認されていた。確認種数は11種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地付近の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、現地踏査では津波の犠牲と考えられるクサガメの古い死体を確認した。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は表6.1.4-12に示すとおりであり、震災後、爬虫類は確認されず、津波による爬虫類への影響が大きかったことが推察される。

表 6.1.4-12 震災前後の状況：爬虫類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
ウミガメ科	アカウミガメ	○	
オサガメ科	オサガメ	○	
イシガメ科	ニホンイシガメ	○	
イシガメ科	クサガメ	○	※
トカゲ科	ニホントカゲ	○	
カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○	
ナミヘビ科	シマヘビ	○	
ナミヘビ科	ジムグリ	○	
ナミヘビ科	アオダイショウ	○	
ナミヘビ科	ヒバカリ	○	
ナミヘビ科	ヤマカガシ	○	
合計	11種	11種	0種

※現地踏査時にクサガメの死体を確認したが、かなり風化が進んでおり、津波の犠牲になったものが確認されたと考えられるため、種数にはカウントしなかった。

文献調査の資料：

- ・平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成23年、仙台市）
- ・平成15年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成16年、仙台市）
- ・仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成14年、宮城県）

d) 両生類

(a) 文献調査結果

広大な水田地帯の環境を反映してニホンアマガエル、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエルなどが確認されていた。確認種数は12種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地付近の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、現地踏査ではニホンアマガエルとウシガエルの2種が確認された。また、上流から流下してきた可能性があるアズマヒキガエルの死体を確認した。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は表6.1.4-13に示すとおりであり、確認種数は12種から2種へ減少した。震災前は春から夏にかけては広大な水田地帯に水が張られて、両生類の良好な生息環境となっていたものと考えられるが、震災後の稲作の休止に伴う生息環境の減少は両生類にとって大きな影響があったものと推察される。

表 6.1.4-13 震災前後の状況：両生類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
サンショウウオ科	トウホクサンショウウオ	○	
サンショウウオ科	クロサンショウウオ	○	
イモリ科	アカハライモリ	○	
ヒキガエル科	アズマヒキガエル	○	※
アマガエル科	ニホンアマガエル	○	○
アカガエル科	タゴガエル	○	
アカガエル科	ニホンアカガエル	○	
アカガエル科	トウキョウダルマガエル	○	
アカガエル科	ウシガエル	○	○
アカガエル科	ツチガエル	○	
アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	○	
アオガエル科	カジカガエル	○	
合計	12種	12種	2種

※現地踏査時にアズマヒキガエルの死体を確認したが、水路で確認されたため、上流から流下してきた可能性があるため、種数にはカウントしなかった。

文献調査の資料：

- ・平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成23年、仙台市）
- ・平成15年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成16年、仙台市）
- ・仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成14年、宮城県）

e) 昆虫類

(a) 文献調査結果

広大な水田地帯、大沼などの池沼、農業排水路などの水辺環境を反映してイトトンボ科、ヤンマ科、トンボ科、ゲンゴロウ科、イネ科害虫を含むウンカ科、ヨコバイ科、ナガカメムシ科などが確認されていた。また、河川沿いや畑地周辺の草地環境を反映して、キリギリス科、バッタ科、ヒシバッタ科、セセリチョウ科、シロチョウ科などが確認されていた。確認種数は254種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地付近の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、イトトンボ科やヤンマ科、トンボ科、ゲンゴロウ科、バッタ科などが確認された。確認種数は204種であった。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は確認種数が多いため科別の種数で行った。その結果は表6.1.4-14に示すとおりであり、種数は254種から204種へ減少した。これは鳥類と同様、震災前後の調査範囲や調査時期が異なることに起因しており、双方を単純に比較することはできない。個別に見ると、イトトンボ科やトンボ科など水域に依存する種の減少、ウンカ科やヨコバイ科など水田害虫の減少、カミキリムシ科やコメツキムシ科など森林に依存する種の減少が目立っている。一方、ガムシ科など種数の増加が見られるものもあり、震災に伴う生息環境の変化が昆虫類の確認種の増減の原因となっているものと推察される。

表 6.1.4-14(1/3) 震災前後の状況：昆虫類

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
アオイトトンボ科	2	1	-1
イトトンボ科	9	3	-6
モノサシトンボ科	1	0	-1
ヤンマ科	6	1	-5
サナエトンボ科	1	0	-1
トンボ科	14	7	-7
カマキリ科	2	1	-1
マルムネハサミムシ科	1	0	-1
クロハサミムシ科	0	1	1
クギヌキハサミムシ科	1	0	-1
オオハサミムシ科	1	1	0
ツユムシ科	0	2	2
キリギリス科	3	4	1
ケラ科	0	1	1
マツムシ科	3	1	-2
コオロギ科	1	3	2
ヒバリモドキ科	1	3	2
バッタ科	5	4	-1
イナゴ科	1	1	0

表 6.1.4-14(2/3) 震災前後の状況：昆虫類

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
オンブバッタ科	1	1	0
ヒシバッタ科	3	2	-1
ノミバッタ科	0	1	1
ヒシウンカ科	1	0	-1
ウンカ科	8	2	-6
シマウンカ科	1	0	-1
ハゴロモ科	0	1	1
セミ科	1	3	2
アワフキムシ科	2	0	-2
ヨコバイ科	11	3	-8
サシガメ科	2	0	-2
ハナカメムシ科	1	0	-1
カスミカメムシ科	1	4	3
マキバサシガメ科	0	1	1
ホソヘリカメムシ科	1	0	-1
ヘリカメムシ科	1	2	1
ナガカメムシ科	4	5	1
ツチカメムシ科	1	1	0
カメムシ科	1	4	3
アメンボ科	2	1	-1
ミズギワカメムシ科	0	1	1
ミズムシ科	0	2	2
コオイムシ科	2	0	-2
タイコウチ科	1	0	-1
マツモムシ科	0	1	1
ウスバカゲロウ科	1	0	-1
ハマキガ科	1	0	-1
イラガ科	1	0	-1
マダラガ科	1	0	-1
セセリチョウ科	3	1	-2
シジミチョウ科	5	3	-2
タテハチョウ科	5	1	-4
アゲハチョウ科	1	2	1
シロチョウ科	5	3	-2
ジャノメチョウ科	2	0	-2
ツトガ科	1	4	3
メイガ科	0	1	1
シャクガ科	0	2	2
スズメガ科	0	1	1
ヒトリガ科	0	1	1
カノコガ科	1	0	-1
ヤガ科	1	7	6
ムシヒキアブ科	1	0	-1
ハナアブ科	0	3	3
ヤチバエ科	0	1	1
ミバエ科	0	1	1

表 6.1.4-14(3/3) 震災前後の状況：昆虫類

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
クロバエ科	0	1	1
ホソクビゴミムシ科	0	1	1
オサムシ科	32	33	1
ハンミョウ科	2	2	0
ゲンゴロウ科	3	4	1
ガムシ科	3	8	5
エンマムシ科	2	0	-2
シデムシ科	1	0	-1
ハネカクシ科	10	8	-2
マルハナノミ科	1	1	0
クワガタムシ科	1	0	-1
コガネムシ科	7	5	-2
ナガドロムシ科	0	1	1
タマムシ科	2	0	-2
コメツキムシ科	7	0	-7
ホタル科	1	0	-1
ジョウカイモドキ科	3	1	-2
テントウムシ科	5	3	-2
キシムシ科	0	1	1
テントウムシダマシ科	1	0	-1
オオキノコムシ科	1	1	0
ヒメマキムシ科	1	0	-1
ケシキスイ科	0	1	1
ホソヒラタムシ科	0	1	1
アリモドキ科	1	1	0
ツチハンミョウ科	0	1	1
ハナノミ科	3	0	-3
カミキリモドキ科	1	0	-1
ゴミムシダマシ科	12	1	-11
カミキリムシ科	3	0	-3
ハムシ科	9	9	0
ヒゲナガゾウムシ科	0	1	1
オトシブミ科	2	0	-2
ゾウムシ科	6	4	-2
オサゾウムシ科	0	1	1
クイムシ科	0	1	1
ハバチ科	0	1	1
アリ科	3	9	6
ドロバチ科	0	1	1
スズメバチ科	1	0	-1
ベッコウバチ科	1	1	0
ツチバチ科	1	1	0
ドロバチモドキ科	1	0	-1
フシダカバチ科	1	0	-1
合計	254 種	204 種	-50 種

文献調査の資料：

- ・平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）
- ・平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年、仙台市）
- ・仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成 14 年、宮城県）

f) 魚類

(a) 文献調査結果

コイやギンブナなどのコイ科のほか、スナヤツメなどが確認されていた。また、井土浦では汽水環境を反映して、ハゼ科やボラ科、ウナギやスズキなども確認されていた。確認種数は55種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地付近の生息状況については、今後調査を行いデータを蓄積するが、現地踏査ではそのほとんどが淡水魚であるコイ科や、汽水魚を多く含むハゼ科など28種が確認された。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は表6.1.4-15に示すとおりであり、確認種数は55種から28種へ減少した。これは鳥類や昆虫類と同様、震災前後の調査範囲や調査時期が異なることに起因しており、双方を単純に比較することはできない。個別に見るとコイ、モツゴといった淡水性の種、クロダイ、ボラ、マハゼといった汽水性の種、ニホンウナギやウグイといった回遊性の種など、各環境に応じた種が継続して確認された。また、ブルーギルやオオクチバスといった外来種が震災後に確認されたが、上流に位置する大沼などでの生息情報があることから、震災前から生息していた可能性が高いと考えられる。

表 6.1.4-15(1/2) 震災前後の状況：魚類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
ヤツメウナギ科	スナヤツメ	○	
ウナギ科	ニホンウナギ	○	○
ニシン科	サッパ	○	○
ニシン科	コノシロ	○	○
カタクチイワシ科	カタクチイワシ	○	
コイ科	コイ	○	○
コイ科	ギンブナ	○	○
コイ科	キンブナ	○	
コイ科	タナゴ	○	
コイ科	アカヒレタビラ	○	
コイ科	マルタ	○	
コイ科	ウグイ	○	○
コイ科	ウグイ属の一種	○	
コイ科	モツゴ	○	○
コイ科	シナイモツゴ	○	
コイ科	タモロコ	○	○
コイ科	ニゴイ	○	○
ナマズ科	ナマズ		○
アユ科	アユ	○	○
シラウオ科	シラウオ	○	
サケ科	サケ	○	
サケ科	サクラマス	○	
メダカ科	メダカ北日本集団	○	○
サヨリ科	サヨリ	○	
トゲウオ科	イトヨ日本海型	○	

表 6.1.4-15(2/2) 震災前後の状況：魚類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
ヨウジウオ科	ヨウジウオ	○	
コチ科	マゴチ	○	
スズキ科	スズキ	○	○
シマイサキ科	コトヒキ	○	○
サンフィッシュ科	ブルーギル		○
サンフィッシュ科	オオクチバス		○
キス科	シロギス	○	
アジ科	マアジ		○
クロサギ科	クロサギ	○	
タイ科	クロダイ	○	○
メジナ科	メジナ	○	
ボラ科	ボラ	○	○
ボラ科	セスジボラ		○
ボラ科	メナダ	○	○
ボラ科	メナダ属の一種	○	
ミシマオコゼ科	キビレミシマ	○	
イソギンポ科	イソギンポ	○	
ネズッコ科	ハタタテヌメリ	○	
ハゼ科	シロウオ	○	
ハゼ科	ヒモハゼ	○	
ハゼ科	ウキゴリ	○	○
ハゼ科	エドハゼ	○	
ハゼ科	ビリンゴ	○	○
ハゼ科	マハゼ	○	○
ハゼ科	アシシロハゼ	○	○
ハゼ科	マサゴハゼ	○	
ハゼ科	ヒメハゼ	○	○
ハゼ科	アベハゼ	○	
ハゼ科	シモフリシマハゼ	○	
ハゼ科	ヌマチチブ		○
ハゼ科	チチブ	○	
ハゼ科	チチブ属の一種	○	
ヒラメ科	タマガンゾウビラメ	○	
カレイ科	ヌマガレイ	○	
カレイ科	イシガレイ	○	
フグ科	クサフグ	○	○
合計	61 種	55 種	28 種

※「イトヨ日本海型」は関東以北に生息する降海型のイトヨを示す。なお、「イトヨ太平洋型」は福島県以南の陸封型を示す。種名に「～属の一種」と示したものは、種までの同定ができなかったものを示す。

文献調査の資料：

- ・平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）
- ・平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年、仙台市）
- ・井土浦ハゼ科魚類生息状況調査報告書（平成 23 年、株式会社エコリス）

g) 底生動物

(a) 文献調査結果

震災前の底生動物に関する情報は少ないが、「(仮称) 仙台市荒井南土地地区画整理事業環境影響評価書」に係る調査でモノアラガイが確認されていた。また、井土浦では汽水環境を反映してアサリやイソシジミなどの貝類、ゴカイ類、チゴガニなどの甲殻類が確認されていた。確認種数は40種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地付近の生息状況については、今後調査を行いデータを蓄積するが、魚類の現地踏査時に合わせて底生動物の確認を行った結果、モクズガニやテナガエビなど13種を確認した。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は表 6.1.4-16 に示すとおりである。現地踏査で情報が得られた甲殻類に関しては、震災前後で確認種が異なっているが、これは震災前の調査対象地域が干潟であるのに対し、震災後は貞山運河や水路を対象としているためと考えられる。

表 6.1.4-16(1/2) 震災前後の確認種：底生動物

科	種	震災前 (文献調査)	震災後 (現地踏査)
スチロヒラムシ科	イイジマヒラムシ	○	
ウミニナ科	ホソウミニナ	○	
ウミニナ科	ウミニナ	○	
サザナミツボ科	サザナミツボ	○	
ミズツボ科	エドガワミズゴマツボ	○	
ヘコミツララガイ科	マツシマコメツブ	○	
モノアラガイ科	モノアラガイ	○	
イガイ科	ホトトギスガイ	○	
ニッコウガイ科	サビシラトリガイ	○	
シオサザナミ科	イソシジミ	○	
マルスダレガイ科	アサリ	○	
オキナガイ科	ソトオリガイ	○	
カギゴカイ科	クシカギゴカイ	○	
ゴカイ科	ゴカイ	○	
ゴカイ科	イトメ	○	
スピオ科	ヤマトスピオ	○	
スピオ科	ドロオニスピオ	○	
イトゴカイ科	イトゴカイ	○	
イトゴカイ科	シダレイトゴカイ	○	
オフエリアゴカイ科	オフエリアゴカイ科の一種	○	
ケヤリムシ科	ケヤリムシ科の一種	○	
タナイス目	タナイス目の一種	○	
クーマ目	クーマ目の一種	○	
ユンボヨコエビ科	ニッポンドロソコエビ	○	
ドロクダムシ科	ウエノドロクダムシ	○	
ヨコエビ科	ヨコエビ科の一種	○	
スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	○	
コツブムシ科	イソコツブムシ	○	
アミ科	<i>Neomysis</i> 属の一種	○	
ヌマエビ科	ヌマエビ		○

表 6.1.4-16(2/2) 震災前の確認種：底生動物

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
テナガエビ科	シラタエビ		○
テナガエビ科	テナガエビ		○
テナガエビ科	スジエビ		○
エビジャコ科	エビジャコ	○	
アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ		○
スナモグリ科	ニホンスナモグリ	○	
アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	○	
ワタリガニ科	イシガニ		○
ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ	○	○
コメツキガニ科	チゴガニ	○	
コメツキガニ科	コメツキガニ	○	
オサガニ科	ヤマトオサガニ	○	○
ベンケイガニ科	クロベンケイガニ		○
ベンケイガニ科	アシハラガニ		○
モクズガニ科	アカイソガニ属の一種	○	
モクズガニ科	モクズガニ		○
モクズガニ科	ケフサイソガニ		○
モクズガニ科	イソガニ		○
ユスリカ科	ユスリカ科の一種	○	
合計	49 種	40 種	13 種

※種名に「～目の一種」「～科の一種」「～属の一種」と示したものは、種までの同定ができなかったものを示す。

文献調査の資料：

- ・仙台湾浜浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成 14 年、宮城県）
- ・（仮称）仙台市荒井南土地区画整理事業環境影響評価書（平成 24 年 5 月、仙台市荒井南土地区画整理組合設立準備委員会）

(2) 注目すべき動物の状況

注目すべき動物の状況については、文献確認種から表 6.1.4-17 の注目すべき動物の選定基準に該当する種を抽出するとともに、事業計画地の近隣で実施されている「(仮称) 仙台市荒井南土地地区画整理事業環境影響評価書」(平成 24 年、仙台市荒井南土地地区画整理組合設立準備委員会)及び「(仮称) 仙台市荒井西土地地区画整理事業環境影響評価書」(平成 24 年、仙台市荒井西土地地区画整理組合設立準備委員会)に係る注目すべき動物種を追加して把握した。その結果は表 6.1.4-18~24 に示すとおりであり、哺乳類 2 種、鳥類 78 種、爬虫類 3 種、両生類 5 種、昆虫類 36 種、魚類 14 種、底生動物 9 種が抽出された。

また、現地踏査の結果、事業計画地付近で確認された注目種は表 6.1.4-25 に示すとおりであり、鳥類のチュウサギ、ミサゴなど 8 種、昆虫類のコガムシなど 3 種、魚類のメダカ北日本集団など 2 種、底生動物のアリアケモドキ 1 種が確認された。

震災前後の状況は表 6.1.4-26 に示すとおりであり、確認種数は 147 種から 14 種に減少した。これは海岸林の減少といった震災影響が一部反映されているが、前記の動物相の状況と同様に、震災前後の調査範囲や調査時期が異なることに起因しており、双方を単純に比較することはできない。現地踏査で確認された注目すべき動物を見ると、水辺の生態系上位種であるチュウサギやミサゴ、陸域の生態系上位種であるオオタカが継続して確認されたことから、それぞれの種の生息環境は維持もしくは回復しているものと考えられる。また、ニホンウナギやメダカ北日本集団が継続して確認されたのは、これらが汽水環境でも生息可能であるため、津波影響を免れたかもしくは早期に回復することができたためと考えられる。

表 6.1.4-17 注目すべき動物の選定基準

番号	選定基準
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)に基づく天然記念物
②	「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物
③	「日本の絶滅の恐れのある野生生物の種のリストーレッドリスト」(平成 24 年、環境省)の掲載種
④	「宮城県の希少な野生動植物ー宮城県レッドリスト 2013 年版ー」(平成 25 年、宮城県)の掲載種
⑤	「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年、仙台市)における学術上重要種、減少種のうち東部田園及び海浜における A ランクとされている種

表 6.1.4-18 注目すべき動物の状況：哺乳類

種名	①	②	③	④	⑤
ヒナコウモリ				VU	1, 4
カヤネズミ				要注目	
2 種	0 種	0 種	0 種	2 種	1 種

表 6.1.4-19(1/3) 注目すべき動物の状況：鳥類

種名	①	②	③	④	⑤
ウズラ			VU	CR+EN	1, 4, A
ヒシクイ			VU	NT	1, 4
マガン			NT	要注目種	1, 4
コクガン			VU	VU	1, 2, 4
ツクシガモ			VU		
アカツクシガモ			DD		

表 6.1.4-19(2/3) 注目すべき動物の状況：鳥類

種名	①	②	③	④	⑤
オシドリ			DD		
トモエガモ			VU		
アカハジロ			DD		
シノリガモ				LP	
コアホウドリ			EN		
クロコシジロウミツバメ			CR	VU	
ヒメウ			EN	VU	
チシマウガラス			CR		
サンカノゴイ			EN	NT	1
ヨシゴイ	○		NT	NT	
オオヨシゴイ	○		CR	CR+EN	1
アマサギ					2
チュウサギ			NT		1, 2, 4
コサギ					2
カラシラサギ			NT	DD	
クロトキ			DD		
ヘラサギ			DD		
クロツラヘラサギ			EN		
クイナ				要注目種	
ヒメクイナ	○	○		要注目種	
ヒクイナ	○	○	NT	CR+EN	
オオバン		○			1
ヨタカ			NT	NT	
ケリ				要注目種	
シロチドリ			DD	要注目種	
セイタカシギ	○	○	VU		
オオジシギ			VU		
シベリアオオハシシギ		○	NT	NT	1, 4
オオソリハシシギ			DD		
ホウロクシギ			VU		
ツルシギ			VU	NT	
アカアシシギ			VU		
カラフトアオアシシギ			VU		1
タカブシギ			CR		
ハマシギ			VU		
ヘラシギ			NT		
タマシギ			CR	NT	1
ツバメチドリ			VU		
ズグロカモメ			VU		
オオアジサシ			VU	要注目種	
コアジサシ			VU		
ウミガラス			VU	VU	1, 2, 4
ケイマフリ			CR		
マダラウミスズメ			VU	要注目種	
ウミスズメ			DD		
ウトウ			CR		
ミサゴ				VU	
ハチクマ			NT		1, 4
オジロワシ				NT	1, 4

表 6.1.4-19(3/3) 注目すべき動物の状況：鳥類

種名	①	②	③	④	⑤
オオワシ			VU	VU	1, 2, 4
チュウヒ			EN	NT	
ツミ				DD	1, 4
ハイタカ			NT	NT	1, 4
オオタカ			NT	NT	1, 4
サシバ			VU	VU	
イヌワシ			EN	CR+EN	1, 4
オオコノハズク				要注目種	1
フクロウ				VU	
アオバズク					1
トラフズク				要注目種	1
コミミズク				要注目種	
チゴハヤブサ				要注目種	1, 4
ハヤブサ			VU	NT	1, 4
サンショウクイ			VU	VU	1, 4
チゴモズ			CR	CR+EN	1, 4
アカモズ			EN	CR+EN	1, 4
コシアカツバメ			EN	NT	
オオセッカ					4
セグロセキレイ					1
ホオアカ			NT	要注目種	1
ノジコ			VU	NT	
コジュリン			VU	VU	1, 2, 4
78 種	5 種	5 種	60 種	45 種	33 種

表 6.1.4-20 注目すべき動物の状況：爬虫類

種名	①	②	③	④	⑤
アカウミガメ			EN		
ニホンイシガメ			NT	DD	1, 4, A
クサガメ				DD	1
3 種	0 種	0 種	2 種	2 種	2 種

表 6.1.4-21 注目すべき動物の状況：両生類

種名	①	②	③	④	⑤
トウホクサンショウウオ			NT	NT	1, 4
クロサンショウウオ			NT	LP	4
アカハライモリ			NT	LP	
トウキョウダルマガエル			NT	NT	
ツチガエル				NT	
5 種	0 種	0 種	4 種	5 種	2 種

表 6.1.4-22(1/2) 注目すべき動物の状況：昆虫類

種名	①	②	③	④	⑤
コバネアオイトトンボ			EN	CR+EN	
ヒメマイトトンボ			EN	VU	1, A
モートンイトトンボ			NT		

表 6.1.4-22 (2/2) 注目すべき動物の状況：昆虫類

種名	①	②	③	④	⑤
カラカネイトトンボ				CR+EN	
マダラヤンマ			NT		
カトリヤンマ				CR+EN	1
ヤブヤンマ				VU	
ウチワヤンマ					1
キトンボ				VU	1
スズムシ					1
ハマスズ				CR+EN	
ヤマトマダラバッタ					2
カワラバッタ				NT	1
スナヨコバイ			NT	CR+EN	
コオイムシ			NT	NT	1, A
タガメ			VU	CR+EN	1, A
タイコウチ					1, A
オオウスバカゲロウ				CR+EN	
ルリハダホソクロバ			NT		
オオムラサキ			NT		1
アオスジアゲハ					4
ヒメシロチョウ			EN	CR+EN	
ヤマトトックリゴミムシ					1
ヒョウタンゴミムシ				NT	
カワラハンミョウ			EN	CR+EN	1
クロゲンゴロウ			NT		
ゲンゴロウ			VU	NT	1
マルガタゲンゴロウ			VU		
スナサビキコリ				NT	
ゲンジボタル				NT	1
アオスジカミキリ					1, 2
トビイロヒョウタンゾウムシ				NT	
ムツボシベッコウ			NT		
ニッポンハナダカバチ			VU	VU	
キスジツチスガリ				VU	1
キヌゲハキリバチ				VU	1
36 種	0 種	0 種	16 種	22 種	19 種

表 6.1.4-23 注目すべき動物の状況：魚類

種名	①	②	③	④	⑤
スナヤツメ			VU	NT	1, A
ニホンウナギ			EN	NT	1
キンブナ			VU	NT	
タナゴ			EN	CR+EN	1
アカヒレタビラ			EN	CR+EN	1, A
シナイモツゴ			CR	CR+EN	1
サクラマス			NT	NT	1
メダカ北日本集団			VU	NT	1
イトヨ日本海型				DD	1
シロウオ			VU	VU	
ヒモハゼ			NT	NT	1
エドハゼ			VU	VU	1
マサゴハゼ			VU	VU	1
アベハゼ				VU	1
14 種	0 種	0 種	12 種	14 種	12 種

表 6.1.4-24 注目すべき動物の状況：底生動物

種名	①	②	③	④	⑤
ウミニナ			NT	NT	
サザナミツボ				CR+EN	
エドガワミズゴマツボ			NT	DD	
マツシマコメツボ				DD	
モノアラガイ			NT		
イトメ				NT	
シダレイトゴカイ				NT	
アリアケモドキ				NT	
マルガタゲンゴロウ			VU		
9 種	0 種	0 種	4 種	7 種	0 種

※表 6.1.4-18～24 の見出しの丸数字は表 6.1.4-17 に対応する。

【③④の凡例】

EX(絶滅)：既に絶滅したと考えられる種

CR+EN(絶滅危惧 I 類)：絶滅の危機に瀕している種

CR(絶滅危惧 IA 類)：ごく近い将来野生で絶滅の危険性が高いもの

EN(絶滅危惧 IB 類)：IA 類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの

VU(絶滅危惧 II 類)：絶滅の危険が増大している種

NT(準絶滅危惧)：存在基盤が脆弱な種

DD(情報不足)：評価するだけの情報が不足している種

要注目(要注目種)：現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

【⑤の凡例】

・学術上重要な植物種

1: 仙台市においてもともと希産あるいは希少である種、あるいは分布が限定されている種

2: 仙台市が分布の北限、南限となっている種、あるいは隔離分布となっている種

3: 仙台市が模式産地(タイプロカリティ)となっている種

4: その他、学術上重要な種

・減少種

A: 以前に比べて減少傾向にあるが、現在はほとんど見ることのできない種

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書(平成 23 年、仙台市)

平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書(平成 16 年、仙台市)

仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書(平成 14 年、宮城県)

国指定仙台海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区指定計画書(環境省案)(平成 18 年、環境省)

国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区指定計画書(環境省案)(平成 18 年、環境省)

井土浦ハゼ科魚類生息状況調査報告書(平成 23 年、株式会社エコリス)

(仮称) 仙台市荒井南土地地区画整理事業環境影響評価書(平成 24 年 5 月、仙台市荒井南土地地区画整理組合設立準備委員会)

(仮称) 仙台市荒井西土地地区画整理事業環境影響評価書(平成 24 年 6 月、仙台市荒井西土地地区画整理組合設立準備委員会)

表 6.1.4-25 注目すべき動物の状況：現地踏査

区分	種名	①	②	③	④	⑤
鳥類	アマサギ					2
	チュウサギ			NT		1, 2, 4
	コサギ					2
	オオバン					1
	ミサゴ			NT		1, 4
	オオタカ			NT	NT	1, 4
	ハヤブサ			VU	NT	1, 4
	セグロセキレイ					4
小計	8種	0種	0種	4種	2種	8種
昆虫類	キバナガミズギワゴミムシ				VU	
	エチゴトックリゴミムシ			NT	NT	
	コガムシ			DD		
小計	3種	0種	0種	2種	2種	0種
魚類	ニホンウナギ			EN	NT	1
	メダカ北日本集団			VU	NT	1
小計	2種	0種	0種	2種	2種	2種
底生動物	アリアケモドキ				NT	
小計	1種	0種	0種	0種	1種	0種
合計	14種	0種	0種	8種	7種	10種

※表 6.1.4-25 の見出しの丸数字は表 6.1.4-17 に対応する。

【③④の凡例】

EX(絶滅)：既に絶滅したと考えられる種

CR+EN(絶滅危惧 I 類)：絶滅の危機に瀕している種

CR(絶滅危惧 IA 類)：ごく近い将来野生で絶滅の危険性が高いもの

EN(絶滅危惧 IB 類)：IA 類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの

VU(絶滅危惧 II 類)：絶滅の危険が増大している種

NT(準絶滅危惧)：存在基盤が脆弱な種

DD(情報不足)：評価するだけの情報が不足している種

要注目(要注目種)：現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

【⑤の凡例】

・学術上重要な植物種

1: 仙台市においてもともと希産あるいは希少である種、あるいは分布が限定されている種

2: 仙台市が分布の北限、南限となっている種、あるいは隔離分布となっている種

3: 仙台市が模式産地(タイプロカリティー)となっている種

4: その他、学術上重要な種

・減少種

A: 以前に比べて減少傾向にあるが、現在はほとんど見るのできない種

表 6.1.4-26 震災前後の状況：注目すべき動物種

分類群	震災前(文献調査)	震災後(現地踏査)	増減
哺乳類	2	0	-2
鳥類	78	8	-70
爬虫類	3	0	-3
両生類	5	0	-5
昆虫類	36	3	-33
魚類	14	2	-12
底生動物	9	1	-8
合計	147種	14種	-133種

(3) 注目すべき生息地

注目すべき生息地については、「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年、仙台市）に示される動物生息地として重要な地域により把握した。

その結果は表 6.1.4-27 及び図 6.1.4-5 に示すとおりであり、蒲生干潟など 8 箇所が確認された。詳細は不明であるが、これらの多くは津波の影響を受けており、震災前の状況とは変わっている可能性がある。事業計画地は「低地の水田地帯」と重複する。

表 6.1.4-27 注目すべき生息地

番号	名称	対象	選定基準	内容
9	名取川・ 広瀬川中～ 下流域	鳥類	2, 7, 8	中流部は森林性から草地、水辺の鳥まで豊富。下流部は、オジロワシ、オオタカ等の猛禽類やキジ類の草地性鳥類。アオジの生息及び繁殖。
10	名取川河口	魚類	1, 4	塩分に比較的耐性がある河川下流の魚、周縁性淡水魚に加え、沿岸性の海魚が出現するため、魚類相が多様。
11	名取川 (下流域)	鳥類	1, 4, 8	河原のイカルチドリの生息・繁殖、オジロワシ等の猛禽類。アオジの生息及び繁殖。
12	七北田川 (中流域～ 河口)	哺乳類・ 鳥類	2, 8	川に接する地域の環境変化が著しく、動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなってきている。
13	荒井の大沼	鳥類	4	マガン、その他水鳥の渡来地
14	低地の 水田地帯	鳥類	1, 7, 8	セッカの繁殖、ホオアカの繁殖。居久根は低地における鳥類の生息地及び移動のための中継地として重要。
15	福田町の田園	鳥類	5, 7	市街地に残されたまとまった広がり確保された田園生態系として重要。かつてはマガン、その他水鳥の渡来地としての利用もあった。
16	蒲生干潟	鳥類	1, 4, 5, 6, 8	シギ・チドリ類の渡りの中継地、コクガン渡来地。
17	井土浦	鳥類	1, 4, 5, 6, 8	シギ類渡来地
18	仙台湾海浜	哺乳類・ 鳥類・ 昆虫類	1, 4, 5, 6, 8	海岸林も含めて動物の生息及び移動経路として極めて重要になってきた。また、ヤマトマダラバツタ等の海浜性昆虫が生息。
19	貞山運河	潮間帯 動物	1, 2	多様な潮間帯動物の生息。

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）

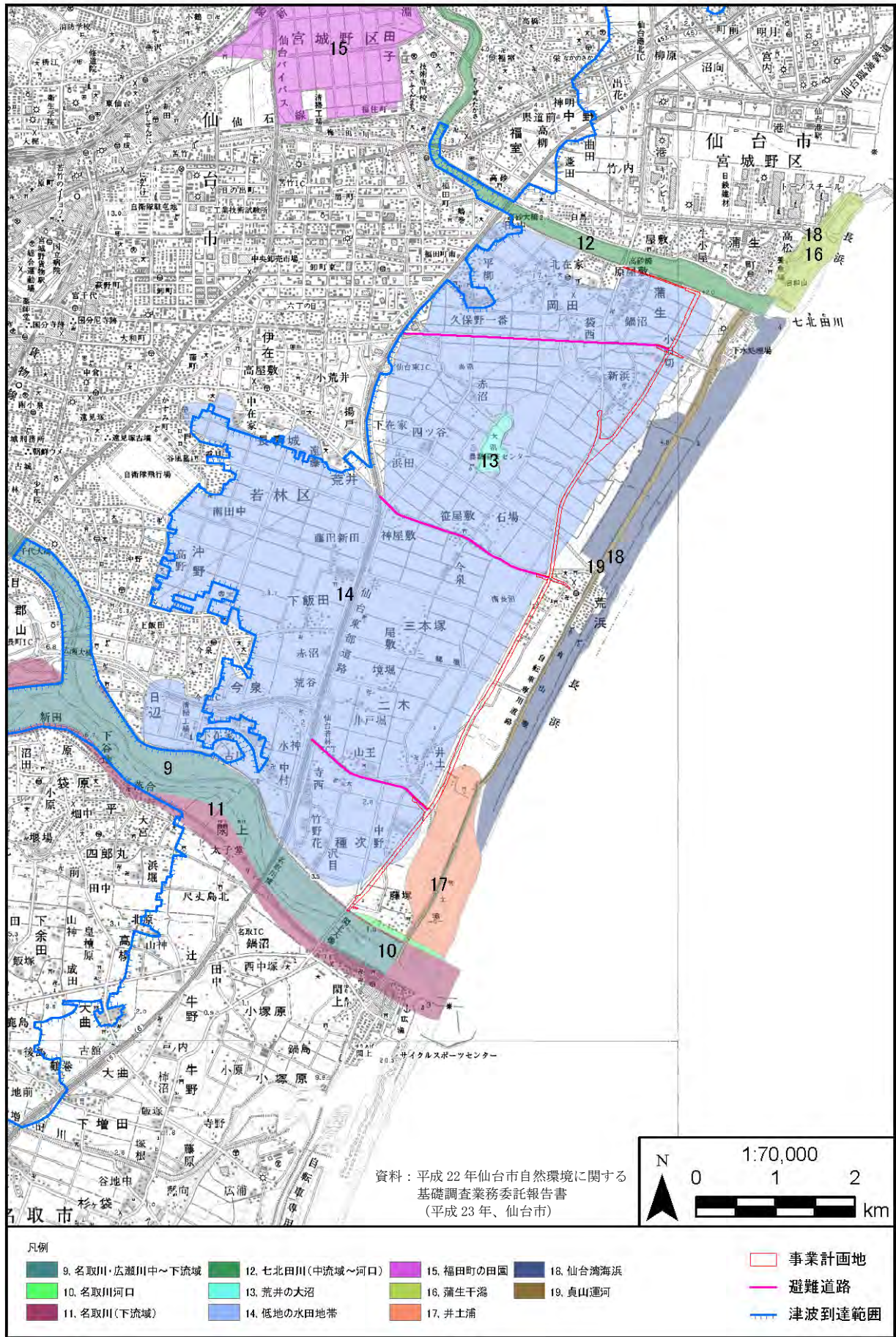


図 6.1.4-5 注目すべき生息地（動物生息地として重要な地域）

(4) 動物についての保全上の留意点

文献調査の結果、概況調査範囲では水辺環境に依存して生息する注目種が多く確認されている。また、事業計画地下流域には井土浦が存在しており、ここでも注目すべき動物が多く確認されている。現地踏査でも水辺環境に生息する注目種が確認されていることから、事業の実施にあたっては、水辺環境や下流域の水質保全に留意が必要である。また、事業計画地は注目すべき生息地である低地の水田地帯に係ることから、そこに生息するセッカやホオアカの生息環境である草地の保全に留意が必要である。さらにオオタカなどの猛禽類が現地踏査でも確認されていることから、それらの営巣環境や採餌環境の保全についても留意が必要である。

6.1.5. 景観等

1) 景観

(1) 自然的景観資源及び歴史的・文化的景観資源の状況

自然的景観資源及び歴史的・文化的景観資源の状況については、「平成 21 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 22 年、仙台市）、「仙台市の指定・登録文化財」（仙台市 HP）等の文献に基づいて把握した。また、下記の期日、範囲において現地踏査を行い、情報の補完、震災後の状況について把握した。

表 6.1.5-1 現地踏査実施状況

項目	期日	対象範囲
景観	平成 24 年 9 月 9 日～10 日	事業計画地から概ね 500m の範囲

概況調査範囲における自然的景観資源及び歴史的・文化的景観資源の分布状況は、表 6.1.5-2～5 及び図 6.1.5-1～2 に示すとおりである。

当地域は基本的に東から順に仙台湾、砂浜、クロマツ林、貞山堀、水田地帯という風景要素からなっており、水田地帯の中には集落や屋敷林（居久根）が島状に存在している。

地形・地質・自然現象や自然的景観資源は、井土浦、名取川・七北田川河口、仙台湾海岸にみられる。

歴史的・文化的景観資源としては、指定文化財等が存在するほか、寺社仏閣等もある。また、仙台平野の原風景である屋敷林（居久根）のある田園風景がみられる。

文献調査等によってこれらの景観資源の存在が明らかとなったが、東日本大震災の際の津波により多くの資源が被害を受けており、資源によっては震災前とは性質が大きく異なるものとなっている。現地踏査により把握した景観資源の被災跡の状況を表 6.1.5-8 に示す。

事業計画地は、ほとんどが農地及び道路であり景観資源はない。

表 6.1.5-2 学術上重要な地形・地質・自然現象

No.	件名	選定理由	保全の状況	概要
9	大沼、赤沼、南長沼	仙台平野の原風景を残す湖（往時の面影が失われているため選定から除外）	—	仙台平野がかつて一面の谷地、沼地であった名残を残す池沼であった。現在、埋立、浚渫及び護岸の整備により、オニバスなど自然度の高い植生を伴っていた往時の面影は失われている。
10	井土浦・名取川河口・七北田川河口など	潟湖・河川干潟・砂浜海岸の典型例、かつ動植物の重要な生育地	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区（井土浦）	潟湖、河口干潟、（近世の）運河などを伴う砂浜海岸。植生的にも、また、鳥類の生息地としても重要である。

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）

表 6.1.5-3 自然景観資源

No.	名称	種類	概要	見られ方	インパクト	保全の状況
87	蒲生干潟	湖沼	分類：潟湖 面積48,000㎡ 湖岸線延長2,700m	近・中	人の立入り、道路開発、周辺の開発	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区
88	井土浦	湖沼	分類：潟湖 面積270,000㎡ 水深1.4m 湖岸線延長4,900m 貞山堀の陸側には大規模なヨシ原。	近・中	人の立入り、道路開発、水辺の開発、周辺の開発、ゴミの投棄	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区
89	南長沼	湖沼	分類：低地湖沼 面積20,000㎡ 水深0.8m 湖岸線延長900m 仙台平野の原形をとどめる湿地状の湖沼。浚渫、埋立てにより、自然景観資源としての損失が著しい。	近	人の立入り、農林業開発、道路開発、周辺の開発	(損失が著しいため選定から除外)
90	大沼	湖沼	分類：低地湖沼 面積17,000㎡ 水深5.5m 標高2m 湖岸線延長2,200m 仙台平野の原形をとどめる湿地状の湖沼。浚渫、埋立てにより、自然景観資源としての損失が著しい。	近・中	人の立入り、農林業開発、道路開発、周辺の開発	(損失が著しいため選定から除外)
94	仙台湾砂浜海岸(深沼海岸)	砂浜・磯浜	分類：砂浜 延長9.5km 巾60m 山元町から続く砂浜海岸の一部。名取川河口から七北田川河口まで。砂浜の内陸側には、クロマツ林、貞山堀がある。	近・中・遠	人の立入り、道路開発、水辺の開発、周辺の開発	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国設鳥獣保護区
95	長浜	砂浜・磯浜	分類：砂浜 延長1.9km 巾30m 山元町から続く砂浜海岸の一部。七北田川河口より北。内陸側には、蒲生干潟がある。	近・中・遠	人の立入り、道路開発、水辺の開発、周辺の開発	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国設鳥獣保護区
201	広浦	湖沼	分類：潟湖 南部に大規模なヨシ原が広がる。	近・中	人の立入り、道路開発、水辺の開発、周辺の開発	仙台湾海浜県自然環境保全地域

資料：平成22年度自然環境基礎調査報告書（平成23年、仙台市）
現地踏査

表 6.1.5-4(1/2) 文献調査により把握した歴史的・文化的景観資源

No.	名称	種別区分	指定区分	所在地	解説
3	陸奥国分寺薬師堂 附厨子1基・棟札1枚	建造物	国指定	若林区木ノ下3丁目8-1	陸奥国分寺薬師堂は、慶長12年（1607）、伊達政宗によって造営された。入母屋造、本瓦葺、素木造の桃山様式建築物である。なお、この薬師堂は奈良時代に建立された、陸奥国分寺跡にある。
5	陸奥国分寺跡	史跡	国指定	若林区木ノ下2丁目、3丁目	奈良時代の天平13年（741）、聖武天皇の命により、全国に建立された国分寺のひとつ。発掘調査の結果、講堂、金堂、七重塔など、14以上の建物を配する壮大な伽藍を持っていたことが分かっている。
6	陸奥国分尼寺跡	史跡	国指定	若林区白萩町	奈良時代の天平13年（741）、聖武天皇の命により、国分寺とともに、全国に建立された尼寺のひとつ。発掘調査により、金堂と推定される建物跡が見つかっている。
8	遠見塚古墳	史跡	国指定	若林区遠見塚1丁目ほか	仙台市内で最大の前方後円墳。県内でも名取市の雷神山古墳に次ぐ規模の大型古墳である。全長約110m。発掘調査では、ふたつの木棺が確認されている。構造や遺物から、古墳時代、4世紀末頃に造られたものとみられている。
15	苦竹のイチョウ	天然記念物	国指定	宮城野区銀杏町7-36	樹齢約1000年といわれるイチョウの巨木。幹から気根という根が乳房のように垂れていることから、乳銀杏ともよばれている。木の下に祀られる姥神にお参りすると乳の出がよくなるといわれ、現在でも祈願の対象となっている。
16	朝鮮ウメ	天然記念物	国指定	若林区古城2丁目	ウメの変種。臥龍梅。樹齢は約360年とみられている。この梅は伊達政宗が、文禄2年（1593）に朝鮮半島から持ち帰ったものと伝えられている。

表 6.1.5-4(2/2) 文献調査により把握した歴史的・文化的景観資源

No.	名称	種別区分	指定区分	所在地	解説
20	白山神社 本殿	建造物	県指定	若林区木 ノ下3丁目 9-1	白山神社はじめ陸奥国分寺の守り神であつたと伝えられるが、現在の本殿は江戸時代の寛永17年（1640）に再建されたものである。一間社流造こけら葺で、流れるような美しい形に、江戸時代初期のすぐれた技法がみられる。
28	陸奥国分 寺薬師堂 仁王門	建造物	県指定	若林区木 ノ下3丁目 8-1	この門は江戸時代、慶長12年（1607）の、薬師堂の創建にあわせて建立されたものと伝えている。入母屋造茅葺の八脚門で、左右には寺の守り神の仁王として、一對の金剛力士像が安置されている。
24	落合観音 堂 附 棟札1枚	建造物	県指定	太白区四 郎丸字落 合60	落合観音堂は、はじめ太白区袋原にあったが、江戸時代の寛永4年（1627）、伊達政宗が落合に移し、さらに昭和26年（1951）に現在地に移転した。素木造で屋根は入母屋造茅葺となっている。
33	善応寺開 山堂	建造物	市指定	宮城野区 燕沢2丁目 3-1	善応寺開山堂は、11尺四方、棧瓦葺、宝形造の建築物で、通玄禅師の坐像と位牌を祀っている。内部には墓石と厨子があり、上部に仙台藩四代藩主伊達綱村筆の扁額がかけられている。
51	善応寺横 穴古墳群	史跡	市指定	宮城野区 燕沢2丁目 3-1	宮城野区燕沢の善応寺裏山一带に分布する、7世紀後半から8世紀前半にかけての横穴墓群。昭和23年（1948）から5次にわたって発掘調査が行われており、埋没しているものを含めると総数は百基を超えるものと推定される。出土遺物には土師器、須恵器のほか勾玉などがある。
101	洞口家住 宅	建造物	国指定	名取市大 曲字中小 路26	主屋、馬屋、表門の3棟から成り、堀といぐねをめぐらした環濠集落。江戸時代中期宝暦年間の建築。名取型として旧仙台領内最大規模の古民家。
102	東光寺石 造宝篋印 塔	建造物	名取市 指定	名取市下 増田字丁 地233	高さ234cm、江戸中期（寛延4年、1751年）の石造建造物。
103	開運橋	建造物	名取市 登録	名取市関 上2・3丁目	昭和3年に貞山運河にかけられた橋。
104	関上土手 の松並	天然記念物	名取市 登録	名取市関 上字柳原 上他	関上字新大塚付近一帯の名取川右岸堤防沿いの松並。

資料：平成 21 年度自然環境基礎調査報告書（平成 22 年、仙台市）
仙台市の指定・登録文化財（仙台市 HP）

表 6.1.5-5 現地踏査により把握した歴史的・文化的景観資源

No.	名称	種類	所在地
1	天照大神宮	神社	宮城野区蒲生字八郎兵衛第一 25
2	吉窪神社	神社	宮城野区岡田字浜通 29
3	照徳寺	寺	宮城野区岡田字浜通 36
4	湯殿山神社	神社	若林区荒井笹屋敷 135
5	長樂院不動尊	不動尊	若林区荒井笹屋敷 156
6	湊神社	神社	若林区荒浜新堀端
7	浄土寺	寺	若林区荒浜字西 20
8	神明社	神社	若林区荒浜神明林
9	東日本大震災慰霊乃塔	慰霊碑	若林区荒浜字中丁
10	八大龍王	神社	若林区荒浜字中丁 36-33
11	海楽寺	寺	若林区井土字宅地 19
12	日吉神社	神社	若林区二木字山王 23
13	東禅院	寺	若林区種次字寺西 62
14	五柱神社	神社	若林区藤塚字屋敷 51

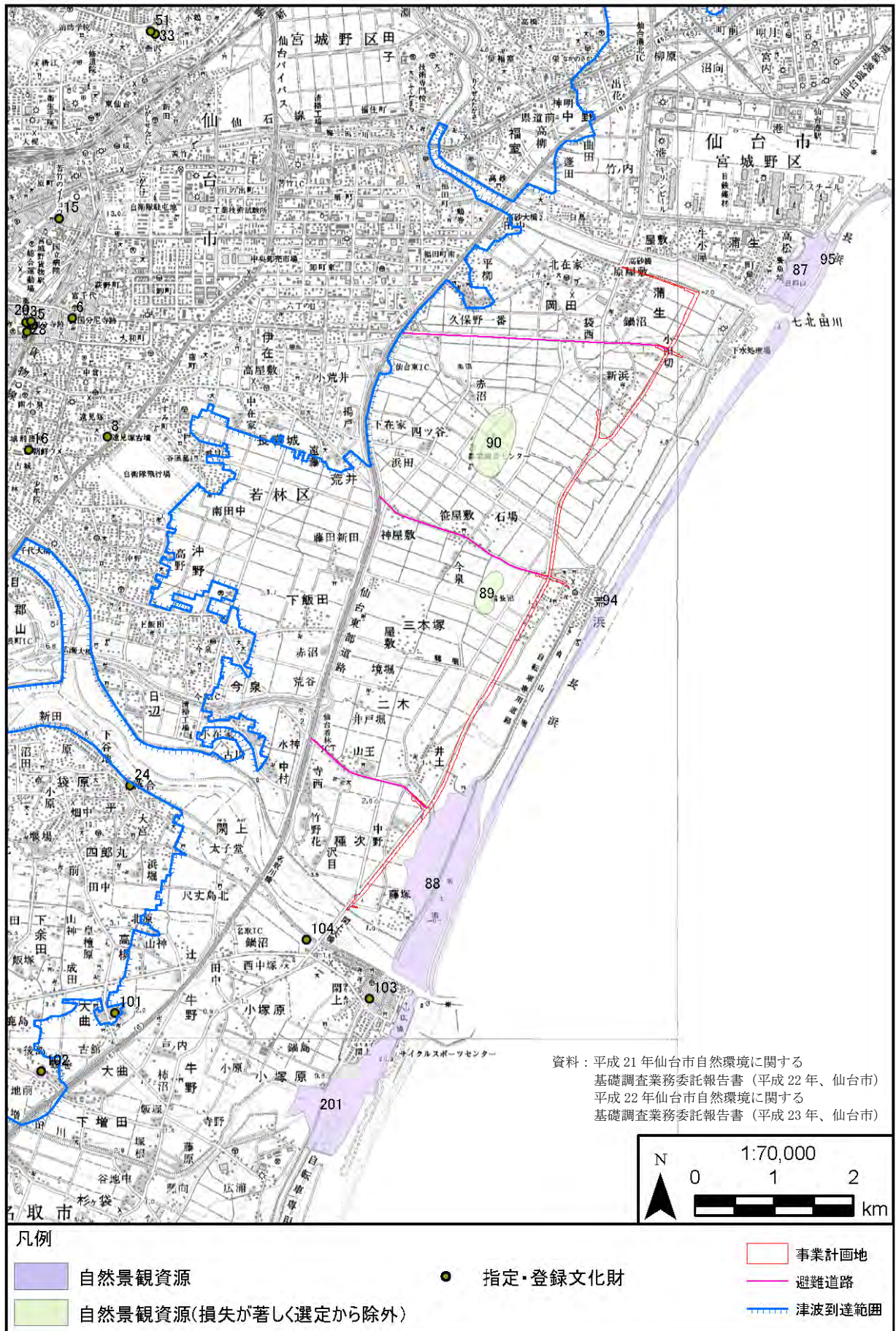


図 6.1.5-1 文献調査により把握した景観資源

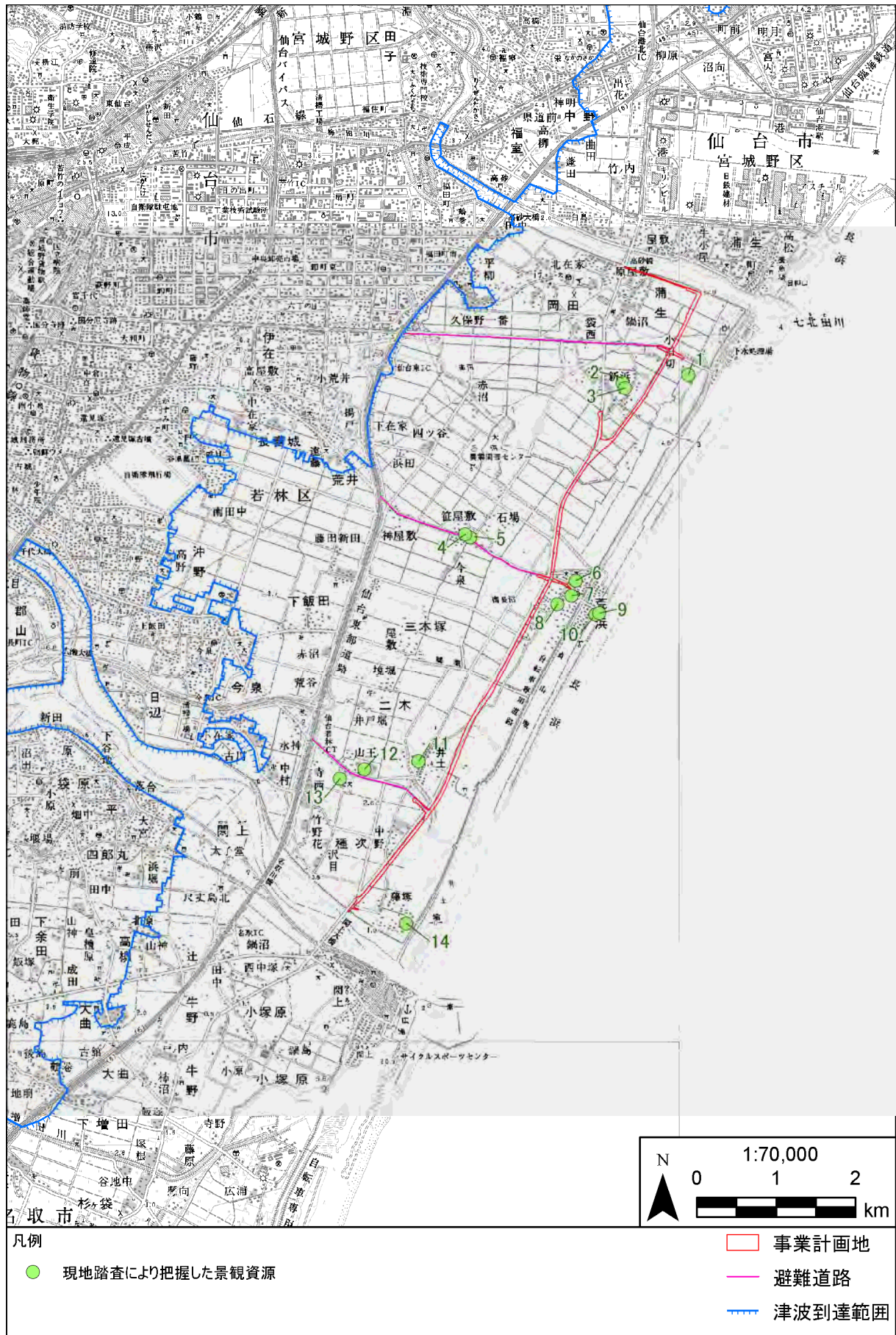


図 6.1.5-2 現地踏査により把握した景観資源

(2) その他の環境資源

仙台市が策定した平成6年度自然環境基礎調査報告書（平成7年3月）では、地域の歴史・文化を背景とした資源の分布について、市内の中学校区単位で「家のそばで将来まで残したいもの・大切にしたいもの」についてアンケート調査が実施されている。

その結果は、表6.1.5-6に示すとおりである。

表6.1.5-6 家のそばで将来まで残したいもの・大切にしたいもの

区	中学校名	残したいもの・大切にしたいもの
宮城野	高砂	蒲生干潟
	田子	田園風景、七北田川
若林	六郷	田園風景、貞山堀、広瀬川
	七郷	深沼海岸（松林含む）
	沖野	広瀬川、田園風景
太白	袋原	落合観音、名取川

資料：平成6年度自然環境基礎調査報告書（平成7年、仙台市）

(3) 眺望の状況

概況調査範囲における眺望は、事業計画地の西側は仙台平野の代表的な田園景観が広がっているのに対し、東側は松林と後背の海岸景観が南北に続いている。

事業計画地を望む主な眺望地点としては、表6.1.5-7及び図6.1.5-3に示すとおりである。なお、東日本大震災の影響を受け、事業計画地を眺望できる仙台東部道路以東の公共施設は、農業園芸センター及び冒険広場（平成23年度に数回臨時開園あり）を除き利用されていない。

表6.1.5-7 主な眺望地点

区分	No.	地点の名称
公園・レクリエーション施設	1	海岸公園野球場・庭球場
	2	農業園芸センター
	3	貞山堀（自転車道）
	4	深沼海水浴場
	5	冒険広場
	6	井土浦
既存集落	7	原屋敷集落
	8	新浜集落
	9	荒浜集落
	10	井土集落
	11	中野集落
	12	藤塚集落

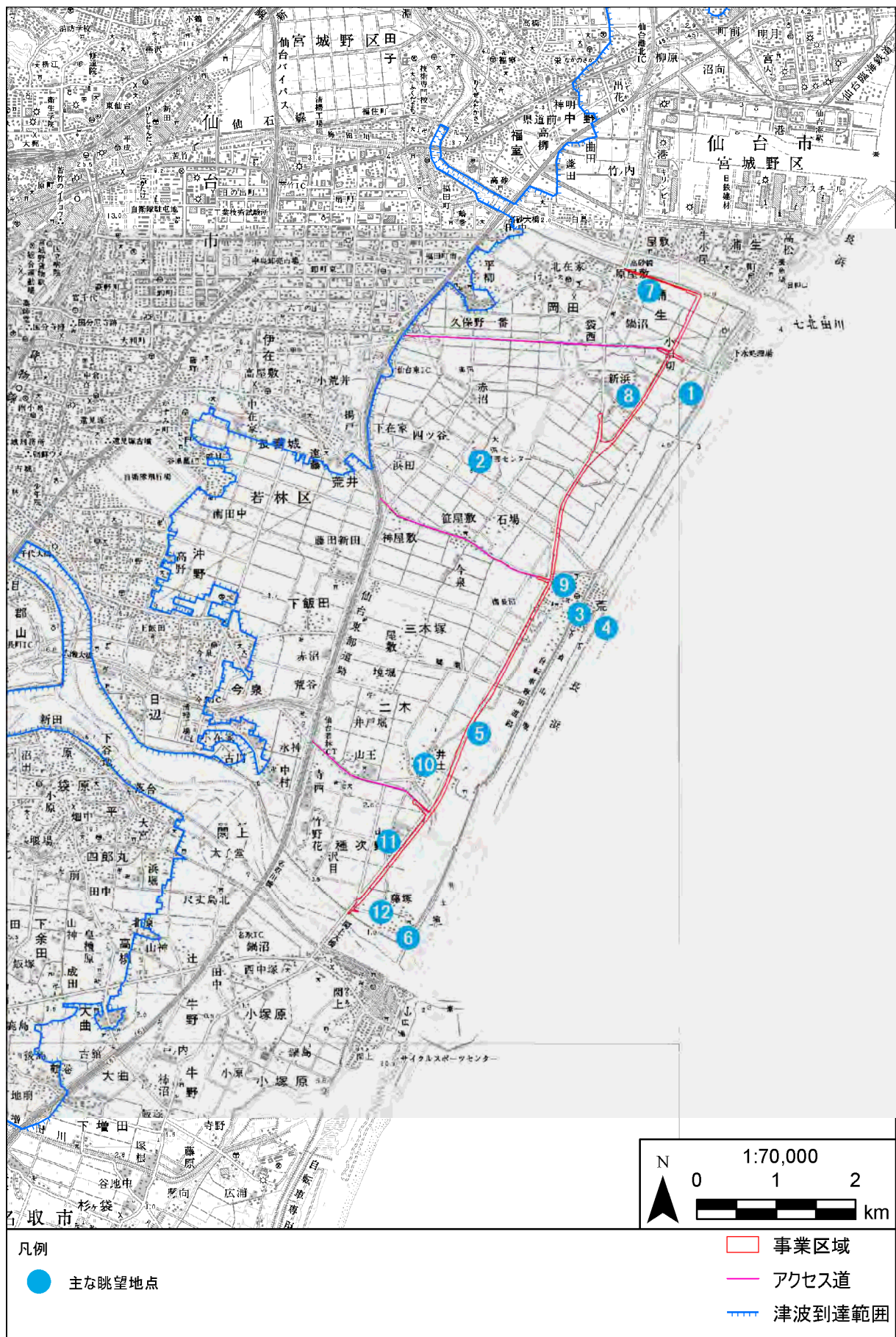


図 6.1.5-3 主な眺望地点

(4) 震災後の状況

概況調査範囲においては、震災の影響により、地形・地質・自然現象や自然的景観資源は津波により浸水したが、概ね震災前の形状に回復しつつある。歴史的・文化的景観資源をみると、陸奥国分寺跡では石灯籠 1 基を残して倒壊、遠見塚古墳では後円部の主体部約 4 m²が 10cm 位陥没、名取市では開運橋が崩落した。

また、事業計画地を眺望できる仙台東部道路以東の公共施設は農業園芸センター及び冒険広場（平成 23 年度に数回臨時開園あり）を除き利用されていない。

現地踏査によって明らかになった景観資源の状況については表 6.1.5-8 に示す。

表 6.1.5-8(1/3) 現地踏査により明らかになった景観資源の状況

名称	写真（2012 年 9 月 9～10 日撮影）	資源の状況
仙台湾砂浜海岸 (深沼海岸)		砂浜に隣接して存在していたクロマツ林の大部分が消失している。一部が島状の森林として現在も残されている。震災前の仙台湾には、白砂青松の景観が形成されていたが、クロマツ林が大部分で消失したことにより、景観の性質も大きく異なるものとなっている。
天照皇大神宮		社殿が全壊し、土台のみが残された状態となっている。社寺林の被害を受け、樹木が減少している。境内に植栽されていたと思われるツツジ等の低木類も枯死しており、震災前とは大きく異なる景観となっている。
吉窪神社		神社の建造物類は全壊し、鳥居のみが残されている状態であり、震災前とは大きく異なる景観となっている。 神社があった場所には新たに基礎が造られており、神社の再建が進められているものと思われる。
照徳寺		吉窪神社に隣接した寺であるが、建造物は残されている（被害を受けた形跡はあるが、修繕されている）。また、保存樹木であるイチョウの大木も残されているが、夏季であっても葉がついている枝が少なく衰弱しているため、回復のための処置をしているとのことである。

表 6. 1. 5-8 (2/3) 現地踏査により明らかになった景観資源の状況

名称	写真 (2012年9月9~10日撮影)	資源の状況
湯殿山神社		<p>津波が到達した範囲内であるが、外見上は目立った被害は見られない。</p>
長楽院不動尊		<p>津波が到達した範囲内であるが、外見上は目立った被害は見られない。</p>
湊神社		<p>社殿が全壊し、参道の痕跡や土台のみが残されている。境内の樹木も残されておらず、雑草が繁茂し、震災前とは大きく異なる景観となっている。</p>
浄土寺		<p>本来の社殿は損壊し、現在は仮設の社殿が設置されている。境内の樹木は全て失われており、震災前とは大きく異なる景観となっている。仮設の社殿が設置されていることから、今後、復旧されるものと思われる。</p>
神明社		<p>社殿は全壊し、土台のみが残されている。境内の樹木は全て失われており、石碑類は周囲に散乱している。雑草も繁茂し、震災前とは大きく異なる景観となっている。</p>
東日本大震災慰霊乃塔		<p>深沼海水浴場の入口付近に設置された慰霊碑であり、震災後に設置されたものである。現在は多くの人が訪れる場所となっている。</p>

表 6. 1. 5-8 (3/3) 現地踏査により明らかになった景観資源の状況

名称	写真 (2012年9月9~10日撮影)	資源の状況
八大龍王		海から近いため津波の被害も大きかったものと考えられ、鳥居のみが残されている。震災前とは大きく異なる景観となっている。
海楽寺		井土集落の住宅地内にある寺であり、建物は残されているものの、大きな被害を受けている。
日吉神社		社殿は残されているが、境内の樹木の多くが失われ、震災前とは大きく異なる景観となっている。
東禅院		津波が到達した範囲内であるが、外見上は目立った被害は見られない。
五柱神社		社殿は全壊し、土台と参道のみが残されている。周囲には雑草が繁茂し、震災前とは大きく異なる景観となっている。

(5) 景観保全上の留意点

事業計画地周辺には、仙台平野の代表的な田園景観が広がっているため、法面等について可能な範囲で緑化を行い、田園景観との調和に留意する。

2) 自然との触れ合いの場

(1) 自然との触れ合いの場の状況

自然との触れ合いの場の状況については、宮城県土地利用規制図、宮城県土地利用基本計画図、仙台市公園・緑地等配置図等の文献に基づいて把握した。また、下記の期日、範囲において現地踏査を行い、情報の補完、震災後の状況について把握した。

表 6.1.5-9 現地踏査実施状況

項目	期日	対象範囲
自然との触れ合いの場	平成 24 年 9 月 9 日～10 日	事業計画地から概ね 500m の範囲

a) 地域性緑地

概況調査範囲には表 6.1.5-10 及び図 6.1.5-4 に示すとおり、県自然環境保全地域、広域公園等の地域性緑地（法令に基づくもの）が指定されている。

表 6.1.5-10 地域性緑地（法令に基づくもの）

区分	名称	面積等
県自然環境保全地域	仙台湾海浜県自然環境保全地域	1,507.7ha
広域公園	海岸公園	511.2ha

資料：宮城県土地利用規制図、宮城県土地利用基本計画図、仙台市公園・緑地等配置図

b) 海辺、河川、湖沼との親水

概況調査範囲には図 6.1.5-4 に示すとおり仙台市内唯一の海水浴場である深沼海水浴場がある。また、七北田川から名取川にかけての海岸沿いには、仙台自然休養林（160.93ha）が整備されており、市民の身近な緑、自然観察の場として利用されている。

河川との親水事業としては、表 6.1.5-11 に示すとおり、広瀬川において国土交通省による名取川直轄総合水系環境整備事業が行われている。

湖沼では、大沼が親水性の高い水辺整備が行われているほか、赤沼は釣り等に利用されている。

表 6.1.5-11 河川との親水事業

事業名	地区／事業内容	年次	事業概要
名取川直轄総合水系環境整備事業	広瀬川地区 水環境整備	平成12年度 ～15年度	導水施設（取水ポンプ場）、流量観測施設の設置
	広瀬川地区 利用促進	平成17年度 ～21年度	親水護岸の整備、アクセス施設整備（階段・スロープ）

資料：国土交通省東北地方整備局資料

c) 緑との触れ合い

概況調査範囲には、図 6.1.5-4 に示すとおり大沼に隣接して仙台市農業園芸センターがある。事業概要は表 6.1.5-12 に示すとおりである。

表 6.1.5-12 仙台市農業園芸センターの事業概要

項目	内容
開園年月日	平成元年6月
総面積	106,986㎡（うち、市民農園面積23,745㎡）
開園時間	午前9時から午後4時45分まで
事業内容	農業振興事業、市民園芸の啓発普及事業、農業交流事業 農業及び園芸の試験及び研究に関する事業、農業及び園芸の技術及び経営の指導に関する事業など
各種講座	市民農業講座、老壮園芸学園、農業サポーター養成講座、農業者実践セミナー、地産地消推進サポーター
主な催し物	梅を観る会、春の草花まつり、バラまつり、秋バラ鑑賞会、収穫まつり、サマー・ウインター・フェスティバル、旬の香り市など

資料：仙台市農業園芸センターHP

d) その他

概況調査範囲には、七北田川から貞山堀に沿って一般県道仙台亘理自転車道線（仙台市宮城野区岩切～亘理町沖、43.4 km）が整備されている。また、名取市閑上には、サイクルスポーツセンターと閑上海浜プールが整備されている。

e) 公園

概況調査範囲には、表 6.1.5-13 及び図 6.1.5-5 に示すとおり、市街地や集落に公園が整備されており、市民の身近な自然との触れ合いの場となっている。

事業計画地に近接して、海岸公園（センター施設、野球場・庭球場、運動広場・パークゴルフ場、冒険広場、乗馬場等）や荒浜集落の街区公園が位置している。



図 6.1.5-4 自然との触れ合いの場

表 6.1.5-13(1/4) 公園一覽

番号	名称	住所	番号	名称	住所
1	燕沢二丁目緑地	仙台市宮城野区燕沢二丁目16	527	館西6号公園	仙台市若林区沖野七丁目578-6
8	福室上町東公園	仙台市宮城野区福室五丁目220-1外	528	卸町東一丁目公園	仙台市若林区卸町東一丁目1005-3
9	中野北上公園	仙台市宮城野区中野字北上44-3	529	六丁の目南町公園	仙台市若林区六丁の目南町6-2
13	福室公園	仙台市宮城野区福室五丁目601-70	530	遠見塚一丁目5号公園	仙台市若林区遠見塚一丁目249-24
16	燕沢一丁目公園	仙台市宮城野区燕沢一丁目391	531	大和町一丁目東公園	仙台市若林区大和町一丁目114-30外
29	田子二丁目公園	仙台市宮城野区田子二丁目40-1	532	六丁の目北町公園	仙台市若林区六丁の目北町9-3
30	田子二丁目北公園	仙台市宮城野区田子二丁目6-4	533	館南7号公園	仙台市若林区沖野七丁目275-11
31	福室上町北公園	仙台市宮城野区福室六丁目29-1	534	門暮10号公園	仙台市若林区今泉一丁目45-9
34	燕沢東二丁目公園	仙台市宮城野区燕沢東二丁目66-3	535	館南6号公園	仙台市若林区沖野六丁目302-14
35	小鶴一丁目北公園	仙台市宮城野区小鶴一丁目203-15外	536	河原下9号公園	仙台市若林区沖野六丁目10-30
36	栄五丁目公園	仙台市宮城野区栄五丁目15	537	白萩西公園	仙台市若林区白萩町263
37	燕沢二丁目公園	仙台市宮城野区燕沢二丁目6-27	538	河原下7号公園	仙台市若林区沖野六丁目2-5
38	出花二丁目公園	仙台市宮城野区出花二丁目7-9	539	大和町二丁目公園	仙台市若林区大和町二丁目53-2
39	福室上町南公園	仙台市宮城野区福室三丁目9-2	540	下飯田築道公園	仙台市若林区六郷103-6外
41	栄一丁目公園	仙台市宮城野区栄一丁目85-3	542	荒井土才敷公園	仙台市若林区荒井土才敷13-3
46	上田子2号公園	仙台市宮城野区田子三丁目507	543	上飯田遠西2号公園	仙台市若林区上飯田一丁目76-2
47	田子要害東公園	仙台市宮城野区田子一丁目252-1	544	館西5号公園	仙台市若林区沖野二丁目36-7
50	燕沢三丁目公園	仙台市宮城野区燕沢三丁目66-75	545	河原下3号公園	仙台市若林区沖野七丁目131-17
52	田子小原公園	仙台市宮城野区田子三丁目111-4	546	館南9号公園	仙台市若林区沖野六丁目281-13
56	福室境公園	仙台市宮城野区福室七丁目1-42	547	六丁の目中町西公園	仙台市若林区六丁の目中町9-1
62	出花西公園	仙台市宮城野区栄四丁目10-7	548	門暮8号公園	仙台市若林区今泉一丁目132-10外
63	栄東公園	仙台市宮城野区栄四丁目20-5	549	遠見塚二丁目3号公園	仙台市若林区遠見塚二丁目404-11
64	宿在家公園	仙台市宮城野区栄三丁目5-8	551	遠見塚二丁目公園	仙台市若林区遠見塚二丁目241-4
65	福在公園	仙台市宮城野区栄二丁目7-6	552	新神柵公園	仙台市若林区沖野二丁目265-5
69	栄公園	仙台市宮城野区栄四丁目4-1	553	館南4号公園	仙台市若林区沖野七丁目241-48
71	福室寺前公園	仙台市宮城野区福室五丁目36-9	554	木ノ下公園	仙台市若林区木ノ下二丁目69
72	吉ヶ沢東公園	仙台市宮城野区燕沢東二丁目62-31	555	門暮7号公園	仙台市若林区今泉一丁目86-39
82	鶴ヶ谷八丁目公園	仙台市宮城野区鶴ヶ谷八丁目6	556	中柵東7号公園	仙台市若林区沖野三丁目91-5
83	鶴ヶ谷七丁目南公園	仙台市宮城野区鶴ヶ谷七丁目8	557	館西4号公園	仙台市若林区沖野二丁目25-4
84	屋舗公園	仙台市宮城野区新田三丁目49-2外	558	中柵東6号公園	仙台市若林区沖野三丁目69-7
86	西田公園	仙台市宮城野区新田三丁目261-1外	559	中柵東5号公園	仙台市若林区沖野七丁目134-2
206	安養寺三丁目公園	仙台市宮城野区安養寺三丁目20-32	560	河原下6号公園	仙台市若林区沖野六丁目44.6
208	東仙台六丁目公園	仙台市宮城野区東仙台六丁目158-27	561	中柵東4号公園	仙台市若林区沖野七丁目54-6
214	安養寺下東公園	仙台市宮城野区東仙台七丁目7-133	562	門暮6号公園	仙台市若林区今泉一丁目12-19
215	安養寺下西公園	仙台市宮城野区東仙台七丁目7-183	563	門暮5号公園	仙台市若林区今泉一丁目50-5
221	鶴ヶ谷一丁目東公園	仙台市宮城野区鶴ヶ谷一丁目10	564	大和町五丁目公園	仙台市若林区大和町五丁目52-9
511	銀杏町緑地	仙台市宮城野区銀杏町723	565	河原下5号公園	仙台市若林区沖野六丁目18-6
512	高砂二丁目緑地	仙台市宮城野区高砂二丁目26-2	566	河原下4号公園	仙台市若林区沖野六丁目96-6
513	伊勢公園	仙台市若林区荒浜新一丁目4	567	中倉二丁目公園	仙台市若林区中倉二丁目201-9
515	遠見塚一丁目4号公園	仙台市若林区遠見塚一丁目230-8	568	館西3号公園	仙台市若林区沖野二丁目48-14
516	沖野二丁目公園	仙台市若林区沖野二丁目123-8	569	中柵東3号公園	仙台市若林区沖野三丁目152-10
517	遠見塚二丁目2号公園	仙台市若林区遠見塚二丁目226-11	570	館西2号公園	仙台市若林区沖野二丁目82-10
518	遠見塚一丁目3号公園	仙台市若林区遠見塚一丁目18-4	571	白萩公園	仙台市若林区白萩町62
519	館南8号公園	仙台市若林区沖野六丁目295-17	572	尼坪公園	仙台市若林区大和町三丁目18-1
520	沖野一丁目公園	仙台市若林区沖野一丁目415-24	573	牛踏公園	仙台市若林区大和町四丁目506-1
521	遠見塚一丁目2号公園	仙台市若林区遠見塚一丁目20-7	574	柳公園	仙台市若林区大和町三丁目6
522	遠見塚一丁目公園	仙台市若林区遠見塚一丁目234-9	575	松木公園	仙台市若林区大和町五丁目804-2
523	六丁の目中町公園	仙台市若林区六丁の目中町29-1	576	門暮1号公園	仙台市若林区今泉一丁目139-3
524	四本松公園	仙台市若林区荒浜新二丁目9-1	577	若林五丁目公園	仙台市若林区若林五丁目32-16
526	中柵東8号公園	仙台市若林区沖野三丁目73-13	578	門暮4号公園	仙台市若林区今泉一丁目64-2外

表 6.1.5-13(2/4) 公園一覽

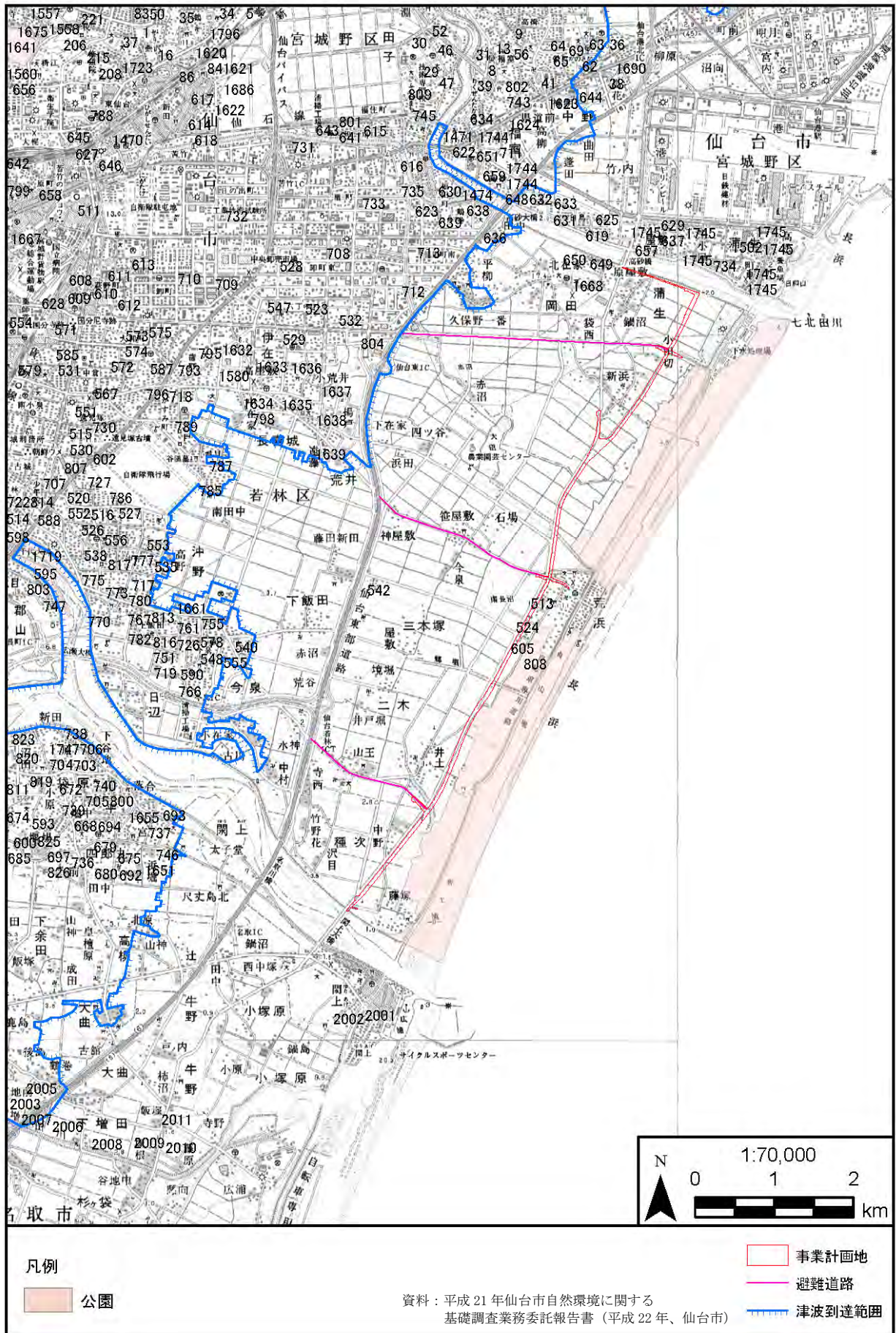
番号	名称	住所	番号	名称	住所
579	一本杉町公園	仙台市若林区一本杉町317-21	634	福室半在家公園	仙台市宮城野区福室三丁目407-3外
580	中柵東1号公園	仙台市若林区沖野七丁目147-2	635	田中東一番公園	仙台市宮城野区福室字田中東一番14-8
581	河原下2号公園	仙台市若林区沖野六丁目125-2	636	田中前二番公園	仙台市宮城野区福室字田中前二番1-12
582	河原下1号公園	仙台市若林区沖野六丁目50-3	637	中野2号公園	仙台市宮城野区中野字牛小舎23-74外
583	籬西1号公園	仙台市若林区沖野二丁目53-2	638	鶴巻一丁目東公園	仙台市宮城野区鶴巻一丁目1006-1
584	籬南1号公園	仙台市若林区沖野六丁目326-11	639	鶴巻一丁目西公園	仙台市宮城野区鶴巻一丁目1010-1
585	大和町一丁目南公園	仙台市若林区大和町一丁目205-32	641	仙石南公園	仙台市宮城野区仙石89-16
586	大和町一丁目北公園	仙台市若林区大和町一丁目240-6	642	原町四丁目公園	仙台市宮城野区原町四丁目146-9
587	三寿美田公園	仙台市若林区中倉三丁目109-8	643	仙石西公園	仙台市宮城野区小鶴字仙石58-22
588	御休場南公園	仙台市若林区若林六丁目36-9	644	出花一丁目公園	仙台市宮城野区出花一丁目12-4
589	門暮3号公園	仙台市若林区今泉一丁目75-4	645	東仙台三丁目公園	仙台市宮城野区東仙台三丁目232-5
590	今泉二丁目2号公園	仙台市若林区今泉二丁目28-10	646	平成一丁目南公園	仙台市宮城野区平成一丁目34-8
591	上飯田三丁目公園	仙台市若林区上飯田三丁目57-22	647	蒲生土手前3号公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目15-6
592	今泉一丁目西公園	仙台市若林区今泉一丁目351-25	648	中野向田公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目177-1外
593	内手東公園	仙台市太白区袋原字内手10-2	649	港南東公園	仙台市宮城野区蒲生字南城道田5-4外
594	法地北公園	仙台市太白区中田町字法地北24-20	650	港南西公園	仙台市宮城野区蒲生字南屋ヶ城1-27外
595	広瀬川飯田緑地	仙台市太白区飯田字河原95-1外	651	高砂一丁目西公園	仙台市宮城野区高砂一丁目18-8
596	土手畑7号公園	仙台市若林区上飯田二丁目59	652	白鳥一丁目公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目265-3外
597	沖野二丁目東公園	仙台市若林区沖野二丁目85-16	654	平成一丁目公園	仙台市宮城野区平成一丁目581-89
598	広瀬川若林緑地	仙台市若林区若林地先	655	蒲生町公園	仙台市宮城野区蒲生字町12-12
600	中田東公園	仙台市太白区中田町字東59-29	656	幸町三丁目公園	仙台市宮城野区幸町三丁目505-24
602	遠見塚東公園	仙台市若林区遠見塚東169-5	657	蒲生西屋敷添公園	仙台市宮城野区蒲生字西屋敷添3-1
604	法地南緑地	仙台市太白区中田町字法地南3-6	658	原町カックウ公園	仙台市宮城野区原町二丁目37-2外
605	荒浜新緑地	仙台市若林区荒浜新二丁目20-7	659	高砂二丁目向田公園	仙台市宮城野区高砂二丁目8-3
606	大和町五丁目緑地	仙台市若林区大和町五丁目701-6	661	原前2号公園	仙台市太白区袋原三丁目36-55
608	南宮城野公園	仙台市宮城野区宮千代一丁目36-1	663	吹上2号公園	仙台市太白区四郎丸字吹上28-26
609	宮千代公園	仙台市宮城野区宮千代一丁目9-1	664	中田土手内公園	仙台市太白区中田町字土手内59-2
610	志波北公園	仙台市宮城野区萩野町二丁目7-1	665	寺浦2号公園	仙台市太白区中田町字寺浦33-2
611	清水田公園	仙台市宮城野区萩野町三丁目6-1	666	内手公園	仙台市太白区袋原字内手62-7
612	谷地館公園	仙台市宮城野区宮千代三丁目3	668	吹上3号公園	仙台市太白区四郎丸字吹上31-15外
613	萩野町公園	仙台市宮城野区萩野町三丁目10	669	四郎丸神明2号公園	仙台市太白区四郎丸字神明19-13
614	新田公園	仙台市宮城野区新田四丁目12	670	南首長公園	仙台市太白区中田町字南首長104-2
615	福住町公園	仙台市宮城野区福住町9-2	672	袋原台東公園	仙台市太白区袋原四丁目42-6
616	町浦公園	仙台市宮城野区福田町二丁目365	673	四郎丸神明3号公園	仙台市太白区四郎丸字神明27-5
617	小鶴公園	仙台市宮城野区新田四丁目25	674	法地南公園	仙台市太白区中田町字法地南27-9外
618	川北公園	仙台市宮城野区新田5丁目9	675	四郎丸戸ノ内公園	仙台市太白区四郎丸字戸ノ内10-17
619	耳取公園	仙台市宮城野区白鳥二丁目528	676	袋原北中江公園	仙台市太白区袋原三丁目34-3
620	高砂駅西公園	仙台市宮城野区福室二丁目7-8外	677	四郎丸大宮公園	仙台市太白区四郎丸字大宮1-33
621	中野公園	仙台市宮城野区中野字牛小舎25-26	678	袋原下谷地西公園	仙台市太白区袋原字下谷地128-17
622	高砂公園	仙台市宮城野区福室一丁目46-17外	679	四郎丸神明4号公園	仙台市太白区四郎丸字神明85-6
623	福田町四丁目公園	仙台市宮城野区福田町四丁目5-1	680	四郎丸昭和裏公園	仙台市太白区四郎丸字昭和裏35-4外
625	耳取2号公園	仙台市宮城野区白鳥二丁目96-11	681	四郎丸昭和裏2号公園	仙台市太白区四郎丸字昭和裏23-3外
626	海道下公園	仙台市宮城野区東仙台三丁目120-6外	683	小平2号公園	仙台市太白区袋原六丁目42-22
627	原町六丁目公園	仙台市宮城野区原町六丁目70-20	684	四郎丸戸ノ内2号公園	仙台市太白区四郎丸字戸ノ内93-11外
628	宮千代西公園	仙台市宮城野区宮千代一丁目22-5	685	前沖4号公園	仙台市太白区中田町字前沖213-28
629	西原西公園	仙台市宮城野区蒲生一丁目12	686	渡道東公園	仙台市太白区四郎丸字渡道56-3外
630	福田町砂押公園	仙台市宮城野区福田町二丁目1224	688	平瀨南公園	仙台市太白区袋原字平瀨4-18
631	蒲生土手前公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目109-01	689	中田境公園	仙台市太白区中田町字境45-15
632	蒲生土手前2号公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目5-2外	690	渡道北公園	仙台市太白区四郎丸字渡道24-9
633	蒲生蓬田前公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目560-6	692	四郎丸戸ノ内3号公園	仙台市太白区四郎丸字戸ノ内93-46

表 6.1.5-13(3/4) 公園一覽

番号	名称	住所	番号	名称	住所
693	四郎丸落合公園	仙台市太白区四郎丸字落合1-52	746	昭和中公園	仙台市太白区四郎丸字昭和中78-12
694	吹上1号公園	仙台市太白区四郎丸字吹上77-9	747	郡山源兵衛東公園	仙台市太白区郡山字源兵衛東42-4外
695	沼田公園	仙台市太白区袋原一丁目6-12	748	四郎丸昭和前公園	仙台市太白区四郎丸字昭和前4-17
697	渡道公園	仙台市太白区四郎丸字渡道43-3	749	山木公園	仙台市若林区上飯田三丁目64-3
698	四郎丸新田公園	仙台市太白区四郎丸字新田102-14	750	高田3号公園	仙台市若林区上飯田三丁目1-12
699	落合公園	仙台市太白区四郎丸字落合12-35	751	高田1号公園	仙台市若林区上飯田三丁目105-7外
701	前沖北東公園	仙台市太白区中田町字前沖北2-3	752	土手畑1号公園	仙台市若林区上飯田二丁目133-7
702	中首長公園	仙台市太白区中田町字中首長70-12	753	上飯田大町1号公園	仙台市若林区上飯田四丁目144-5
703	原前公園	仙台市太白区袋原三丁目1-10	754	上飯田大町2号公園	仙台市若林区上飯田四丁目155-12
704	原公園	仙台市太白区袋原一丁目35-15	755	上飯田大町6号公園	仙台市若林区上飯田四丁目113-13
705	小平公園	仙台市太白区袋原六丁目59-11	756	門暮2号公園	仙台市若林区今泉一丁目29-4
706	袋原北公園	仙台市太白区袋原二丁目24-43	757	上飯田大町5号公園	仙台市若林区上飯田四丁目76-7
707	南小泉公園	仙台市若林区古城三丁目209-7外	758	山木4号公園	仙台市若林区上飯田三丁目123-15外
708	卸町東二丁目公園	仙台市若林区卸町東二丁目4-1	759	上飯田大町4号公園	仙台市若林区上飯田四丁目71-9
709	卸町五丁目公園	仙台市若林区卸町五丁目4	760	上飯田大町7号公園	仙台市若林区上飯田四丁目63-6
710	卸町公園	仙台市若林区卸町二丁目13	761	上飯田大町3号公園	仙台市若林区上飯田四丁目88-29
711	高砂一丁目公園	仙台市宮城野区高砂一丁目23-1	762	飯田前2号公園	仙台市若林区今泉一丁目26-19
712	岡田西町公園	仙台市宮城野区岡田西町2	763	門暮9号公園	仙台市若林区今泉一丁目78
713	福田町南一丁目公園	仙台市宮城野区福田町南一丁目1007	764	久保田東公園	仙台市若林区今泉二丁目6-15
714	高田4号公園	仙台市若林区上飯田三丁目33-9	765	飯田前公園	仙台市若林区今泉二丁目73-37
716	河原下10号公園	仙台市若林区沖野六丁目93-13	766	久保田公園	仙台市若林区今泉二丁目51-14外
717	横堀前4号公園	仙台市若林区上飯田一丁目5-2外	767	山木2号公園	仙台市若林区上飯田二丁目73-36
718	蒲町公園	仙台市若林区蒲町21-2外	768	土手畑5号公園	仙台市若林区上飯田二丁目125-6外
719	高田5号公園	仙台市若林区上飯田三丁目48-13	769	土手畑3号公園	仙台市若林区上飯田二丁目138-11
720	久保田東2号公園	仙台市若林区今泉二丁目1-8	770	土手畑2号公園	仙台市若林区上飯田二丁目145-29
721	下飯田築道2号公園	仙台市若林区六郷42-7	771	土手畑4号公園	仙台市若林区上飯田二丁目90-4
722	若林五丁目3号公園	仙台市若林区若林五丁目22-2	772	土手畑6号公園	仙台市若林区上飯田二丁目82-19外
723	大和町一丁目4号公園	仙台市若林区大和町一丁目63-4	773	上飯田遠西公園	仙台市若林区上飯田一丁目108-6
724	今泉二丁目公園	仙台市若林区今泉二丁目87-2	774	飯田遠西公園	仙台市若林区上飯田一丁目28-12
725	大和町五丁目北公園	仙台市若林区大和町五丁目40-4	775	上飯田遠西3号公園	仙台市若林区上飯田一丁目39-21
726	梅塚公園	仙台市若林区今泉一丁目337-4	776	河原下8号公園	仙台市若林区沖野六丁目30-11
727	沖野一丁目東公園	仙台市若林区沖野一丁目104-20	777	館南3号公園	仙台市若林区沖野六丁目283-40
728	沖野一丁目南公園	仙台市若林区沖野一丁目106-23	778	館南5号公園	仙台市若林区沖野六丁目376-25
729	遠見塚一丁目東公園	仙台市若林区遠見塚一丁目242-12	779	横堀前公園	仙台市若林区上飯田一丁目23-4
730	遠見塚二丁目南公園	仙台市若林区遠見塚二丁目267-12	780	横堀前2号公園	仙台市若林区上飯田一丁目55-30
731	扇町一丁目公園	仙台市宮城野区扇町一丁目4	781	横堀前3号公園	仙台市若林区上飯田一丁目62-3外
732	日の出町公園	仙台市宮城野区日の出町三丁目6	782	上飯田前田公園	仙台市若林区上飯田二丁目24-15
733	扇町四丁目公園	仙台市宮城野区扇町四丁目9-1	783	高田2号公園	仙台市若林区上飯田三丁目46-3
734	西原公園	仙台市宮城野区蒲生二丁目37	784	七曲公園	仙台市若林区かすみ町91-8
735	扇町六丁目公園	仙台市宮城野区扇町六丁目5-1	785	稲荷堂公園	仙台市若林区霞目二丁目234-30
736	四郎丸神明公園	仙台市太白区四郎丸字神明58-7	786	三ノ坪公園	仙台市若林区沖野一丁目15-31
737	四郎丸新田2号公園	仙台市太白区四郎丸字新田105-11	787	霞ノ目背戸公園	仙台市若林区霞目二丁目15-1
738	袋原下谷地公園	仙台市太白区袋原二丁目111-11外	788	案内公園	仙台市宮城野区東仙台五丁目7-30外
739	吹上4号公園	仙台市太白区四郎丸字吹上34-12外	789	伊藤屋敷下公園	仙台市若林区かすみ町425-20
740	袋原畑中東公園	仙台市太白区袋原四丁目24-8外	790	門田東公園	仙台市若林区かすみ町21-13
741	渡道南公園	仙台市太白区四郎丸字渡道42-13外	791	土手下中公園	仙台市若林区蒲町512-22外
742	耳取西公園	仙台市宮城野区白鳥二丁目48-19	792	館南2号公園	仙台市若林区沖野六丁目306-5
743	福室要谷公園	仙台市宮城野区福室四丁目28-4外	793	蒲北2号公園	仙台市若林区蒲町20-4外
744	福室要谷2号公園	仙台市宮城野区福室四丁目30-7外	794	蒲北公園	仙台市若林区蒲町14-7外
745	田子一丁目南公園	仙台市宮城野区田子一丁目1001-26	795	蒲町穴田公園	仙台市若林区蒲町19-17
796	七曲2号公園	仙台市若林区かすみ町70-24外	1622	新田東二丁目公園	仙台市宮城野区原町苦竹字館前60-2の一部外

表 6.1.5-13(4/4) 公園一覧

番号	名称	住所	番号	名称	住所
797	二ノ坪2号公園	仙台市若林区沖野一丁目11-31	1623	仙台港背後地7号公園	仙台市宮城野区中野字神明175-4の一部外
798	長喜城公園	仙台市若林区長喜城字鉄砲前16-3	1624	仙台港背後地9号公園	仙台市宮城野区福室字県道前58の一部外
799	清水沼三丁目公園	仙台市宮城野区清水沼三丁目223-9	1632	荒井1号公園	仙台市若林区伊在字西田
800	袋原平北公園	仙台市太白区袋原五丁目20-36	1633	荒井2号公園	仙台市若林区伊在字南通
801	仙石北公園	仙台市宮城野区仙石117-18	1634	荒井3号公園	仙台市若林区荒井字中在家
802	福室四丁目公園	仙台市宮城野区福室四丁目90-3	1635	荒井4号公園	仙台市若林区荒井字堀添
803	飯田公園	仙台市太白区東郡山二丁目59-52外	1636	荒井5号公園	仙台市若林区六丁目字小荒井裏8番1の一部外
804	六丁の目東公園	仙台市若林区六丁目字南119	1637	荒井6号公園	仙台市若林区荒井字矢取
805	袋原台東・北公園	仙台市太白区袋原四丁目8-8	1638	荒井7号公園	仙台市若林区荒井字揚戸1番1外
806	袋原台東・西公園	仙台市太白区袋原四丁目18-4	1639	荒井8号公園	仙台市若林区荒井字遠藤
807	二ノ坪公園	仙台市若林区沖野一丁目10-26	1641	与兵衛沼公園	仙台市宮城野区蟹沢20-1外
808	海岸公園	仙台市若林区井土字砂崩1外	1651	四郎丸浜堀東公園	仙台市太白区四郎丸字浜堀55番17
809	田子要害西公園	仙台市宮城野区田子字要害254-9	1652	平淵中公園	仙台市太白区袋原字平淵21番34
810	袋原平公園	仙台市太白区袋原五丁目24-48	1655	東四郎丸公園	仙台市太白区四郎丸字大宮26番11外
811	中田中央公園	仙台市太白区中田町字荒屋敷2-1外	1660	上飯田二丁目南公園	仙台市若林区上飯田二丁目216-15
812	袋原・原公園	仙台市太白区袋原一丁目31-12	1661	天神公園	仙台市若林区上飯田字天神41-26
813	山木3号公園	仙台市若林区上飯田三丁目112-3	1667	五輪一丁目公園	仙台市宮城野区宮城野二丁目20-8
814	若林五丁目2号公園	仙台市若林区若林五丁目113-57	1668	蒲生雑子袋南公園	仙台市宮城野区蒲生字雑子袋4-20外
815	遠見塚二丁目東公園	仙台市若林区遠見塚二丁目307-24外	1671	四郎丸昭和公園	仙台市太白区四郎丸字昭和34-19
816	上飯田三丁目東公園	仙台市若林区上飯田三丁目62-2	1672	沖野三丁目西公園	仙台市若林区沖野三丁目308-13
817	河原下4号公園	仙台市若林区沖野六丁目96-6	1673	今泉一丁目北公園	仙台市若林区今泉一丁目338-18
819	中田土手内東公園	仙台市太白区中田町字土手内67-4	1675	安養寺二丁目公園	仙台市宮城野区安養寺二丁目11-316
820	南首長北公園	仙台市太白区中田町字南首長204-2	1679	小平北公園	仙台市太白区袋原六丁目20-30
822	四郎丸戸ノ内東公園	仙台市太白区四郎丸字戸ノ内87-16外	1680	中田境東公園	仙台市太白区中田町字境29-17
823	中田切替公園	仙台市太白区中田字切替211-1	1683	袋原平東公園	仙台市太白区袋原五丁目19-45
824	四郎丸浜堀公園	仙台市太白区四郎丸字浜堀48-13外	1686	新田東中央公園	仙台市宮城野区新田東一丁目11-1
825	袋原堰場公園	仙台市太白区袋原字堰場32-11	1690	出花西2号公園	仙台市宮城野区中野字出花西90-13
826	四郎丸前公園	仙台市太白区四郎丸字前100-8外	1718	広瀬川八本松緑地	仙台市太白区八本松地先
1470	平成二丁目東公園	仙台市宮城野区平成二丁目17-3	1719	広瀬川中河原緑地	仙台市若林区南小泉字中河原地先
1471	福室二丁目公園	仙台市宮城野区福室二丁目34-20	1723	燕沢公園	仙台市宮城野区燕沢一丁目64-28外
1473	安養寺二丁目東公園	仙台市宮城野区安養寺二丁目75-29	1729	大堤公園	仙台市宮城野区安養寺二丁目地内
1474	七北田川鶴巻緑地	仙台市宮城野区鶴巻一丁目1023	1744	高砂緑地	仙台市宮城野区高砂一丁目32外
1502	蒲生公園	仙台市宮城野区蒲生二丁目40	1745	西原緑地	仙台市宮城野区蒲生字町91外
1503	四郎丸前2号公園	仙台市太白区四郎丸字前93-27	1746	中柵東2号公園	仙台市若林区沖野七丁目101-16
1536	上飯田一丁目公園	仙台市若林区上飯田一丁目315-9外	1747	原前南公園	仙台市太白区袋原三丁目18-4外
1542	出花西2号公園	仙台市宮城野区中野字出花西90-13	1796	小鶴二丁目公園	仙台市宮城野区小鶴二丁目59-3外
1557	大堤公園	仙台市宮城野区安養寺二丁目地内	2001	日和山公園	名取市関上四丁目480-39,480-60
1558	大堤公園	仙台市宮城野区安養寺二丁目地内	2002	東場公園	名取市関上七丁目211-11,211-28
1559	大堤公園	仙台市宮城野区安養寺二丁目地内	2003	杜せきのした中央公園	名取市杜せきのした五丁目87
1561	苗代沢公園	仙台市宮城野区燕沢一丁目107-9	2004	杜すこやか公園	名取市杜せきのした五丁目88
1562	田子一丁目北公園	仙台市宮城野区田子一丁目490-17外	2005	やくしの杜公園	名取市杜せきのした四丁目10
1563	燕沢二丁目北公園	仙台市宮城野区燕沢二丁目9番358	2006	美田園四季の公園	名取市下増田字田子作地内
1566	袋原三丁目公園	仙台市太白区袋原三丁目227-13	2007	美田園中央公園	名取市下増田字田子作・六角地内
1575	上飯田三丁目南公園	仙台市若林区上飯田三丁目443-18	2008	美田園風の音公園	名取市下増田字大橋本地地内
1578	沖野一丁目北公園	仙台市若林区沖野一丁目211-63	2009	美田園雷神塚公園	名取市下増田字飯塚・南田地内
1580	七郷中央公園	仙台市若林区蒲町字東39-2の一部外	2010	美田園ふれあい公園	名取市下増田字々々池地内
1620	新田東五丁目北公園	仙台市宮城野区小鶴字羽山161-1の一部外	2011	美田園香り公園	名取市下増田字々々池地内
1621	新田東五丁目南公園	仙台市宮城野区小鶴字羽山195の一部外			



(2) 震災後の状況

事業計画地は、震災による津波の影響を受け、仙台自然休養林のクロマツ林が甚大な被害を受けている。また、公園等の施設も損壊している。

現地踏査によって明らかになった自然との触れ合いの場の状況については表 6.1.5-14 に示す。

表 6.1.5-14(1/2) 現地踏査により明らかになった自然との触れ合いの場の状況

名称	写真 (2012年9月9~10日撮影)	資源の状況
海岸公園		現在はがれき処理場として利用されている。関係者以外は立入禁止であり、触れ合いの場としては機能していない状態となっている。
仙台湾砂浜海岸 (深沼海岸)		砂浜に隣接して存在していたクロマツ林の大部分が消失している。一部が島状の森林として現在も残されている。震災前の仙台湾には、白砂青松の景観が形成されていたが、クロマツ林が大部分で消失したことにより、景観の性質も大きく異なるものとなっている。
仙台市 農業園芸センター		園内は現在も市民の憩いの場として利用されているが、グリーンギャラリー（熱帯植物園）は震災の影響で植物が枯死してしまったため、閉館中である。
大沼		大沼の周囲にある道路は路肩が崩落するなど一部通行不能であるが、通行可能な所は釣りやバードウォッチングに利用されている。
赤沼		震災による目立った被害は見られず、現在も主に釣り人に利用されている。

表 6.1.5-14(2/2) 現地踏査により明らかになった自然との触れ合いの場の状況

名称	写真 (2012年9月9~10日撮影)	資源の状況
貞山堀 (自転車道)		自転車道は部分的に残っているものの、ガードレールや周辺施設が損壊しており、利用できない状態となっている。
深沼海水浴場		砂浜は残されているが、周辺施設が損壊している。震災以降、海水浴場はオープンしていない状態である。
伊勢公園		最近になって管理された様子がなく、雑草が繁茂している。
四本松公園		最近になって管理された様子がなく、雑草が繁茂している。

(3) 自然との触れ合いの場の保全上の留意点

事業計画地に最も近い自然との触れ合いの場としては海岸公園が存在するが、公園内のほとんどの施設は震災後は利用されていない。近傍で利用されている農業園芸センターや大沼、赤沼については、近傍を工事に関連する車両の走行経路としないなど、利用者のアクセス性や快適性に留意する。

3) 文化財

(1) 歴史・文化特性、指定文化財の状況等

概況調査範囲には、表 6.1.5-4 及び図 6.1.5-2 に示したとおり、建造物が 8 件、史跡が 4 件、天然記念物が 3 件存在している。

事業計画地周辺の地域の文化特性としては、宮城野区新浜集落の吉窪神社、若林区荒浜集落の神明社、同藤塚集落の五柱神社等各集落に寺社があり、それぞれ祭事が行われている。

事業計画地には、指定文化財等は存在しない。

(2) 指定文化財に準じる文化的資源

「1) 景観」の「(2) その他の景観資源」参照。

(3) その他事業の立地上配慮を要する文化財

概況調査範囲には、埋蔵文化財包蔵地が確認されており、図 6.1.5-6 に示すとおりである。

事業計画地付近及び事業計画地内には、埋蔵文化財包蔵地は確認されていない。

(4) 震災後の状況

「1) 景観」の「(4) 震災後の状況」参照。

(5) 文化財等の保全上の留意点

事業計画地には埋蔵文化財包蔵地は存在しないが、事業の実施にあたっては市教育委員会文化財課の指導を仰ぐものとする。



図 6.1.5-6 埋蔵文化財包蔵地

6.1.6. その他

1) 電波障害

(1) 電波受信の状況（電波の到来方向及び電波障害の状況）

事業計画地周辺において受信されているテレビ電波は、地上デジタル放送が6局あり、仙台局（送信は太白区の大年寺山及び八木山）から送信されている。

仙台市では、「仙台市中高層建築物等の建築に係る予防と調整に関する条例」により仙台市中高層建築物紛争調停委員会が、テレビ電波受信障害に係る調停を行っている。

仙台市建設指導課指導係に問い合わせたところ、電波障害に係る苦情の受付や統計は行っていないとのことである。

(2) 電波障害防止上の留意点

本事業においては、中高層建築物の建築の計画がないため、電波障害に対して留意する点は特にない。

2) 日照阻害

(1) 日照阻害の状況

「仙台市中高層建築物等の建築に係る予防と調整に関する条例」では、対象建築物（集合住宅、中高層建築物）の高さ2倍の水平距離の範囲を近隣関係住民の対象としている。県道仙台塩釜線に沿って指定されている準工業地域には、これら中高層建築物が立地している。

建築基準法及び宮城県建築基準条例に基づく仙台市における日影規制は、下表に示すとおりである。

表 6.1.6-1 仙台市の日影規制

対象地域	建築基準法 別表第 4(に)欄の 項	参考			
		制限を受ける 建築物	平均地盤面 からの高さ	日影時間	
				10m以内	10m超
第一種低層住居専用地域 第二種低層住居専用地域	(一)	軒の高さが7 mを超える又 は3階以上	1.5m	3時間	2時間
第一種中高層住居専用地域 第二種中高層住居専用地域	(二)	10mを超える	4m	4時間	2.5時間
第一種住居専用地域	(二)	10mを超える	4m	5時間	3時間
第二種住居専用地域					
準住居地域					
近隣商業地域 準工業地域					

資料：仙台市都市計画総括図

仙台市では、「仙台市中高層建築物等の建築に係る予防と調整に関する条例」により、仙台市中高層建築物紛争調停委員会が、日照に係る調停を行っている。

仙台市建設指導課指導係に問い合わせたところ、日照阻害に係る苦情の受付や統計は行

っていないとのことである。

(2) 日照障害防止上の留意点

建築基準法及び宮城県建築基準条例に基づく仙台市における日影規制を遵守する。

本事業は盛土構造であるため、周辺地域への日照を障害しないように配慮する必要がある。

3) 風害

(1) 風害の状況

強風による環境傷害は決して高層建築物の周辺に限られるものではなく、建築相互の位置関係によっては10階程度の建物の周辺でも発生することが明らかになっている。

事業計画地付近で、10階程度の建物はない。

仙台市建設指導課指導係に問い合わせたところ、風害に係る苦情の受付や統計は行っていないとのことである。

(2) 風害防止上の留意点

風害に関する建築基準法及び宮城県建築基準条例の規制はない。

本事業においては、中高層建築物の建築の計画はないため、風害に対して留意する点は特にない。

4) その他地域の自然的な特性を示すものとしての重要な項目の状況

自然的な特性を示すものとしては、特に追加する項目はない。

6. 2. 社会的状況等

6. 2. 1. 人口及び産業

1) 人口

(1) 人口の分布、世帯数の状況

概況調査範囲を含む町丁目の人口について、東日本大震災を挟む平成 22 年と平成 24 年を比較すると表 6. 2. 1-1 のとおりである。

宮城野区では、宮城野小学校区で増加傾向を示しているのに対し、蒲生地区では 50%以上の減少となっている。若林区内では、荒浜地区、井土地区、藤塚地区、名取市では閑上地区において 50%以上の減少となっている。

表 6. 2. 1-1 人口及び世帯数

市	区	町丁目	H22. 3人口	H22. 3世帯数	H24. 3人口	H24. 3世帯数	人口増減率
仙台市	宮城野区	安養寺2丁目	1, 511	708	1, 407	671	93. 1%
仙台市	宮城野区	安養寺3丁目	183	71	169	64	92. 3%
仙台市	宮城野区	银杏町	2, 313	1, 298	2, 357	1, 332	101. 9%
仙台市	宮城野区	出花1丁目	1, 120	502	1, 210	524	108. 0%
仙台市	宮城野区	出花2丁目	757	345	770	343	101. 7%
仙台市	宮城野区	出花3丁目	384	152	391	159	101. 8%
仙台市	宮城野区	岩切	13, 858	5, 479	13, 955	5, 535	100. 7%
仙台市	宮城野区	扇町1丁目	x	3	94	60	-
仙台市	宮城野区	扇町2丁目	x	2	0	0	-
仙台市	宮城野区	扇町3丁目	x	5	x	4	-
仙台市	宮城野区	扇町4丁目	x	3	82	37	-
仙台市	宮城野区	扇町5丁目	x	3	x	3	-
仙台市	宮城野区	扇町6丁目	x	1	x	1	-
仙台市	宮城野区	扇町7丁目	36	6	x	4	-
仙台市	宮城野区	大槻	3, 105	1, 310	3, 082	1, 346	99. 3%
仙台市	宮城野区	岡田	1, 884	593	1, 510	495	80. 1%
仙台市	宮城野区	蟹沢	13	8	49	19	376. 9%
仙台市	宮城野区	蒲生	3, 673	1, 234	2, 535	872	69. 0%
仙台市	宮城野区	蒲生1丁目	243	99	90	41	37. 0%
仙台市	宮城野区	蒲生2丁目	684	257	183	79	26. 8%
仙台市	宮城野区	小鶴	17	16	x	27	-
仙台市	宮城野区	小鶴1丁目	926	367	852	333	92. 0%
仙台市	宮城野区	小鶴2丁目	497	229	487	225	98. 0%
仙台市	宮城野区	小鶴3丁目	671	314	661	319	98. 5%
仙台市	宮城野区	五輪1丁目	1, 720	884	1, 701	850	98. 9%
仙台市	宮城野区	五輪2丁目	2, 087	1, 188	2, 022	1, 150	96. 9%
仙台市	宮城野区	幸町3丁目	2, 329	1, 194	2, 303	1, 190	98. 9%
仙台市	宮城野区	幸町4丁目	24	24	21	21	87. 5%
仙台市	宮城野区	幸町5丁目	1, 512	619	1, 018	400	67. 3%
仙台市	宮城野区	栄1丁目	666	306	604	272	90. 7%
仙台市	宮城野区	栄2丁目	1, 526	714	1, 522	722	99. 7%
仙台市	宮城野区	栄3丁目	725	320	729	327	100. 6%
仙台市	宮城野区	栄4丁目	1, 362	579	1, 372	590	100. 7%

市	区	町丁目	H22. 3人口	H22. 3世帯数	H24. 3人口	H24. 3世帯数	人口増減率
仙台市	宮城野区	栄5丁目	1, 118	422	1, 119	417	100. 1%
仙台市	宮城野区	清水沼3丁目	979	511	980	508	100. 1%
仙台市	宮城野区	田子1丁目	2, 264	1, 013	2, 309	1, 055	102. 0%
仙台市	宮城野区	田子2丁目	1, 849	782	1, 949	830	105. 4%
仙台市	宮城野区	田子3丁目	2, 027	753	2, 148	830	106. 0%
仙台市	宮城野区	田子	937	341	912	343	97. 3%
仙台市	宮城野区	燕沢1丁目	1, 050	439	1, 066	451	101. 5%
仙台市	宮城野区	燕沢2丁目	1, 510	568	1, 482	570	98. 1%
仙台市	宮城野区	燕沢3丁目	754	313	717	308	95. 1%
仙台市	宮城野区	燕沢東1丁目	338	147	342	146	101. 2%
仙台市	宮城野区	燕沢東2丁目	447	196	407	175	91. 1%
仙台市	宮城野区	鶴ヶ谷1丁目	1, 310	570	1, 265	563	96. 6%
仙台市	宮城野区	鶴ヶ谷2丁目	1, 952	1, 058	1, 980	1, 073	101. 4%
仙台市	宮城野区	鶴ヶ谷7丁目	1, 116	501	1, 125	502	100. 8%
仙台市	宮城野区	鶴ヶ谷8丁目	824	345	784	345	95. 1%
仙台市	宮城野区	鶴ヶ谷東1丁目	369	160	458	191	124. 1%
仙台市	宮城野区	鶴巻1丁目	994	427	1, 113	473	112. 0%
仙台市	宮城野区	鶴巻2丁目	149	52	187	79	125. 5%
仙台市	宮城野区	中野	2, 764	1, 101	2, 277	961	82. 4%
仙台市	宮城野区	苦竹1丁目	1, 251	698	1, 338	751	107. 0%
仙台市	宮城野区	苦竹2丁目	432	259	454	261	105. 1%
仙台市	宮城野区	苦竹3丁目	10	4	x	2	-
仙台市	宮城野区	苦竹4丁目	x	1	x	1	-
仙台市	宮城野区	二の森	1, 894	896	1, 880	881	99. 3%
仙台市	宮城野区	萩野町1丁目	1, 104	558	1, 160	602	105. 1%
仙台市	宮城野区	萩野町2丁目	1, 263	538	1, 306	560	103. 4%
仙台市	宮城野区	萩野町3丁目	1, 553	767	1, 694	859	109. 1%
仙台市	宮城野区	萩野町4丁目	947	495	954	492	100. 7%
仙台市	宮城野区	平成1丁目	1, 531	847	1, 546	860	101. 0%
仙台市	宮城野区	平成2丁目	1, 436	740	1, 508	797	105. 0%
仙台市	宮城野区	小鶴	17	16	x	27	-
仙台市	宮城野区	原町1丁目	1, 659	872	1, 633	861	98. 4%
仙台市	宮城野区	原町2丁目	1, 206	586	1, 201	595	99. 6%
仙台市	宮城野区	原町3丁目	1, 043	598	964	564	92. 4%
仙台市	宮城野区	原町4丁目	724	347	744	354	102. 8%
仙台市	宮城野区	原町5丁目	1, 029	557	1, 025	554	99. 6%
仙台市	宮城野区	原町6丁目	295	156	325	179	110. 2%
仙台市	宮城野区	東仙台1丁目	535	739	1, 528	765	285. 6%
仙台市	宮城野区	東仙台2丁目	1, 149	550	1, 100	545	95. 7%
仙台市	宮城野区	東仙台3丁目	702	418	730	448	104. 0%
仙台市	宮城野区	東仙台4丁目	948	467	1, 497	646	157. 9%
仙台市	宮城野区	東仙台5丁目	1, 434	644	1, 403	644	97. 8%
仙台市	宮城野区	東仙台6丁目	1, 023	421	994	424	97. 2%
仙台市	宮城野区	東仙台7丁目	761	340	746	344	98. 0%
仙台市	宮城野区	東宮城野	1, 199	534	1, 110	503	92. 6%
仙台市	宮城野区	日の出町1丁目	x	1	x	1	-
仙台市	宮城野区	日の出町2丁目	x	1	x	1	-
仙台市	宮城野区	日の出町3丁目	40	17	28	12	70. 0%
仙台市	宮城野区	福住町	1, 421	722	1, 412	724	99. 4%
仙台市	宮城野区	福田町1丁目	1, 310	550	1, 289	547	98. 4%
仙台市	宮城野区	福田町2丁目	2, 741	1, 315	2, 577	1, 243	94. 0%
仙台市	宮城野区	福田町3丁目	500	201	526	203	105. 2%

市	区	町丁目	H22. 3人口	H22. 3世帯数	H24. 3人口	H24. 3世帯数	人口増減率
仙台市	宮城野区	福田町4丁目	693	305	699	313	100.9%
仙台市	宮城野区	福田町南1丁目	223	115	329	156	147.5%
仙台市	宮城野区	福田町南2丁目	62	30	64	33	103.2%
仙台市	宮城野区	栢江	574	249	538	235	93.7%
仙台市	宮城野区	松岡町	220	102	224	107	101.8%
仙台市	宮城野区	港3丁目	x	3	x	2	-
仙台市	宮城野区	港4丁目	8	5	x	1	-
仙台市	宮城野区	南目館	1,819	1,124	1,597	997	87.8%
仙台市	宮城野区	宮城野1丁目	1,324	760	1,458	802	110.1%
仙台市	宮城野区	宮城野2丁目	1,785	802	1,301	807	72.9%
仙台市	宮城野区	宮城野3丁目	1,017	379	1,016	391	99.9%
仙台市	宮城野区	宮千代1丁目	1,551	817	1,576	838	101.6%
仙台市	宮城野区	宮千代2丁目	1,097	535	1,140	560	103.9%
仙台市	宮城野区	宮千代3丁目	925	411	1,007	471	108.9%
仙台市	宮城野区	仙石	1,038	352	1,011	357	97.4%
仙台市	宮城野区	高砂1丁目	2,157	1,032	2,223	1,047	103.1%
仙台市	宮城野区	高砂2丁目	795	354	838	365	105.4%
仙台市	宮城野区	白鳥1丁目	2,003	783	2,057	820	102.7%
仙台市	宮城野区	白鳥2丁目	1,117	413	1,038	389	92.9%
仙台市	宮城野区	新田1丁目	2,103	1,122	2,153	1,148	102.4%
仙台市	宮城野区	新田2丁目	1,999	960	2,139	1,040	107.0%
仙台市	宮城野区	新田3丁目	1,844	793	1,884	803	102.2%
仙台市	宮城野区	新田4丁目	2,886	1,405	2,973	1,402	103.0%
仙台市	宮城野区	新田5丁目	1,268	549	1,258	557	99.2%
仙台市	宮城野区	福室1丁目	901	430	911	437	101.1%
仙台市	宮城野区	福室2丁目	2,247	1,025	1,971	908	87.7%
仙台市	宮城野区	福室3丁目	2,622	1,185	2,692	1,198	102.7%
仙台市	宮城野区	福室4丁目	925	372	924	380	99.9%
仙台市	宮城野区	福室5丁目	2,551	1,070	2,540	1,076	99.6%
仙台市	宮城野区	福室6丁目	2,629	1,014	2,633	1,036	100.2%
仙台市	宮城野区	福室7丁目	1,226	496	1,272	512	103.8%
仙台市	宮城野区	新田東1丁目	994	388	1,034	408	104.0%
仙台市	宮城野区	新田東2丁目	2,932	1,211	3,055	1,225	104.2%
仙台市	宮城野区	新田東3丁目	947	530	991	541	104.6%
仙台市	宮城野区	新田東4丁目	262	106	281	105	107.3%
仙台市	宮城野区	新田東5丁目	427	168	412	157	96.5%
仙台市	若林区	荒井	7,058	2,540	7,055	2,559	100.0%
仙台市	若林区	荒浜	1,666	597	531	189	31.9%
仙台市	若林区	荒浜新1丁目	448	157	106	45	23.7%
仙台市	若林区	荒浜新2丁目	627	235	168	74	26.8%
仙台市	若林区	飯田	296	79	274	78	92.6%
仙台市	若林区	一本杉町	2,108	1,004	2,132	1,057	101.1%
仙台市	若林区	井土	388	120	143	54	36.9%
仙台市	若林区	今泉	489	146	477	151	97.5%
仙台市	若林区	沖野	36	15	31	12	86.1%
仙台市	若林区	沖野1丁目	1,509	608	1,482	604	98.2%
仙台市	若林区	沖野2丁目	2,317	936	2,336	939	100.8%
仙台市	若林区	沖野3丁目	2,359	890	2,289	877	97.0%
仙台市	若林区	沖野4丁目	320	127	308	127	96.3%
仙台市	若林区	沖野5丁目	540	216	524	216	97.0%
仙台市	若林区	沖野6丁目	2,907	1,152	2,838	1,136	97.6%
仙台市	若林区	沖野7丁目	2,110	773	2,076	775	98.4%

市	区	町丁目	H22. 3人口	H22. 3世帯数	H24. 3人口	H24. 3世帯数	人口増減率
仙台市	若林区	卸町東1丁目	6	2	x	2	-
仙台市	若林区	卸町東2丁目			74	33	-
仙台市	若林区	卸町東5丁目	8	4	x	2	-
仙台市	若林区	卸町1丁目	15	6	11	5	73.3%
仙台市	若林区	卸町2丁目	56	42	57	42	101.8%
仙台市	若林区	卸町3丁目	26	15	9	3	34.6%
仙台市	若林区	卸町5丁目			62	38	-
仙台市	若林区	霞目	x	2	x	1	-
仙台市	若林区	霞目1丁目	379	226	358	209	94.5%
仙台市	若林区	霞目2丁目	2,042	829	1,926	776	94.3%
仙台市	若林区	蒲町	1,799	716	1,799	723	100.0%
仙台市	若林区	蒲町(大字)	1,424	552	1,512	604	106.2%
仙台市	若林区	上飯田	88	33	93	33	105.7%
仙台市	若林区	木ノ下2丁目	671	343	669	347	99.7%
仙台市	若林区	木ノ下3丁目	255	112	245	104	96.1%
仙台市	若林区	木ノ下4丁目	691	325	743	348	107.5%
仙台市	若林区	木ノ下5丁目	442	217	490	247	110.9%
仙台市	若林区	榎木通	340	147	320	144	94.1%
仙台市	若林区	三本塚	575	279	374	221	65.0%
仙台市	若林区	下飯田	191	68	176	66	92.1%
仙台市	若林区	白萩町	990	497	1,006	509	101.6%
仙台市	若林区	志波町	856	440	859	457	100.4%
仙台市	若林区	種次	390	119	201	64	51.5%
仙台市	若林区	長喜城	158	45	136	40	86.1%
仙台市	若林区	鶴代町	x	2	x	1	-
仙台市	若林区	遠見塚東	516	237	507	239	98.3%
仙台市	若林区	遠見塚1丁目	1,741	747	1,659	728	95.3%
仙台市	若林区	遠見塚2丁目	2,323	1,013	2,381	1,047	102.5%
仙台市	若林区	遠見塚3丁目	796	371	779	362	97.9%
仙台市	若林区	中倉1丁目	1,401	619	1,494	659	106.6%
仙台市	若林区	中倉2丁目	2,499	1,059	2,418	1,021	96.8%
仙台市	若林区	中倉3丁目	1,572	819	1,518	795	96.6%
仙台市	若林区	日辺	685	195	899	294	131.2%
仙台市	若林区	東新丁	139	56	146	56	105.0%
仙台市	若林区	藤塚	342	107	100	37	29.2%
仙台市	若林区	二木	316	93	184	62	58.2%
仙台市	若林区	古城2丁目	410	365	429	282	104.6%
仙台市	若林区	古城3丁目	1,283	626	1,296	641	101.0%
仙台市	若林区	保春院前丁	823	362	845	376	102.7%
仙台市	若林区	南小泉	588	321	602	321	102.4%
仙台市	若林区	南小泉1丁目	637	292	647	309	101.6%
仙台市	若林区	南小泉2丁目	852	377	824	372	96.7%
仙台市	若林区	南小泉3丁目	1,719	796	1,782	831	103.7%
仙台市	若林区	南小泉4丁目	1,159	499	1,145	501	98.8%
仙台市	若林区	大和町1丁目	1,385	623	1,405	654	101.4%
仙台市	若林区	大和町2丁目	1,381	620	1,438	644	104.1%
仙台市	若林区	大和町3丁目	637	335	672	341	105.5%
仙台市	若林区	大和町4丁目	1,958	884	1,999	944	102.1%
仙台市	若林区	大和町5丁目	3,978	1,983	4,030	2,072	101.3%
仙台市	若林区	六丁の目	739	320	788	348	106.6%
仙台市	若林区	六丁の目北町	830	345	749	314	90.2%
仙台市	若林区	六丁の目中町	1,948	845	2,023	877	103.9%

市	区	町丁目	H22. 3人口	H22. 3世帯数	H24. 3人口	H24. 3世帯数	人口増減率
仙台市	若林区	六丁の目西町	174	75	108	48	62.1%
仙台市	若林区	六丁の目東町	76	41	53	22	69.7%
仙台市	若林区	六丁の目南町	1,048	488	1,028	494	98.1%
仙台市	若林区	若林3丁目	2,178	941	2,201	975	101.1%
仙台市	若林区	若林4丁目	947	458	931	467	98.3%
仙台市	若林区	若林5丁目	1,535	708	1,653	804	107.7%
仙台市	若林区	若林6丁目	735	320	714	323	97.1%
仙台市	若林区	若林7丁目	770	369	828	395	107.5%
仙台市	若林区	かずみ町	1,834	780	1,761	756	96.0%
仙台市	若林区	六丁の目元町	247	117	265	129	107.3%
仙台市	若林区	今泉1丁目	1,733	630	1,795	665	103.6%
仙台市	若林区	今泉2丁目	1,622	597	1,709	627	105.4%
仙台市	若林区	上飯田1丁目	1,994	790	1,981	796	99.3%
仙台市	若林区	上飯田2丁目	2,636	1,051	2,579	1,049	97.8%
仙台市	若林区	上飯田3丁目	2,445	939	2,512	959	102.7%
仙台市	若林区	上飯田4丁目	1,305	517	1,313	530	100.6%
仙台市	若林区	六郷	669	245	640	232	95.7%
仙台市	若林区	伊在	2,150	874	2,509	1,025	116.7%
仙台市	太白区	郡山	2,327	851	2,408	894	103.5%
仙台市	太白区	郡山4丁目	934	420	954	428	102.1%
仙台市	太白区	四郎丸	8,936	3,442	8,959	3,524	100.3%
仙台市	太白区	中田町	4,656	1,742	4,756	1,810	102.1%
仙台市	太白区	袋原	2,741	1,062	2,764	1,087	100.8%
仙台市	太白区	東郡山1丁目	580	245	573	255	98.8%
仙台市	太白区	東郡山2丁目	1,856	763	1,896	808	102.2%
仙台市	太白区	東中田1丁目	1,010	386	1,036	396	102.6%
仙台市	太白区	東中田2丁目	2,391	910	2,419	947	101.2%
仙台市	太白区	東中田3丁目	921	349	963	381	104.6%
仙台市	太白区	東中田4丁目	972	342	1,093	397	112.4%
仙台市	太白区	東中田5丁目	553	226	556	231	100.5%
仙台市	太白区	袋原1丁目	1,131	451	1,152	470	101.9%
仙台市	太白区	袋原2丁目	859	320	862	327	100.3%
仙台市	太白区	袋原3丁目	1,031	382	1,008	388	97.8%
仙台市	太白区	袋原4丁目	1,388	528	1,492	597	107.5%
仙台市	太白区	袋原5丁目	649	227	735	317	113.3%
仙台市	太白区	袋原6丁目	1,080	439	1,058	444	98.0%
名取市		増田字後島	176	47	165	48	93.8%
名取市		増田字猫塚	8	4	5	3	62.5%
名取市		下余田字中荷	589	191	584	195	99.2%
名取市		下余田字鹿島	116	36	105	34	90.5%
名取市		下余田字草倉田	188	51	190	54	101.1%
名取市		下余田字飯塚	222	70	217	70	97.7%
名取市		下余田字成田	88	24	82	24	93.2%
名取市		下余田字木戸	37	10	34	10	91.9%
名取市		下余田字原田	25	6	27	7	108.0%
名取市		杜せきのした3丁目	0	0	244	95	-
名取市		杜せきのした4丁目	0	0	77	31	-
名取市		杜せきのした5丁目	0	0	579	201	-
名取市		関上1丁目	655	230	283	116	43.2%
名取市		関上2丁目	890	308	259	111	29.1%
名取市		関上3丁目	353	123	110	49	31.2%
名取市		関上4丁目	748	267	285	121	38.1%

市	区	町丁目	H22. 3人口	H22. 3世帯数	H24. 3人口	H24. 3世帯数	人口増減率
名取市		関上5丁目	526	169	185	70	35.2%
名取市		関上6丁目	1,059	412	328	155	31.0%
名取市		関上7丁目	830	296	283	124	34.1%
名取市		関上字新鶴塚	100	41	51	24	51.0%
名取市		関上字仏文寺	89	29	77	28	86.5%
名取市		関上字昭和	81	25	47	14	58.0%
名取市		関上字庚申塚	27	8	18	5	66.7%
名取市		関上字東場	1	1	1	1	100.0%
名取市		関上字鍋沼	19	7	10	4	52.6%
名取市		関上字太子堂	63	19	76	24	120.6%
名取市		小塚原字遠東	87	84	44	44	50.6%
名取市		小塚原字汐入	27	10	19	8	70.4%
名取市		小塚原字東中塚	49	20	27	14	55.1%
名取市		小塚原字東遠泉	52	14	41	12	78.8%
名取市		小塚原字沢目	23	8	21	7	91.3%
名取市		小塚原字田中	44	12	35	10	79.5%
名取市		牛野	202	60	172	58	85.1%
名取市		大曲字藤木	145	52	146	54	100.7%
名取市		大曲字古館	24	5	20	5	83.3%
名取市		大曲字八幡	105	34	105	35	100.0%
名取市		高柳字辻	58	15	54	15	93.1%
名取市		高柳字中北田	32	9	32	9	100.0%
名取市		高柳字皇檀原	65	23	68	26	104.6%
名取市		下増田字広浦	109	36	60	18	55.0%
名取市		下増田字北原東	58	16	18	7	31.0%
名取市		下増田字台林	10	3	0	0	0.0%
名取市		下増田字鶴巻前	48	12	48	12	100.0%
名取市		下増田字耕谷	94	26	86	26	91.5%
名取市		下増田字六角前	26	6	26	6	100.0%
名取市		下増田字丁地	51	15	52	16	102.0%
名取市		下増田字西経塚	56	19	43	16	76.8%
名取市		杉ヶ袋字前沖	124	35	120	34	96.8%
名取市		杉ヶ袋字尻田村	108	25	100	25	92.6%
名取市		杉ヶ袋字新田北裏	57	15	55	15	96.5%
名取市		杉ヶ袋字懸向	39	10	28	11	71.8%
名取市		杉ヶ袋字寺野	21	5	12	3	57.1%
名取市		美田園	0	0	3,732	1,372	-

注：特定の世帯構成を判明させないため秘匿処理をしており、該当する町丁目の人口は「x」で表示している。

網掛けは人口が50%以上減少した町丁目。

資料：住民基本台帳人口(仙台市HP、名取市HP)

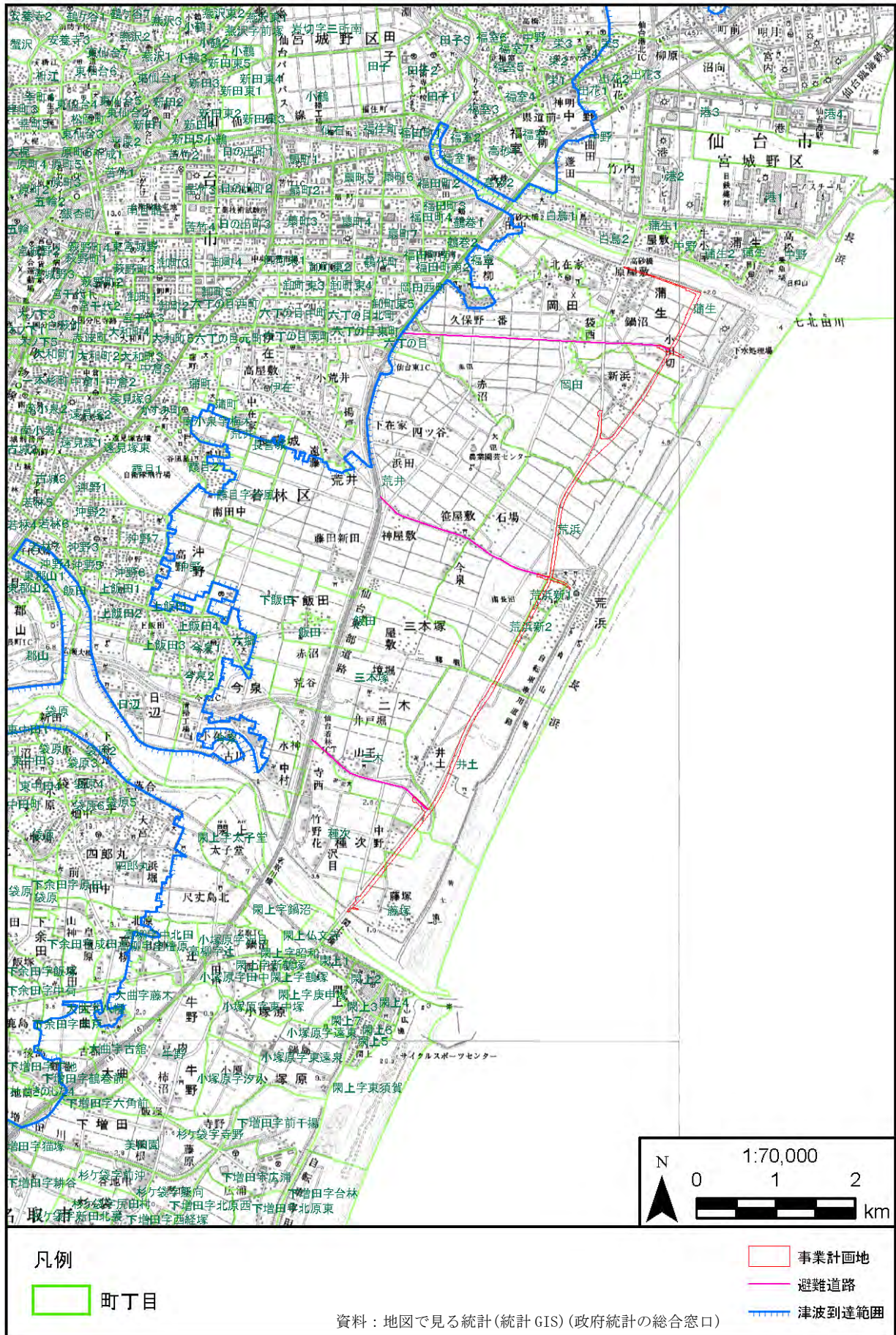


図 6.2.1-1 町丁目区分図

2) 産業

(1) 産業構造の特性等

概況調査範囲のうち、若林区の国道4号沿いには、青果物や鮮魚などを東北一円に供給する中央卸売市場、東北最大の規模を誇る卸商センターなどを中心に、卸売、運輸、印刷などの産業が集積し、本市の流通、工業の中核的機能を担っている（仙台市基本構想・基本計画平成23年3月より引用）。

また、宮城野区内の鉄道沿線を中心に、数多くの地区で区画整理事業による基盤整備が行われてきており、特に仙台駅東地区や仙台港背後地などでは、本市の都心や拠点となる地区を形成する新たなまちづくりを進めている。扇町・日の出町や仙台港背後地など、市内の工業系用途地域面積の約6割が宮城野区にある。特定重要港湾である仙台塩釜港は、貨物取扱量が年々増加しており、また同港の周辺地区は基盤整備や流通業務系の産業の集積が進み、都市圏北部の大規模製造業の立地等に伴い、さらなる発展が見込まれている。（仙台市基本構想・基本計画平成23年3月より引用）。

しかし、東日本大震災では、東部地域を襲った巨大な津波により農地や工業地域などは壊滅的な被害を受けた。また、本市全域にわたるライフラインの停止やガソリン等の燃料供給の寸断などが、企業活動に大きな影響を与えた。事業計画地は、震災前はほとんどが農地で地権者の多くは農業を営んでいたが、平成24年9月現在、一部を除いて営農していない。

区別の産業別従業者数の構成比をみると、全市と比較して宮城野区では製造業や運輸業、郵便業が多く、若林区では製造業や卸売業、小売業が多くなっている。

事業計画地は、ほとんどが農地で、地権者の多くは農業を営んでいる。

表 6.2.1-2 産業別従業者数

産 業（大分類）	全市		宮城野区		若林区	
	従業者数	構成比	従業者数	構成比	従業者数	構成比
農業、林業	514	0.1%	35	0.0%	97	0.1%
漁業	15	0.0%	6	0.0%	-	0.0%
鉱業、採石業、砂利採取業	28	0.0%	7	0.0%	-	0.0%
建設業	46,332	8.0%	9,536	8.0%	7,682	10.2%
製造業	21,878	3.8%	7,415	6.2%	4,642	6.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	5,299	0.9%	744	0.6%	239	0.3%
情報通信業	22,537	3.9%	4,757	4.0%	3,409	4.5%
運輸業、郵便業	38,136	6.6%	15,711	13.2%	7,161	9.6%
卸売業、小売業	143,135	24.6%	30,537	25.6%	25,018	33.4%
金融業、保険業	18,457	3.2%	2,275	1.9%	887	1.2%
不動産業、物品賃貸業	18,216	3.1%	3,158	2.6%	2,324	3.1%
学術研究、専門・技術サービス業	21,351	3.7%	3,617	3.0%	1,617	2.2%
宿泊業、飲食サービス業	53,976	9.3%	7,199	6.0%	3,555	4.7%
生活関連サービス業、娯楽業	23,957	4.1%	4,469	3.7%	2,222	3.0%
教育、学習支援業	33,664	5.8%	3,632	3.0%	2,205	2.9%
医療、福祉	51,668	8.9%	9,837	8.2%	5,127	6.8%
複合サービス事業	2,291	0.4%	334	0.3%	328	0.4%
サービス業（他に分類されないもの）	60,682	10.4%	10,863	9.1%	6,722	9.0%
公務（他に分類されるものを除く）	19,619	3.4%	5,227	4.4%	1,747	2.3%
全 産 業	581,755	100.0%	119,359	100.0%	74,982	100.0%

資料：平成21年 経済センサス-基礎調査報告（総務省統計局HP）

6.2.2. 土地利用

1) 現況の土地利用

概況調査範囲の土地利用は図 6.2.2-1 に示すとおり、広瀬川及び名取川の左岸は、平地部に市街地が広がっている。広瀬川の左岸は、国道 4 号の西側は市街地が広がり、国道 4 号の東側から仙台東部道路にかけて、扇町から六丁の目付近の国道 45 号一帯では産業系の土地利用がみられる。

福田、荒井、沖野、飯田地区と海岸部にはさまれた地区は農用地となっており、仙台東部道路仙台東インターチェンジの東側に、大沼、赤沼及び南長沼の湖沼群が点在している。

海岸部は、クロマツ林の植林の中に小規模のアカマツ群落や海岸線の北南端は蒲生、井土浦の干潟及び湿地が確認され、一帯が仙台湾海浜県自然環境保全地域に指定されている。

事業計画地を含む岡田地区から藤塚地区にかけては農業系を主体とした土地利用が行われていたが、東日本大震災で発生した巨大な津波により、集落や農地などは壊滅的な被害を受けた。平成 24 年 9 月現在、がれき処理は概ね終了し、復旧に向けて住宅の移転・再建事業や農地の除塩作業等が進められている。

2) 法令等に基づく用途区分の状況等

概況調査範囲における農業振興地域内の農用地区域の指定状況は、図 6.2.2-2 に示すとおりである。事業計画地周辺は一部を除き概ね農用地区域に指定されている。

また、概況調査範囲における市街化区域（用途地域）の指定状況は、図 6.2.2-3 に示すとおりである。事業計画地周辺は、市街化調整区域であり、用途地域は指定されていない。また、都市計画公園である海岸公園に隣接している。

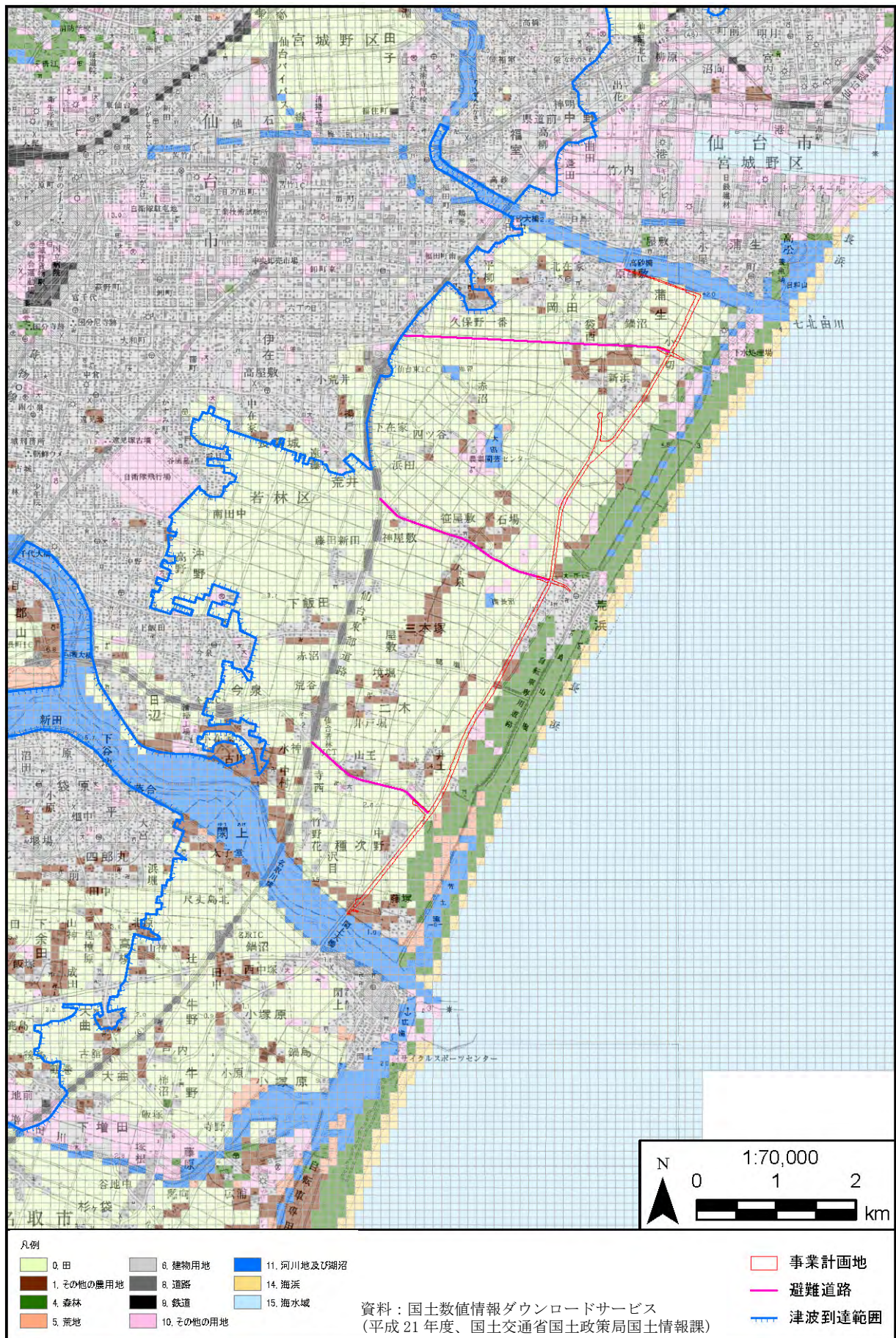


図 6.2.2-1 土地利用現況図

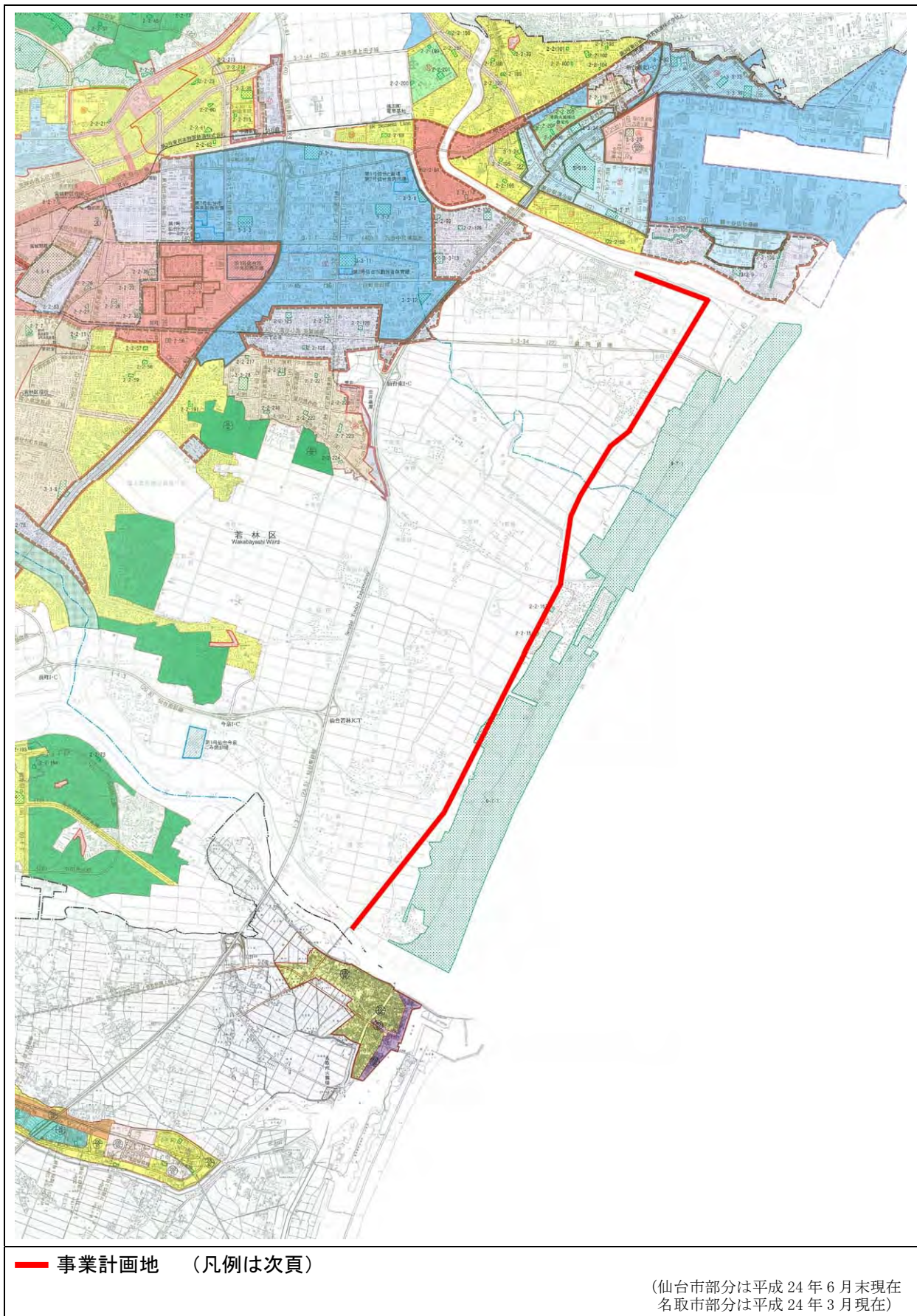


図 6.2.2-3 都市計画図

凡 例 LEGEND

		都市計画区域界 Boundary of City Planning Area				防火地域 Fire-Protection Zone	
		市街化区域界 Boundary of Urbanization Promotion Area				準防火地域 Quasi-Fire-Protection Zone	
用途地域		第一種低層住居専用地域 Category I Low-rise Exclusive Residential Zone		その他の地域地区		高度利用地区 High-Intensity Use District	
		第二種低層住居専用地域 Category II Low-rise Exclusive Residential Zone				最低限高度地区 Minimum Height District	
		第一種中高層住居専用地域 Category I Mid-to-high-rise Exclusive Residential Zone				都市再生特別地区 Urban Renaissance Special District	
		第二種中高層住居専用地域 Category II Mid-to-high-rise Exclusive Residential Zone				景観地区 Landscape District	
		第一種住居地域 Category I Residential Zone				風致地区 Scenic Zone	
		第二種住居地域 Category II Residential Zone				駐車場整備地区 Zone to Provide Parking Spaces	
		準住居地域 Quasi-Residential Zone				臨港地区 Port District	
		近隣商業地域 Neighborhood Commercial Zone				特別緑地保全地区 Special Green Space Preservation Area	
		商業地域 Commercial Zone			都市施設		都市計画道路 City Planning Road
		準工業地域 Quasi-Industrial Zone					駅前広場 Station Plaza
		工業地域 Industrial Zone					高速鉄道 Urban Rapid-Transit Railroad System
		工業専用地域 Exclusive Industrial Zone					都市計画公園 City Planning Park Area
		上段：容積率 下段：建ぺい率 Floor Area Ratio / Building Coverage Ratio					都市計画緑地 City Planning Green Area
							上記以外の都市施設注3 The Other Urban Facilities
特別用途地区		第一種特別業務地区（商業地域） Category I Special Business Zone		その他		土地区画整理事業 Land Readjustment Project	
		第二種特別業務地区（準工業地域） Category II Special Business Zone				市街地再開発事業 Urban Redevelopment Project	
		第三種特別業務地区（工業地域） Category III Special Business Zone				新住宅市街地開発事業 New Urban Residential Built-up Area Development Project	
		第四種特別業務地区（工業地域） Category IV Special Business Zone				市街地再開発促進区域 Urban Redevelopment Promotion District	
		第五種特別業務地区（近隣商業地域） Category V Special Business Zone				地区計画 District Planning	
		第六種特別業務地区（工業地域） Category VI Special Business Zone				行政区域 Boundary of Administrative Area	
		第七種特別業務地区（商業地域） Category VII Special Business Zone				区界 Boundary of Ward	
		特別業務地区（準工業地域） Special Business Zone					
		特別工業地区（工業専用地域） Special Industrial Zone					
		文教地区（第二種中高層住居専用地域／第二種住居地域） Educational District Zone					
		大規模集客施設制限地区（近隣商業地域／商業地域／準工業地域） Building Restrictions in Large Entertainment Establishments / Public Facilities District Zone		参考			

注1：第一種低層住居専用地域の容積率・建ぺい率で $\left(\frac{80}{50} \frac{60}{40}\right)$ 表示区域以外の区域は $\left(\frac{80}{50}\right)$ です。
 注2：近隣商業地域の容積率・建ぺい率で $\left(\frac{300}{80} \frac{200}{80}\right)$ 表示区域以外の区域は $\left(\frac{300}{80}\right)$ です。
 注3：下水道に関する施設を除きます。

6.2.3. 水利用

1) 漁業権の設定状況

概況調査範囲における公共用水域には、表 6.2.3-1 に示すとおり、漁業権が設定されている。事業計画地に係る水路には漁業権は設定されていない。

表 6.2.3-1 漁業権の設定状況

組合名	住所	漁業権が設定されている河川・湖沼	漁業の名称
広瀬名取川漁業協同組合	仙台市太白区郡山字南上河原7-2	名取川、広瀬川	あゆ漁業、こい漁業、ふな漁業、うぐい漁業、うなぎ漁業、おいかわ漁業、にじます漁業、いわな漁業、やまめ（さくらます含む）漁業
宮城県漁業協同組合仙台支所	仙台市若林区荒井字切新田12-1（仙台市農業園芸センター内）	井土浦（北貞山運河）	うなぎ漁業、しじみ漁業、えさむし漁業

資料：宮城県農林水産部水産業振興課資料
漁協への聞き取り調査

2) その他河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の状況等

(1) 河川の利水

概況調査範囲は、広瀬川の愛宕堰から取水した六郷堀、七郷堀などの農業用水路が整備されており、貴重な水辺のネットワークを形成している。

かんがい用水や環境用水は、七郷堀、六郷堀より、按配堀、高砂堀、仙台堀、大江堀、六郷堀、中日堀、中堀などに流れている。

事業計画地は、鍛冶谷地堀、落堀、桶筒堀、提灯堀、大堀、北長沼堀、二郷堀、日辺排水路等の農業用排水路や準用河川の井土浦川を横断している。

表 6.2.3-2 広瀬川の水利権

目的	水利権名称・管理者	取水期間：取水量(m ³ /s)
かんがい用水	愛宕堰・仙台市	4/25～5/9：7,425
		5/10～9/10：6,045
環境用水	愛宕堰・仙台市	10/15～4/25：0.3

資料：宮城県、仙台東土地改良区「名取川水系河川整備計画」（平成 22 年 2 月）

(2) 湧水

仙台市には、仙台城の御清水、仙台三清水とよばれた鹿子清水、山上清水等など、昔から豊富な湧水が存在している。現在も市民に親しまれている多くの湧水が存在するが、都市化の進行等により、既に消失した地点や、水量が減少した地点もある。

概況調査範囲には、湧水は存在しない。

(3) 温泉

概況調査範囲には、温泉（源泉）が 4 ヶ所（コロナ 6 号、仙台七郷温泉、伊達の湯、フ

エニックス源泉) がある。このうち、仙台七郷温泉は現在利用されていない。

事業計画地には、温泉(源泉)は存在しない。

(4) 地下水

概況調査範囲のうち、重点調査範囲における宮城県公害防止条例に係る揚水設備は、表 6.1.3-2 に示すとおりであり、農業用揚水設備が最も多く、次いで建築物の揚水設備となっている。事業計画地には、揚水施設は存在しない。

地下水の揚水量については、事業計画地南部の種次地区で 15 万 m³/年以上の三次メッシュエリアが分布している。

なお、一般世帯が保有する井戸について仙台市下水道経営部業務課に聞き取りを行った結果、震災前の平成 23 年 1 月時点で井土地区や二木地区、種次地区において井戸水を使用する世帯が多くみられた。

表 6.1.3-2 宮城県公害防止条例に係る揚水設備届出状況

種別	揚水設備の数
建築物	4
農業用	28
水道用	3

注：個人宅における揚水施設を含む
資料：仙台市への情報提供依頼結果による

(5) 水源地

概況調査範囲には、水源地は存在しない。

(6) 湖沼、海域の利用

概況調査範囲には、湖沼、海域の利用場所として、表 6.2.3-3 に示すとおり、蒲生干潟、深沼海岸、赤沼、大沼、井土浦、広浦がある。

事業計画地には、湖沼、海域の利用はみられない。

表 6.2.3-3 湖沼、海域の利用

No.	地区	地区の概要
1	蒲生干潟	七北田川河口左岸に発達した潟。バードウォッチングやサーフィン等に利用されている。
2	深沼海岸	仙台市内唯一の海水浴場。
3	赤沼	農地の中にある沼で、釣りなどに親しまれている。
4	大沼	農地の中にある沼で、釣りなどに親しまれている。
5	井土浦	名取川河口左岸に発達した潟。ヨシ群落等が発達している。
6	広浦	名取川河口右岸に発達した潟。ヨシが生い茂り、野鳥やトンボなどの姿が見られる。

資料：1, 2, 4, 5: 「平成 15 年度自然環境基礎調査報告書」(平成 16 年、仙台市)
6: 「なとり 100 選」(名取市 HP)、3: 現地踏査

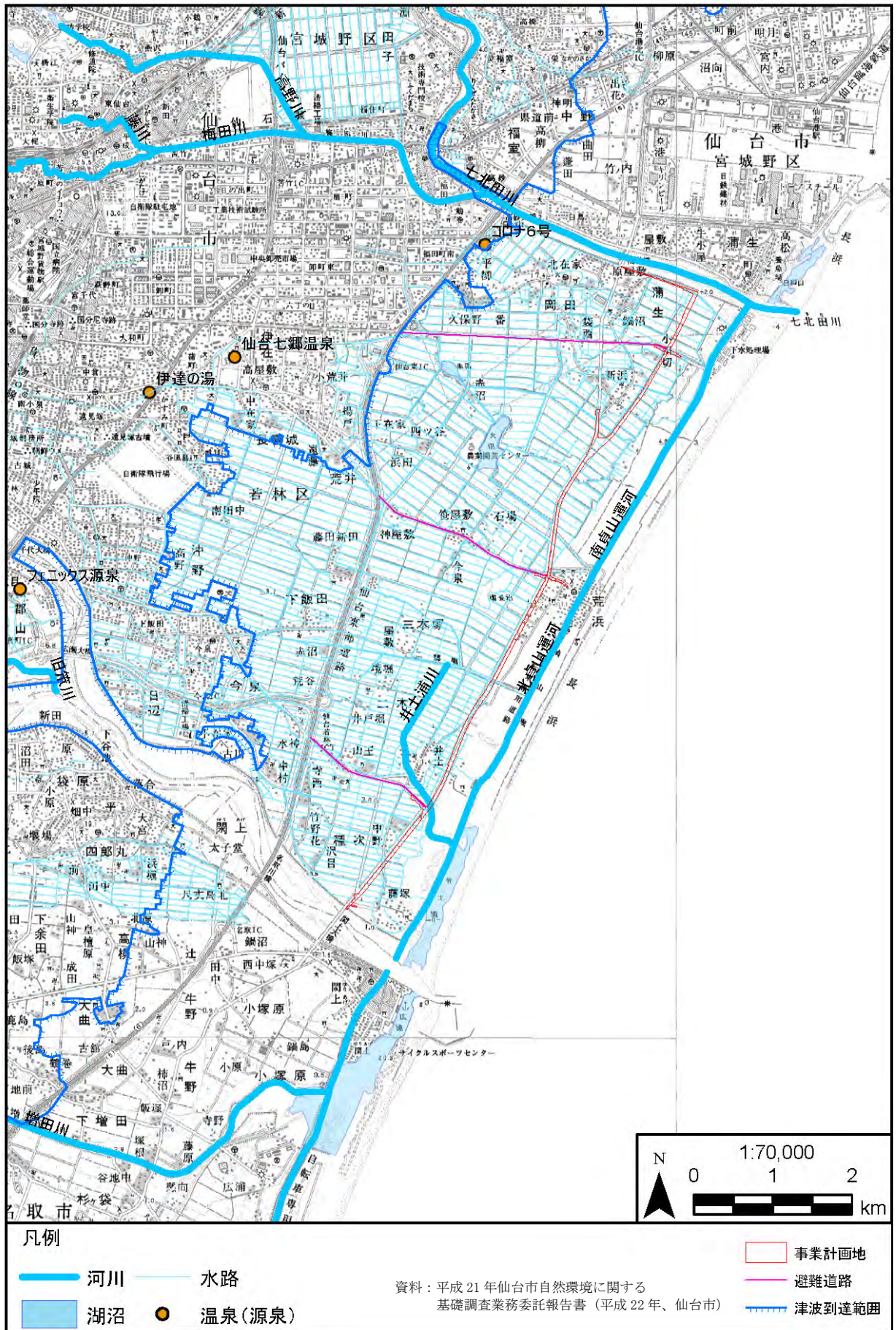


図 6. 2. 3-1 水利用の状況

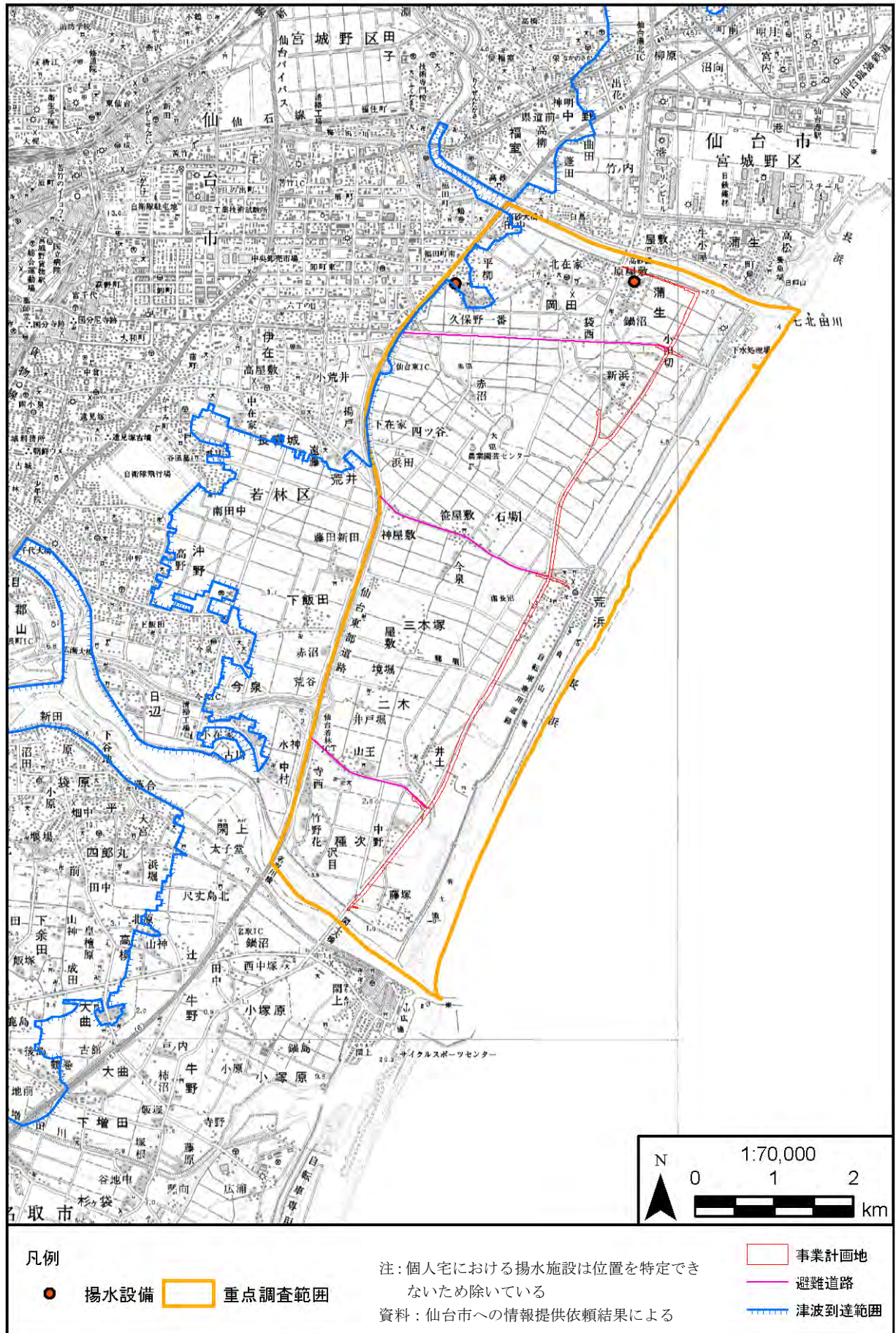


図 6.2.3-2 宮城県公害防止条例に係る揚水設備の分布図



図 6.2-3-3 地下水の利用状況

6.2.4. 社会資本整備

1) 交通

(1) 道路・鉄道等の交通網及びその利用の状況

a) 道路

概況調査範囲における主要な道路の状況及び交通量調査地点は図 6.2.4-1 に示すとおりである。交通量は表 6.2.4-1 に示すとおりである。

概況調査範囲における平成 22 年度の 12 時間交通量は、事業計画地沿いを通る主要地方道塩釜亘理線の岡田で 12,971 台、藤塚で 13,674 台、事業計画地へのアクセス道路である主要地方道井土長町線の上飯田で 6,629 台、市道南蒲生浄化センター一号線が接続する主要地方道仙台塩釜線の六丁の目で 34,863 台であった。

震災後の事業計画地に係る交通量の統計データは無く、現地調査を行って把握するが、震災後は復旧工事ががれき処理の大型車混入率が非常に高くなっていると推察される。

表 6.2.4-1 道路交通センサス 一般交通量調査（平成 22 年度）

路線番号	路線名	調査区間番号	交通量観測地点地名 市 区 町 村 丁 字 目	昼間 12 時間自動車類交通量			24 時間 自動車類 交通量 (台)	昼間 12 時間 大型車 混入率 (%)	平成 17 年 昼間 12 時間 自動車類 交通量 (台)	12 時間 交通量 伸率 H22/H17
				上下合計						
				小型車 (台)	大型車 (台)	合計 (台)				
4	一般国道 4 号	1002	仙台市若林区若林四丁目	48231	7336	55567	80572	13.2	55124	1.01
4	一般国道 4 号	1004	仙台市若林区御町五丁目	46959	7551	54510	75730	13.9	52651	1.04
6	一般国道 6 号 (仙台東部道路)	11034	名取 IC~仙台若林 JCT	15218	3252	18470	22504	17.6	16869	1.09
6	一般国道 6 号 (仙台東部道路)	11035	仙台若林 JCT~仙台東 IC	20167	6333	26500	33149	23.9	20723	1.28
6	一般国道 6 号 (仙台東部道路)	11036	仙台東 IC~仙台港北 IC	15450	3765	19215	23682	19.6	12791	1.50
45	一般国道 45 号	1010	仙台市宮城野区五輪一丁目	27631	2362	29993	41090	7.9	32332	0.93
45	一般国道 45 号	1011	仙台市宮城野区南目館	25761	2510	28271	39167	8.9	28088	1.01
45	一般国道 45 号	1012	仙台市宮城野区扇町一丁目	27435	5269	32704	44610	16.1	36341	0.90
45	一般国道 45 号	1013	仙台市宮城野区中野字柳原	27837	3010	30847	42750	9.8	27528	1.12
10	塩釜亘理線	4003	仙台市宮城野区中野字四反田	24784	3840	28624	36352	13.4	28618	1.00
10	塩釜亘理線	4004	仙台市宮城野区岡田字新浜中道	7534	5437	12971	18319	41.9	15692	0.83
10	塩釜亘理線	34029	仙台市若林区藤塚	8259	5415	13674	19166	39.6	14074	0.97
23	仙台塩釜線	4012	仙台市若林区六丁の目	30244	4619	34863	45725	13.2	32833	1.06
54	井土長町線	4028	仙台市若林区上飯田四丁目	6084	545	6629	8551	8.2	5921	1.12
127	杉ヶ袋増田線	66021	名取市杜せきのした五丁目	5222	341	5563	7065	6.1	3718	1.50
129	関上港線	6022	名取市関上二丁目	1889	175	2064	2621	8.5	2146	0.96
129	関上港線	6023	名取市下余田字飯塚	8871	1161	10032	12741	11.6	10874	0.92
137	荒浜原町線	6010	仙台市若林区大和町四丁目	27558	3348	30906	39869	10.8	26915	1.15

※調査単位区間番号が図 6.2.4-1 に対応する。

資料：平成 22 年度全国道路・街路交通情勢調査(道路交通センサス)一般交通量調査集計表（国土交通省 HP）

b) 鉄道

概況調査範囲における鉄道は図 6.2.4-1 に示すとおりであり、J R 東北新幹線、J R 東北本線、J R 仙石線、仙台空港鉄道の仙台空港線が存在する。J R 各駅の近年の利用状況は表 6.2.4-2 に示すとおりであり、小鶴新田、陸前高砂、中野栄が増加傾向を示しており、それ以外は横ばいもしくは減少傾向である。事業計画地と交差する鉄道は存在しない。

震災後の鉄道利用状況に係る統計データは無いが、J R 仙石線については、沿線の人口減少や一部区間のバス代行輸送に伴う利便性の低下により、利用客が減少しているものと推察される。

表 6.2.4-2 鉄道の利用状況（一日平均乗車人員）

駅名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
東仙台	3,351	3,270	3,277	3,253	3,159
宮城野原	5,580	5,478	5,701	5,772	5,648
陸前原ノ町	3,644	3,566	3,637	3,618	3,538
苦竹	2,502	2,414	2,407	2,384	2,420
小鶴新田	3,428	4,046	4,698	5,279	5,367
福田町	4,028	4,075	3,928	3,886	3,676
陸前高砂	4,603	4,670	4,671	4,849	4,859
中野栄	3,742	3,679	3,733	4,221	4,321

資料：仙台市統計書 平成 22 年版(仙台市 HP)

(2) 交通網の整備状況

概況調査範囲の交通網の整備状況は表 6.2.4-3 及び図 6.2.4-2 に示すとおりであり、仙台東部道路の西側で地下鉄東西線の整備が行われている。また、都市計画道路は平成 18 年から 5 年以内完成予定工区が 6 路線、5 年以内事業予定工区が 3 路線となっている。事業計画地付近に交通網の整備予定は無い。

表 6.2.4-3 交通網の整備状況

区分	路線名
鉄道	地下鉄東西線
道路(5年以内完成予定)	鶴ヶ谷仙台港線
道路(5年以内完成予定)	北四番丁岩切線
道路(5年以内完成予定)	川内南小泉線
道路(5年以内完成予定)	清水小路多賀城線
道路(5年以内完成予定)	路線名不明
道路(5年以内完成予定)	中田袋原線
道路(5年以内事業予定)	元寺小路福室線
道路(5年以内事業予定)	原町広岡線
道路(5年以内事業予定)	狐小路尼寺線

資料：仙台市総合道路整備計画(仙台市 HP)

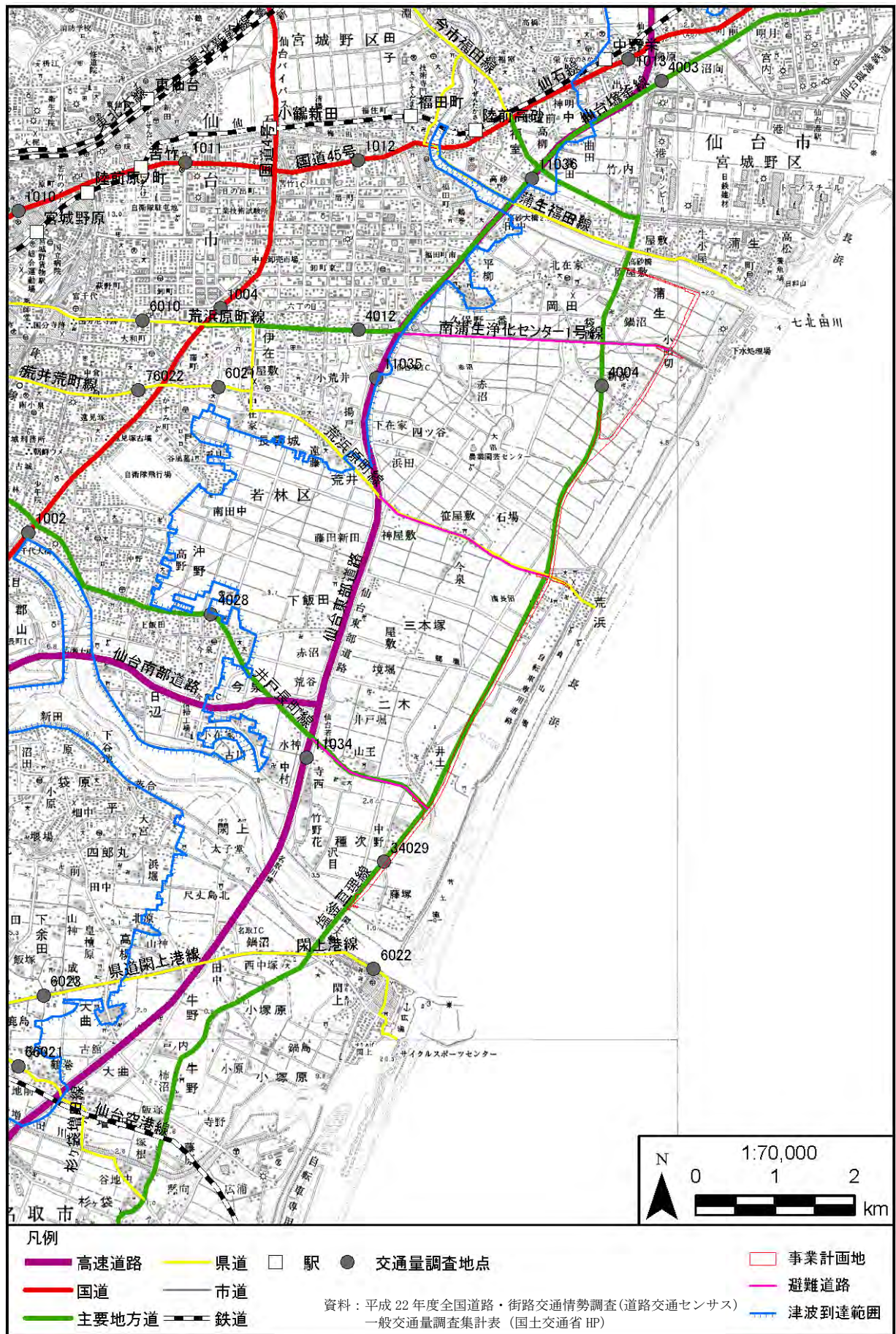


図 6.2.4-1 主要な道路・鉄道及び交通量調査地点

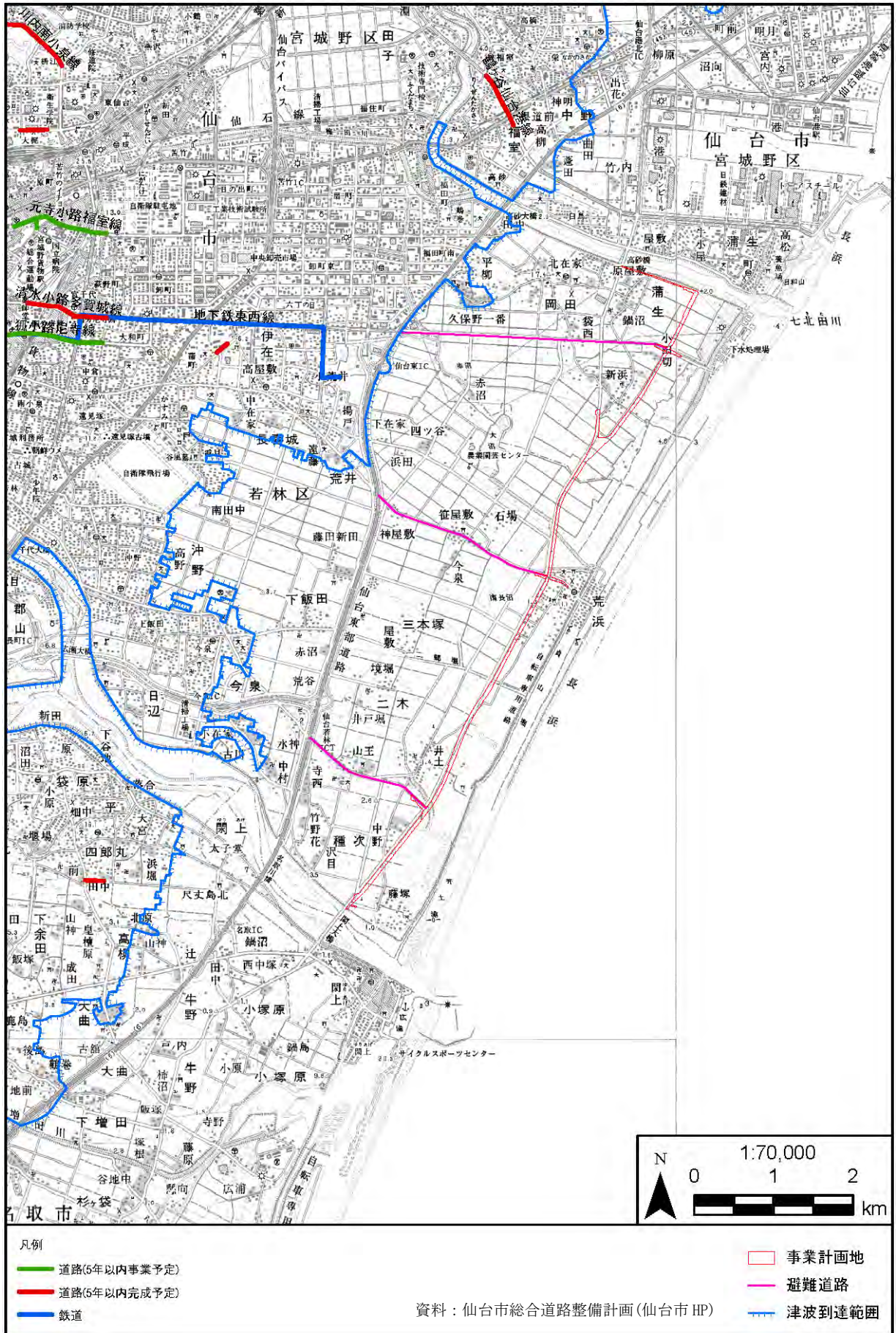


図 6.2.4-2 交通網の整備状況

2) 上水道・下水道

(1) 上水道・下水道の整備の状況

「仙台市水道局事業計画」（仙台市水道局 HP）及び「名取市水道ビジョン」（平成 23 年、名取市）によれば、概況調査範囲の全域が上水道の給水区域となっている。下水道の処理区域は図 6.2.4-3 に示すとおりであり、概ね市街化区域と岡田地区、荒浜地区が処理区域となっている。また、農業集落排水事業により、笹屋敷地区、藤田地区、四ッ谷地区、小在屋地区、井土地区、三本塚地区、下飯田地区、藤塚地区などが処理区域となっている。

事業計画地付近では岡田地区、荒浜地区、井土地区、藤塚地区が下水道の処理区域となっている。

震災により井土地区、藤塚地区の処理施設が被災しており、施設の応急処置による運転あるいは吸引車による汲み取りが行われている。

(2) 将来計画等

仙台市水道局の事業概要によると、平成 12 年の第 5 次拡張事業の完了に伴い、事業創設以来続いた建設拡張の時代を終え、水道水を安定的に供給できる体制がほぼ確立された。その一方で社会経済状況の変化や水道利用者の節水意識の定着などを背景として、近年の水需要は減少傾向となっている。このような背景により、平成 24 年度の配水計画は表 6.2.4-4 に示すように、年間総配水量 119,205,350 m³、一日最大給水量 369,900 m³となっている。

仙台市の下水道事業は平成 13 年に定められた「仙台市下水道基本計画」に基づいて進められている。「仙台市下水道基本計画」は、仙台市全体の計画である「仙台市基本構想」や「仙台市基本計画」を、下水道の仕事を通じて実現するために定められたもので、計画の目標年度を平成 32 年とし、これからの下水道が目指す方向性と目標を表 6.2.4-5 のように定めている。

表 6.2.4-4 上水道の配水計画

区分	単位	平成 24 年度	平成 23 年度	増減（△減）
		予定	決算見込	
年間総配水量	m ³	119,205,350	119,850,36	△645,010
一日最大配水量	m ³	369,900	366,640	3,260
一日平均配水量	m ³	326,590	327,460	△870
年間有収水量	m ³	109,321,150	108,138,360	1,182,790
有収率	%	91.7	90.2	1.5

資料：仙台市水道局事業概要(仙台市水道局 HP)

表 6.2.4-5 下水道が目指す方向性と目標

方向性	目標	施策
衛生的で快適な生活の実現	市域内全戸の汚水を処理し、未処理区域を解消する	汚水の適正処理の推進
雨に強い街づくり	52 mm/h の大雨（10 年に 1 回）に対して浸水区域の解消を図り、将来的には整備水準の向上を図る	総合的な雨水対策の推進
健全な水循環の形成	合流式下水道の未処理汚水の越流解消を目指し、段階的に越流量の削減を図る	合流式下水道における雨天時越流水対策の推進
防災機能の向上	大地震発生時における最低限の下水道の機能を確保する	耐震対策の強化
都市機能の維持	下水道の機能を永続的に確保する	施設の適切な運用 計画的な維持更新
循環システムの構築	循環型社会の構築に貢献する	資源・施設の有効利用

資料：仙台市下水道基本計画について（仙台市建設局 HP）



資料：仙台市の下水道施設（仙台市建設局 HP）
 名取市生活排水処理基本計画（平成 24 年、名取市）

図 6.2.4-3 下水道処理区域図